

岐阜大学夏期短期留学 サマースクール2011



LUND UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV. OF
SCIENCE & TECHNOLOGY



GIFU UNIV.



GRIFFITH UNIV.



MOKPO UNIV.

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

Summer School 2011 Report Contents

| | |
|----------------------------------|-----|
| 巻頭言 (Foreword) | 1 |
| 第一部 夏期短期留学 (受入) | |
| プログラムと日程 (Programs and Schedule) | 3 |
| 日本語授業 | 10 |
| 日本事情講義 | 12 |
| エクスカージョン | 15 |
| 工学部との交流授業 | 21 |
| 役員の先生方との昼食会 | 22 |
| 夏期短期留学参加者名簿 | 23 |
| ホームステイファミリー | 24 |
| 宿舎チューター | 27 |
| 宿舎チューター名簿 | 36 |
| サマースクール感想文 | 37 |
| 総括 (Summary) | 48 |
| アンケート集計結果報告 | 54 |
| 第二部 夏期短期留学 (派遣) | |
| グリフィス大学 | 58 |
| ソウル科学技術大学 | 79 |
| 短期留学 (サマースクール) 参加者アンケート | 96 |
| 岐阜大学夏期短期留学 (サマースクール) 担当者一覧 | 104 |
| 編集後記 | 105 |

本年度も、無事サマースクールが終了しました。今回は昨年までと違って、こうした報告をできることに、ひとしお感慨深いものを感じます。3月11日に起こった東日本大震災、それに伴って生じた福島第一原発事故による放射能汚染は、サマースクールにも影響を及ぼさざるを得ませんでした。学生が集まらないのではないかと危惧され、一時は中止もやむを得ない状況だったからです。しかし最終的には、ルンド大学（スウェーデン）から17名、木浦大学（韓国）から3名、合わせて20名の学生が参加してくれ、しかも、プログラムを滞りなく終了することができました。これまで参加してくれていた韓国のソウル科学技術大学（旧ソウル産業大学）から学生の参加がなかったのは残念でしたが。

プログラムは、これまでと同様、きわめて多彩なものでした。日本語の授業、日本事情講義（能、狂言の実演等）、エクスカージョン（美濃、土岐、相撲）、旅行（上高地・高山・白川郷）、郡上八幡でのホームステイ、工学部数理デザイン学科との交流会、そして、役員との昼食会等です。

これらのプログラムを通して、学生達は、日本語

を上達させ、日本の文化や自然に直接触れることができたばかりでなく、岐阜大学の学生達や地域の人々と直接交流を持つことができたものと思います。彼らが、サマースクールの経験を活かして、必ずや日本と母国との架け橋になってくれるものと確信します。

東日本大震災は、天災などの緊急時に留学生の安全をどう確保するかという課題を浮き彫りにしてくれました。また、日本経済が依然として低迷を続けるなかで、日本人学生の海外留学をどのようにして活発化させるか、これまでの留学生の受け入れ策をどうするかも、議論すべき重要かつ緊急の課題です。これらの諸点について、私たち留学生センターとしても議論を深めていきたいと思っています。

本年度もサマースクールを成功裡に終えることができたのは、ひとえに留学生センター及び留学生支援室の皆様をはじめとするサマースクールに関わってくれた岐阜大学の諸先生、事務の方々、学生達、そして、地域の方々のおかげです。これらすべての皆様に心から感謝の意を表したいと思います。



Foreword by Koji Kobayashi, Director, International Student Center, Gifu University

This year's summer school was completed safely and successfully. More than in previous years, I feel deeply moved to be able to inform you of the completion of the summer school this time, inevitably affected as it was by the March 11 Great East Japan Earthquake and the subsequent radioactive contamination resulting from the accident at the Fukushima No. 1 Nuclear Power Plant. At one time, we thought that we would have to cancel the summer school this year, because we feared that few students would be able to participate. However, eventually we had a total of 20 students participating this year, with 17 from Lund University (Sweden) and three from Mokpo National University (R.O.K.), and we completed the program successfully. I feel it was a pity that no students from the Seoul National University of Science & Technology (former Seoul National University of Technology, R.O.K.) participated this year, unlike in previous years.

This year's summer school program was also extremely diverse—it included Japanese language classes, Japanese cultural studies classes (live performances of *noh* and *kyogen* plays etc.), excursions (half-day excursion to Mino, half-day excursion to Toki, and an excursion to a sumo tournament), an overnight trip to Kamikochi, Takayama and Shirakawa-go, a homestay in Gujo, an interactive session with students from the Department of Mathematical and Design Engineering of the Fac-

ulty of Engineering, and a lunch party with senior staff.

I believe that this program enabled participating students not only to improve their Japanese language skills, but also to become familiar with the culture and landscape of Japan, as well as interacting directly with students from Gifu University and local people. I am sure that those students who participated will be able to use their experience during the summer school program as a bridge between Japan and their home countries.

The Great East Japan Earthquake has highlighted the issue of how to ensure the safety of international students in emergency situations such as natural disasters. Other important and urgent issues to be discussed include how to encourage more Japanese students to study abroad and what to do about our existing policies for accepting international students when the Japanese economy still remains sluggish. The International Student Center will discuss these issues in detail.

I attribute the success of this year's summer school to the efforts of everyone at the International Student Center and the Student Exchange Support Office as well as all the other people who supported the summer school program, including instructors, administrative staff and students of Gifu University and local people. I would like to extend my sincere gratitude to all of them.

第一部 夏期短期留学（受入）

プログラムと日程

留学生センター・准教授 土谷 桃子

岐阜大学サマースクール（受入、以下略）は、今回で24回目の開催、来年で四半世紀となる。

今年度は、その歴史が途切れるかという危機的な状況であった。2011年3月11日の東日本大震災、その後に発生した福島第一原発事故による放射能汚染により、参加者が集まらないのではないかという状況が、サマースクール開始1ヶ月前まで続いた。結果としては、幸いなことに、ルンド大学（スウェーデン）から17名が8週間コースに、木浦大学（韓国）から3名が4週間コースに参加し、今年度も無事開講することができた。例年3～5名の参加者を送っていたソウル科学技術大学（韓国、旧ソウル産業大学）からは参加者がなく、震災と原発事故の影響を受けたかたちとなった。よって、今年度の参加学生は合計20名となった。

今年度8週間コースは、6月6日（月）から開始し、8日（水）に開講式及びガイダンスを行なった。日本語授業等の実際のプログラムは、翌9日（木）から開始した。4週間コースは、6月29日（水）に開講式及びガイダンスを行なった。

プログラムには、以下の内容が盛り込まれた。後掲の日程表を参照願いたい。

1. 日本語授業：毎週月～木曜、1日2コマ（8：50～10：20、10：30～12：00）
2. 日本事情講義：全4回実施（講義内容：能の実演6／15、岐阜の自然・産業・生活7／5、狂言の実演7／6、相撲7／12、）
3. エクスカーション：美濃6／16、土岐7／4、相撲7／14
4. 旅行：郡上7／8～11、上高地・高山・白川郷7／21～22
5. その他：開講式、ガイダンス、工学部数理デザイン学科フレッシューズセミナーとの交流会（6／22）、役員との昼食会（6／30）、歓迎会（6／8）、まとめの会（7／27）、修了式・歓送会（7／27）等

それぞれの項目について、以下説明する。



日本語授業

昨年度教科書の変更等の大きな変更を加えた日本語授業だが、今年度は原則として昨年度を踏襲した。詳しくは、後掲の「日本語の授業」に譲るが、教科書『J. BRIDGE』（凡人社）を使用し、会話につながる初級終了から中級前半の文法の学習とグループで調べて発表するプロジェクト型授業を柱とした。

授業は、留学生センター専任教員2名、非常勤講師6名、計8名が担当した。

昨年度まで、教室探しに奔走したが、今年度からは留学生センター専用教室2室をサマースクール日本語授業に使用することができるため、その苦勞から解放された。昨年度有償で教室を借りなければならなかったことを思うと、大きな進歩である。教室にはネットを活用した調べ物が授業内にできるようOpen LANを備えたが、接続が安定していたとは



言い難い。しかし、昨年度までの状況を思えば、ハード面については数段の改善が見られた。

日本事情講義

日本事情講義は、今回は回数を4回とした。昨年度までであった「能と狂言」は、能の実演、狂言の実演の予習・復習として提供していたが、能・狂言関連の講義が多いとのコメントが昨年度あったため削った。その代わりに、講義とはいえないが、ホームステイを含む郡上プログラムの前に、事前連絡を兼ねてホームステイのマナーと注意事項を1講義分の時間を取って行なった。

本サマースクールの基本方針の一つである「本物に触れる」講義は、能、狂言について今年度も行なった。これらの講義は、毎年度実施を重ねるたびに、サマースクール参加学生だけに受講を限るには惜しいものだと考えていた。そこで今年度は、能の実演を留学生センター主催の「留学生と日本人学生のための能楽ワークショップ～見て、聞いて、体験して～」として6月15日（水）に開催し、広く全学から参加者を募ることとした。サマースクール参加学生



もちろん参加した。「能の実演」については、観世流シテ方味方團先生・同田茂井廣道先生、「狂言の実演」（7/6水開催）については、大蔵流狂言方山口耕道先生・同茂山良暢先生にご協力を賜った。

他2回の講義（「岐阜の自然・産業・生活」、「相撲」）は、留学生センター教員によるもので、毎年度参加学生に安定した評価を得ているものである。

エクスカージョン

岐阜という地域性を生かした「地域密着型志向」のエクスカージョン・旅行も、ほぼ定着してきた。今年度も以下の内容を提供した。

美濃エクスカージョン：午後からの日帰りプログラムで、浴衣の着付けと和太鼓体験を実施した。



土岐エクスカージョン：午後からの日帰りプログラムで、陶芸体験（轆轤及び絵付け）を実施した。

郡上プログラム：毎年度大好評の郡上プログラムは、今年度も郡上八幡国際友好協会はじめ郡上の皆様のご協力を得て、3泊4日で実施した。

大相撲名古屋場所観戦：昨年度も開催が危ぶまれた名古屋場所だが、今年度は5月の技能審査場所を経て7月の名古屋場所は通常開催となり、サマースクールプログラムに含むことができた。気持ちを引き締めた力士による熱戦が期待できる場所であった。

上高地・高山・白川郷旅行：岐阜県と隣県を回る1泊旅行である。昨年度参加学生から、行程がきつかったというフィードバックがあったため、内



容を一部削り余裕ある行程に微調整した。

地域密着志向を打ち出す上で、地域の皆様のご協力はなくてはならないものである。今年度も、美濃、土岐、郡上の自治体やボランティア団体の皆様には大変お世話になった。心よりお礼申し上げます。

その他

工学部数理デザイン工学科との交流会は、4回目を迎えた。昨年度までは学部1年生のフレッシュャーズセミナーの一部としての位置づけだったが、今年度は学年にこだわらない有志学生との交流会として実施された。

4週間コース学生が加わった後、役員の先生方とサマースクール参加学生との昼食会を催した。サマースクール参加学生と先生方が直接触れ合うことができる貴重な機会である。

7月27日（水）には、学生からのフィードバックを得るまとめの会、修了式、歓送会を実施した。修



了式の実施形態について再考が必要となったため、今年度は試行的にまとめの会に引き続き修了式を行ない、歓送会と別立てとした。

サマースクールの日程とプログラムは、毎年2月には自治体の皆様や学外講師の先生方に打診をし、内諾を得て作成し始めている。今年度は、内諾を得た後の3月に東日本大震災が起こり、サマースクールの開講が危ぶまれる事態となった。その段階で、学外の皆様に、もしかしたら今年度はサマースクールがないかもしれないという連絡をし、更に5月はじめにやはり今年度も開講可となったのでよろしく願いますという連絡を再度した。開講の有無が定まらない中、快くご対応くださった自治体や学外講師の先生方に心よりお礼を申し上げます。このような失礼とも言われかねない当方の申し出にご対応いただけたのは、これまで何年もかけて築いてきた信頼関係があったからこそであろう。サマースクールの歴史の重さを、別の面からも実感した今年度であった。

Programs and Schedule

Momoko Tsuchiya, Associate Professor, International Student Center

Gifu University Summer School, which was held for the 24th time this year, will reach its quarter century milestone next year. This year, we faced a critical situation that could have interrupted the history of the summer school. Initially, it was feared that very few students would participate in the summer school because of the impact of the Great East Japan Earthquake on March 11 and the subsequent radioactive contamination from the accidents at the Fukushima No. 1 Nuclear Power Plant. In the end, the summer school opened with 20 students, comprising 17 from Lund University (Sweden) participating in an eight-week course, and three from Mokpo National University (R.O.K.) participating in a four-week course. However, this year there were no students on the course from the Seoul National University of Science & Technology (former Seoul National University of Technology, R. O.K.), which had sent between three and five students to the summer school in each of the previous years.

The eight-week course commenced on June 6 (Mon), followed on June 8 (Wed) by a course opening ceremony and guidance session. The course opening ceremony and guidance session for the four-week course were held on June 29 (Wed).

The programs included Japanese language classes (Mon-Thurs), Japanese culture studies classes (four sessions), three excursions, two trips and other events including course opening ceremonies, an interactive session and a welcome party. An outline of the program is given below.

Japanese Language Classes

The Japanese language classes basically remained the same as in the previous year, which itself had undergone considerable change. As a textbook for the classes, *J. BRIDGE* (Bonjinsha Inc.) was used again this year. The Japanese language classes had two main features. The first was a fo-

cus on learning conversational grammar that would normally be taught between the end of a beginners' course and the first half of an intermediate course. The second was that the classes were conducted basically through a project work-based approach designed to allow students to do research and give presentations in groups.

The classes were delivered by a total of eight instructors: two full-time instructors from the International Student Center and six part-time instructors.

We have always scrambled to secure classrooms for the Japanese language classes until last year, but this year, two classrooms exclusive to the International Student Center were made available for the Japanese language classes during the summer school. These classrooms were provided with an open LAN to enable students to conduct Web searches in class. Although stable Internet connections were not always available, the classroom environment was a great improvement over previous years.

Japanese Culture Studies Classes

The number of Japanese culture studies classes was reduced to four this year. Based on one of the basic policies of the summer school, "Experience the authentic," classes involving live performances of *noh* and *kyogen* plays were held again this year. We had always thought that it was a pity that these classes were open only to summer school students, and so this year, to enable Japanese and International students to attend in addition to summer school students, the International Student Center decided to organize a live performance of a *noh* play in a session titled "Nohgaku Workshop for International and Japanese Students—Watch, Listen and Experience" on June 15 (Wed). Mr. Madoka Mikata and Mr. Hiromichi Tamoi, both *shite-kata* (principal actors) of the Kanze School were invited to be in-

structors at the workshop. A live performance of a *kyogen* play was also held in a session titled “Kyogen Play Live Performance” with the cooperation of Mr. Kodo Yamaguchi and Mr. Yoshinobu Shigeyama, both *kyogen-kata* (*kyogen* performers) of the Okura School.

The other two classes titled “Nature, Industries and Life in Gifu” and “*Sumo*” were held with lectures given by instructors from the International Student Center. These lectures have earned a solid reputation from participating students every year.

Excursions and Trips

Excursions and trips with a focus on the local characteristics of Gifu have almost become a standard. This year’s excursions and trips were as follows:

—Afternoon excursion to Mino: Experience wearing summer cotton kimono and playing traditional Japanese drums

—Afternoon excursion to Toki: Experience pottery making (shaping clay on a potter’s wheel and painting pottery)

—Gujo Program: The ever-popular trip to Gujo was successful again this year, largely thanks to the cooperation of the Gujo-Hachiman International Friendship Association and local residents of Gujo. The trip lasted four days and three nights.

—Trip to Kamikochi, Takayama and Shirakawa-go: Overnight trip in and around Gifu Prefecture. Based on feedback from last year’s students who said they found the trip schedule rather tight, we eliminated some items from the itinerary to make it less hectic.

—Excursion to the Nagoya Grand Sumo Tournament: At one stage it was feared that the tournament might not be held, but fortunately it went ahead as scheduled and we were able to include it in the summer school program.

Other Events

For the fourth time, an interactive session was held with the Department of Mathematical and Design Engineering of the Faculty of Engineering. Until last year, this session had been held as a part of

the Freshers’ Seminar and attended by first-year students from the department and summer school participants. However this year, the event was held as an interactive session between all interested students from the department and summer school participants.

After the four-week course students joined the summer school, a lunch party was held for senior staff and the summer school students. This was a valuable opportunity for senior staff and students to interact with each other directly.

In the final part of the summer school, the following events were held: a summary session to obtain feedback from participating students, a closing ceremony, and a farewell party.

Normally, we begin to finalize the summer school programs and schedules every February after obtaining informal consent from local governments and external lecturers. In March this year, after we obtained informal consent from the parties involved, the Great East Japan Earthquake occurred and at one time things were so critical that we felt that we might not be able to hold the summer school this year. In this state of uncertainty over whether the summer school would be held, local governments and external lecturers dealt with us sympathetically as the crisis developed. I would like to take this opportunity to express my deep gratitude to them. They were only too ready to accommodate requests from us that may have appeared to be almost rude, due to the relationship of trust built with us over the decades. This made me realize once again the significance of the history of the summer school.

2011年度夏期短期留学（サマースクール）受入日程

期 間 8週間コース [2011年6月6日（月）～8月2日（火）]

4週間コース [2011年6月29日（水）～8月2日（火）]

参加人数 20名 [内訳……ルンド大学 17名, 木浦大学 3名]

| 6月6日（月） | 6月7日（火） | 6月8日（水） | 6月9日（木） | 6月10日（金） | 6月11日（土） | 6月12日（日） |
|---|---|--|--|--|------------------------------------|----------|
| 学外研修施設 入居手続き | 学外研修施設 入居手続き | 8週間コース開始 開講式 カリキュラム等ガイ ダンス 歓迎会 | 日本語授業 1時限(8:50~10:20) 2時限(10:30~12:00) | | フリー | フリー |
| 6月13日（月） | 6月14日（火） | 6月15日（水） | 6月16日（木） | 6月17日（金） | 6月18日（土） | 6月19日（日） |
| 日本語授業 | 日本語授業 | 日本語授業 日本事情講義 1 13:30~15:00 「能の実演」 | エクスカージョン1 「美濃」 | | フリー | フリー |
| 6月20日（月） | 6月21日（火） | 6月22日（水） | 6月23日（木） | 6月24日（金） | 6月25日（土） | 6月26日（日） |
| 日本語授業 | 日本語授業 | 日本語授業 工学部数理デザイン 工学科との交流会 | 日本語授業 | | フリー | フリー |
| 6月27日（月） | 6月28日（火） | 6月29日（水） | 6月30日（木） | 7月1日（金） | 7月2日（土） | 7月3日（日） |
| 日本語授業 | 日本語授業 * 4週間コース 学外研入居手続き | 日本語授業 4週間コース開始 開講式・ガイダンス | 日本語授業 役員との昼食会 12:10~13:00 | | フリー 4週間コース 学生歓迎会 | フリー |
| 7月4日（月） | 7月5日（火） | 7月6日（水） | 7月7日（木） | 7月8日（金） | 7月9日（土） | 7月10日（日） |
| 日本語授業 エクスカージョン2 「土岐」 | 日本語授業 日本事情講義 2 13:30~15:00 「岐阜の自然・産業・生活」 | 日本語授業 日本事情講義 3 13:30~15:00 「狂言の実演」 | 日本語授業 郡上ホームステイ 事前説明 | 「郡上プログラム」 郡上のホストファミリーで7月11日（月）まで ホームステイ | | |
| 7月11日（月） | 7月12日（火） | 7月13日（水） | 7月14日（木） | 7月15日（金） | 7月16日（土） | 7月17日（日） |
| | 日本語授業 日本事情講義 4 13:30~15:00 「相撲」 | 日本語授業 | 日本語授業 エクスカージョン3 「大相撲」 | | フリー | フリー |
| 7月18日（月） | 7月19日（火） | 7月20日（水） | 7月21日（木） | 7月22日（金） | 7月23日（土） | 7月24日（日） |
| フリー （海の日） | 日本語授業 | 日本語授業 | エクスカージョン4 「上高地・高山・白川郷」 | | フリー | フリー |
| 7月25日（月） | 7月26日（火） | 7月27日（水） | 7月28日（木） | 7月29日（金） | 7月30日（土） | 7月31日（日） |
| 日本語授業 | 日本語授業最終日 | まとめの会・修了式 送会 | 学外研大掃除 | 学外研修施設退居 | 学外研修施設退居 | 学外研修施設退居 |
| 8月1日（月） | 8月2日（火） | | | | | |
| 学外研修施設退居 | 学外研修施設退居 | | | | | |

2011 Gifu University Summer School Schedule

8-week course 2011/6/6～8/2

4-week course 2011/6/29～8/2

20 students { 17 students (Lund University, Sweden)
3 students (Mokpo University, Korea)

| June 6 Mon | June 7 Tue | June 8 Wed | June 9 Thu | June 10 Fri | June 11 Sat | June 12 Sun |
|---|--|--|--|---|--|-------------|
| | | 8-week course starts Opening ceremony and Guidance Welcome Party | Japanese Classes starts 1st (8:50~10:20) 2nd (10:30~12:00) | | Free | Free |
| June 13 Mon | June 14 Tue | June 15 Wed | June 16 Thu | June 17 Fri | June 18 Sat | June 19 Sun |
| Japanese Classes | Japanese Classes | Japanese Classes 【Lecture 1】 Noh Demonstration (13:30~15:00) | Japanese Classes 【Excursion 1】 Mino City (Yukata and Wadaiko) | | Free | Free |
| June 20 Mon | June 21 Tue | June 22 Wed | June 23 Thu | June 24 Fri | June 25 Sat | June 26 Sun |
| Japanese Classes | Japanese Classes | Japanese Classes 【Exchange Class】 with Japanese Students | Japanese Classes | | Free | Free |
| June 27 Mon | June 28 Tue | June 29 Wed | June 30 Thu | July 1 Fri | July 2 Sat | July 3 Sun |
| Japanese Classes | Japanese Classes | Japanese Classes 4-week course starts Opening ceremony and Guidance | Japanese Classes 【Lunch Party】 with exective directors (12:10~13:00) | | Free 【Welcome Party】 for 4-week course students | Free |
| July 4 Mon | July 5 Tue | July 6 Wed | July 7 Thu | July 8 Fri | July 9 Sat | July 10 Sun |
| Japanese Classes 【Excursion 2】 Toki City (Pottery) | Japanese Classes 【Lecture 2】 About Gifu area (13:30~15:00) | Japanese Classes 【Lecture 3】 Kyogen Demonstration (13:30~15:00) | Japanese Classes | 【Gujo Program】 Dultural Experiences and Homestay (July 8~11) | | |
| July 11 Mon | July 12 Tue | July 13 Wed | July 14 Thu | July 15 Fri | July 16 Sat | July 17 Sun |
| 【Gujo Program】 | Japanese Classes 【Lecture 4】 About Sumo (13:30~15:00) | Japanese Classes | Japanese Classes 【Excursion 3】 Sumo Watching | | Free | Free |
| July 18 Mon | July 19 Tue | July 20 Wed | July 21 Thu | July 22 Fri | July 23 Sat | July 24 Sun |
| Free (National Holiday) | Japanese Classes | Japanese Classes | 【Trip to Kamikochi, Takayama and Shirakawago】 | | Free | Free |
| July 25 Mon | July 26 Tue | July 27 Wed | July 28 Thu | July 29 Fri | July 30 Sat | July 31 Sun |
| Japanese Classes | Japanese Classes | 【Feedback Meeing】 【Closing Ceremony】 【Farewell Party】 | | | | |
| August 1 Mon | Augst 2 Tue | Couse ends | | | | |

日本語授業

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

今年度の日本語コースも例年同様、8週間コースが先行し、途中から4週間コースが合流するというスケジュールで計画を進めた。今期の8週間コースはスウェーデンのルンド大学から15名の学生を受け入れた。事前に学生の日本語能力に関する資料を送っていただいております、その資料を基に2つのクラスの全体的な日本語レベルが均等になるようにクラス分けを行なった。また4週間コースは木浦大学から3名の学生を受け入れた。学生が3名なので、クラス分けをどうするか決めかねていたが、学生が来日後に話をし、2人と1人に分かれることになった。

教科書は、昨年度から初級終了レベルの『J. BRIDGE』（凡人社）を使用しており、今年度もこの教科書を使って、初級文法を使いこなすこと、学生の知的欲求を満たしながら自分の言いたいことを自分の言葉で話す機会を提供することに努めた。この教科書は、他の文法項目との連動を意識して聴解教材が作られていて、会話文のブランクに聞き取った言葉を書いていくディクテーション方式で授業が進んでいく方法がサマースクールの授業に合っていると考えた。昨年度の学生からは「たくさん聞いて考えるのが面白い」という意見があり、概ね好評であったので、今年度も使用することにした。

また昨年度からプロジェクトワークを取り入れており、毎日の授業の最後の45分を使い、だいたい1週間1テーマで、①テーマに関する項目や語彙の列挙、②ペアまたはグループで一つのテーマについて調べたり話し合ったりしながら口頭発表を準備、③口頭発表、という流れで進めた。今回のプロジェクトワークで取り上げたトピックは以下の通りである。

「みんなで作ろうプロジェクト」実施項目

(1) スウェーデンの町・有名人を紹介する

来日直後なので、自分達がよく分かっている自国の事柄について日本語で紹介してもらうことにした。

(2) 日本文化・日本人について調べる

来日目的の多くが「日本文化を学ぶ」ことであることから、それぞれの学生が日本や日本文化、日本人について何がしかの知識を持っていると考え、それを日本語で紹介してもらうことにした。

(3) 新しい言葉や文化について調べる

日本での生活にも慣れてきたところで、学外研にいる日本人チューターや大学内の日本人学生などにインタビューして、今の日本について調べてみる。

(4) 母国を日本人に紹介する

近く郡上八幡でのホームステイがある時期に合わせ、ホストファミリーなどに自国を紹介するための準備として設定した。実際に紹介文を作成（写真や絵を取り入れたものもあり）し、冊子を作成した。

(5) サマースクールでの経験を話す

郡上八幡でのホームステイが終わったところで、ホームステイの感想などを話しながら、これまでの留学を振り返り、日本での経験を話してもらうことにした。

(6) 日本での経験をまとめる

サマースクールだけでなく、週末旅行など各自の日本での経験すべての中で、印象に残った事柄を写真とともに取り上げ、原稿を作成し、発表。

このプロジェクトワークはある程度「調べる」ことが必要であるため、インターネット環境の整備が必要であった。昨年度は対応できなかったため、参加学生が調べ物のために大学の総合情報メディアセンターに行かなければならず苦労した。そこで、今年度は教室に無線LANでつなが



たPCを1台置き（自分のPCを持っている学生も無線LANが使用できた）、また必要があればプロジェクトの時間にメディアセンターに移動し、授業中に調べ物も同時に行なうことにした。十分ではないが、多少の改善はできたのではないと思う。

また、8週間コースの初日に「他己紹介」（自分を紹介するのではなく、誰かにインタビューをしてその人を紹介する）というタスクを行なった。例年は4週間コース合流の初日にも行なっていたが、韓国学生の人数が少ないこと、上記（4）の活動がお互いを知ることにつながると考え、「他己紹介」は行なわないことにした。

また今年度は新しい試みとして、サマースクール報告書の原稿作成と口頭発表を連動させてみることにした（上記（6））。サマースクールでは報告書に参加学生の感想などを掲載しており、日本語の授業の中でその作成を行なっている。今年度は単なる感想ではなく、「日本での経験」をクローズアップするために、今回の留学期間中に撮った写真の中から1枚選んでもらい、その写真について自身の留学経験をまとめたものを報告書に掲載することにした。

1枚の写真について書くという内容は以前にも行なったことがあるが、今年度はさらに、この写真と報告書の原稿を使い、写真と自身の経験を口頭でプレゼンテーションするというもうひとつのゴールを設定した。例年サマースクールでは、日本語クラスの最終日に口頭インタビューテストを実施しているが、今年度はこの口頭プレゼンテーションを評価の対象として最終日に発表してもらうことにしたのである。

サマースクール最終日に実施したアンケートでは、プロジェクトワーク及び写真を使った作文・口頭発表については概ね好評を得たが、メインの日本語授業及び教科書である『J. BRIDGE』については多くの問題点が指摘された。

多く挙げた意見の一つは「文法の取扱い」に関するものであった。この教科書は、既習文法を改めて説明するのではなく、状況や話題に応じて既習文法を使いこなすことに主眼があり、その意味で文法の説明や練習はあまり重要視されていない。この教科書に対する厳しい意見は、今年度の参加学生は文法に興味を持っている学生が多かったためではないかと推察する。また実際に授業を行なった印象としては、昨年度の学生に比べ、聴解練習（穴埋めディ



クテーション）も難なくこなしていたので、日本語のレベルも昨年度より多少高い学生だったのではないと思われる。

日本語授業の進め方について多く挙げた意見の一つは、「担当教師が多すぎる」というものであった。今年度は8名の教師が授業を担当した。サマースクールの授業は1コマ90分の授業を毎日2コマずつ行なっており、一昨年までは1限と2限で担当教師を変えて授業を行なっていたが、昨年度から、1・2限とも同じ教師が同じクラスを担当することにし、その週に担当したクラスとは違うクラスを翌週担当するという方法で授業を進めた。学生の側から見ると、毎日日替わりで8名の教師が授業を行なったということになる。この進め方は昨年度も同様であったが、「多すぎる」といった意見は出てこなかった。考えられることは、先に挙げた「文法の取扱い」と関連し、毎日違う教師が違うアプローチをしたことによる戸惑いがあったのかもしれない。

こうした問題点をきちんと指摘してもらえることは大変ありがたいと、こうした意見を踏まえ、来年度以降の日本語授業をどう進めていくかを考えていきたいと思う。

日本事情講義

日本事情講義①

能の講義・実演

留学生センター・准教授 土谷 桃子

観世流シテ方味方團先生・田茂井廣道先生による能の講義・実演は、2005年度からサマースクールの日本事情講義の一つとして、改善と工夫を重ねながら継続して実施してきた。先生方の魅力的なお話と学生を巻き込んでいく見事な手腕に魅了されながら、これをサマースクールの枠内に留めておくのはおいしいという気持ちが年々強くなっていた。そこで今年度は、参加者をサマースクールに限らず、学内の全学生が参加できる行事として実施してみようと決断した。

味方先生・田茂井先生を講師にお迎えし、6月15日（水）13：30～15：00、「留学生と日本人学生のための能楽ワークショップ～見て、聞いて、体験して～」と題した留学生センター主催行事（活性化経費（教育）採択事業：申請者留学生センター長小林浩二教授）を開催した。多くの留学生・日本人学生に参加してもらえるよう、会場も昨年度までのサマースクールで使用していた柳戸会館和室から、より広い医学部記念会館2階ホールに変更し、前日から舞台の設置、観客席の整備等を行なった。

参加者は、8週間コース参加のルンド大生17名を含む留学生76名、サマースクール宿舍チューター5名を含む日本人学生30名、教職員18名、合計124名を数えた。100名を超える参加者を迎えられたことは、主催者として大きな喜びである。

講義では、まず初めに、味方先生と田茂井先生による「石橋」の舞が披露された。参加者は正座で姿勢を正しながら静かに、そして



熱心に鑑賞した。次に、田茂井先生が能楽の600年の歴史について簡略に説明し、味方先生による実物を見せながらの能面の紹介に続いた。12、3歳の若い女性の面から、嫉妬のあまり頭に角が生えた般若の面まで、徐々に悲しみを知っていく女性の表情を、学生はときおり声を上げながら見つめた。

ワークショップは実技のパートに進む。田茂井先生による謡の指導では、参加者全員声を合わせて「高砂」を謡った。100名による「高砂」というのは、なかなか耳にする機会がないのではないだろうか。味方先生による所作の指導では、正座で疲れた膝を伸ばし、基本の構えの姿勢を学んだ後、歩き方（すり足）、泣き方、笑い方を練習した。壇上に上がって実演をしてみせた学生もあり、会場は笑いに包まれた。

ワークショップの山場は、毎年参加者の目を奪う能装束の着付けである。着付けモデルは、例年通りサマースクール参加学生から選出し、今年度はアウスティスさんが六条御息所に変身した。先生方の「近くに寄って写真を撮ってもいいですよ」という言葉に、舞台かぶりつきの位置にまでカメラ片手の学生が殺到した。般若の面をつけたアウスティスさんは、迫力満点だった。

講義終了後、装束や道具を片付ける先生方の傍らに数名の学生が歩み寄り、装束や面について口々に質問をしていた。先生方に丁寧に答えていただき、学生たちにとって何より代え難い経験になったと思われる。

サマースクールの枠を超えて全学の留学生・日本人学生に、日本の伝統文化の一端に触れる機会を提供したいという主催者の狙いは、ある程度達せられたと自負している。しかし、参加した留学生数に比



して日本人学生の数が少なかったのが、残念である。広報方法には改善の余地があると反省している。

今年度は、幸い活性化経費（教育）に採択され、舞台設営等の費用を捻出することができたが、来年度については未定である。今年度のような予算的な余裕がない場合、来年度はサマースクール参加学生に限ったこじんまりとしたワークショップに戻る可能性があるが、先生方からは、それでも全くかまわないという心強いお言葉をいただき、ただただ感謝申し上げるばかりである。

本講義に関連して、先生方には今年度も格別のご配慮をいただいた。7月31日（日）に京都観世会館で行なわれる「林定期」に、希望者を無料招待してくださるとのお申し出をいただいた。希望者を募ったところ、希望者数は、サマースクール参加学生およびチューターが計10名、その他の学生が10名の総勢20名となった。また、7月23日（土）に同所で行われる「面白能楽館」のご案内もいただいた。貴重な機会を学生に与えてくださった先生方に心からお礼申し上げたい。

このワークショップがなければ、もしかしたらこの学生たちは一生能楽に触れることがなかったかもしれない。今後も岐阜大学の、そしてサマースクールの大切な宝として、味方先生・田茂井先生にワークショップをお願いできれば何よりと考えている。来年度も能面や装束に目を輝かせる学生たちの顔が見られるよう、努力する所存である。



日本事情講義②

岐阜の自然・産業・生活

留学生センター長・教育学部教授 小林 浩二

本講義では、「岐阜の自然・産業・生活」を明らかにするため、1) 地形図をとおして地域の特色を把握し、2) スライドを利用して岐阜県の地域的特色を論じました。

1) では、手始めに、地図を利用して、原発事故の起きた福島第一発電所から岐阜市までの距離を測定させました。また、地形図から、岐阜大学及び学外研（学生達の宿泊場所）の位置・海拔高度、岐阜大学から学外研までの距離、金華山の海拔高度を読み取らせるとともに、岐阜市の立地の特色や発展状況、岐阜市の市街地が長良川によって南北に分断されていること、南北に長い市街地が形成されていること等を理解させました。

2) では、岐阜県が海拔0メートル地帯から、3,000メートルを越す山地に至るまで変化に富んだ自然環境を有していること、こうしたなかで、きわめて多様な生業や生活様式が営まれていることを、スライドを使って解説しました。

過去数回の講義から、平易な日本語で話すことが重要であることを実感しています。今年度の講義では、彼らに地図作業を課し、岐阜県の地域的特色を示す多くのスライドを用いました。できるだけやさしい日本語を使って講義したつもりです。

さて、学生達は、私の意図を理解してくれたでしょうか？



日本事情講義③

狂言の実演

大蔵流狂言方 山口 耕道

日本の伝統芸能「狂言」の講義を茂山良暢氏とともに担当した。まず正座、すり足にはじまり、小謡「盃」と狂言「末広がり」の一部を教えた。留学生たちは、とても大きな声で応えてくれました。

後半の狂言「寝音曲」の鑑賞は、笑いにあふれ大いに盛り上がった。最後に、狂言面「武悪」「乙」「空吹」の三面を間近で見てもらい、それぞれの代表的な動きを見せると、皆さん興味津々で、数人の人たちには実際に顔に当ててもらった。

狂言を通して、留学生の方々ととてもよい時間を過ごすことができました。



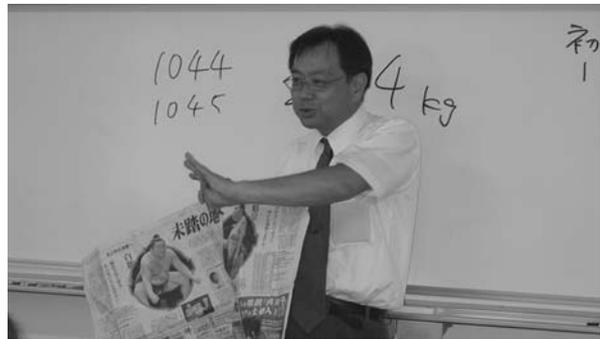
日本事情講義④

相 撲

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

「例年、名古屋場所観戦の前に相撲の歴史やルールなどを講義しているが、今年度は大相撲の不祥事が相次ぎ、果たして相撲講義ができるのだろうかというのが昨年度の報告書の書き出しであったが、今年度は本場所の開催が危ぶまれる事態となり、講義どころか相撲見学自体がなくなってしまう可能性があった。幸い、名古屋場所は通常通り行なわれることになり、学生達にとってはよかったと思う。

相撲の講義は、歴史、仕組み、ルールの3本立で行なったが、野球賭博、八百長といった不祥事の話はしなかった。その代わりに、相撲ののぼりの7割は岐阜の職人さんが作っているとか、今場所の2つのトピック（横綱白鳳8連覇なるか、大関魁皇の最多勝1046勝なるか）について説明した。学生達が見学したその日に魁皇関は最多勝を達成したので、よかったと思う。



エクスカーショ

美濃エクスカーショ

教育学部・教授
池谷 尚剛

小雨の煙る6月16日（木）の午後、サマースクールの Rund 大学生17名、日本語・日本文化研修留学生7名と引率2名の26名を乗せたバスは、浴衣の着付けと美濃小倉太鼓を体験する会場となる美濃市勤労者青少年センターに向けて岐阜大学を出発しました。プログラムの最初のエクスカーショということもあり、学生間の交流もまだ始まったばかりのようで、会場までの小一時間、バスの中では小声の会話でした。

しかし、会場に到着し、浴衣に着替える頃には、好奇心旺盛な明るい表情にかわり、お世話して下さい「せびあ会」の方々から「きれい」という楽しそうな言葉が飛び出すようになりました。浴衣の似合う学生さんの一方で、体格の良い学生の袖丈に合う浴衣選びは難渋し、やや「洋風」の着付けになってしまいました。

また、小倉太鼓の皆さんによる模範演技には圧倒された学生達でしたが、服部先生から「祭囃子」の楽譜を渡され、一節毎に練習していくことで、バチの捌きはたちまち上達していきました。1時間程の練習で会の皆さんと見事な合奏ができるまでになり、独演する学生も出てきて、写真のフラッシュと喝采とが会場を埋め尽くしていきました。

帰りのバスの中は、興奮冷めやらぬ学生達の声で満ちていて、このエクスカーショが良い体験になったものと確信しています。最後に、美濃市役所の島田利克課長さん、美濃市議会議員の森福子氏には、会場の手配や関係者との連絡・調整でたいへんお世話になりました。記して感謝申し上げます。



美濃エクスカーショ スケジュール

6月16日（木）

| | |
|-------------|---------|
| 12：30 | バス大学出発 |
| 13：20 | 美濃市着 |
| 13：30～14：00 | 浴衣着付け |
| 14：00～16：00 | 小倉太鼓体験 |
| 16：00 | バス美濃市出発 |



土岐エクスカーショ ン 多彩，多才

地域科学部・教授
粕谷 志郎

2011年7月4日，サマースクール土岐エクスカーショ
ンに同行しました。日本人学生がほとんどの，
普段の授業風景と違って，まず，色が目に入ります。
髪の毛，肌，目，色々です。衣服，これまた，
普段目にしない色が鮮やかです。たまたま居合わせ
た年配のご婦人が彼らを見て，「わー，フランス人
形みたい」と声を上げていました。「いえ，スウェー
デンです！」スウェーデンのルンド大学からの学生
が多数となり，スウェーデン色？なのでしょうか。

骨折のため松葉杖生活だった私に，「だいじょう
ぶですか？」と，真っ先に，微笑みながら声を掛け
てくれたのは韓国の女子学生でした。

いよいよ始まったろくろ体験，遠い昔に経験した
ような，おぼろげの記憶しかありませんが，指導員
の上手な教え方のお陰で，形になりました。学生達
の造ったものも多彩でした。徳利風に口をすぼめる
者，皿の縁を上手に細工する者，あっという間に完
成した者，周りも気にせずいつまでも粘り続ける
者。

続いて絵付け体験でした。私に，「何を画いてい
るのか」聞いてきた中国の男子学生。「槍ヶ岳です。」
と答えると，「日本で3番目に高い山ですか？」と
すかさず聞いてきました。「いや，3番目は奥穂高



岳だから，」，少々納得しない表情でしたが。山岳部
に入って登っているとのこと。「・・・安全」と四文
字漢字を書いていたスウェーデン男子。忍者に興味
があるという。よく聞いてみると，忍者哲学という
か，「精神」の部分に惹かれているよう。ひよっと
すると，日本人以上に日本人かも，と思ったりもし
ました。多彩，多才，喝采でした。



土岐エクスカーショ ン スケジュール

| | |
|-------------|----------------------|
| 7月4日（月） | |
| 12：30 | バス大学出発 |
| 14：00 | どんぶり会館着到着 |
| 14：15～16：45 | どんぶり会館にて轆轤・絵付け 体験 |
| 17：30 | どんぶり会館出発 |

大相撲名古屋場所観戦

名古屋場所を観戦して

医学部・教授
江崎 孝行

留学生とともに名古屋場所を観覧する機会を得た。学生時代柔道をやっていたので格闘技には興味があり、引率を要請されたとき二つ返事で引き受けて参加した。60年の自分の生涯の中で柔道や剣道の試合は数多く見に行ったが相撲の観覧は初めての経験だった。

名古屋城内に入ったのも学生時代に柔道の試合に参加したとき以来、ほぼ30年ぶりの入城だった。相撲協会が揺れる中で、名古屋場所の観覧席から見まわした会場は6～7割の観客しかいなく、国民の批判にさらされている現状を実感した。一戦一戦の勝負にどよめく館内の観客の反応はテレビでは味わえない臨場感があって、勝負に花を添えた。引退をまじかにした魁皇の取り組みでは、館内が割れんばかりの拍手で覆われた。テレビでアナウンサーが会場は割れんばかりの拍手ですと実況していたのを思い出し、これがそうなのだ納得した。

末席から見ると遠くにいる力士の表情は読み取れないが、力士の土俵上での全体の動きと館内の観客の反応を解説者になった気分で、末席からの観覧を楽しむことができた。力士が土俵に入るときの体全体のしぐさと戦いを終えて場内から去る時の姿勢を見ながら、力士一人一人の人生を重ねながら思いを巡らすひと時を経験した。



場内の相撲の興奮が留学生にどのように伝わるか時々学生の観覧の様子を観察してみた。反応はまちまちで個性豊かになった日本の若い世代と同じだと感じた。あるものは一戦一戦を食い入るようなまなざしで観戦していた。かといえ全く相撲に興味がなく、対戦には目もくれず友人との会話に没頭しているものもいた。中には観戦に耐えられないからここから出て名古屋城内を散歩したいといいます学生もいた。

幸い、私の近くにいた学生は相撲に興味があったようで、日本人の観客が声援を上げるのを見て、自分も負けじと大声を出して声援をしていた。

相撲の観戦一つを見ても個々の反応は多様である。昔の小学生の引率の先生なら静かに席に座って行儀よくしてみなさいと指導したかもしれない。私の学生時代は、授業中にあくびをしたり、寝たりするとチョークとげんこつが飛んできた。今は授業中に眠ったり、他のことに没頭している学生も日常的である。私は授業中に大事な場面で寝ている学生がいるとそばに行き、肩をたたいて“おはよう”と言うことにしている。

その時の学生の反応を見るのが面白いからである。あわてて申し訳なさそうに規律を正す学生がいたら、薄ら目を開けて眺めたかと思うと再び寝てしまう学生もいる。

そんな時、寝ている学生に眠たくなるような授業をするなと戒められている気がして、自分を恥じてしまう。“Mesmerizing speech”をしりと教えていただいた留学時代の恩師の指導もむなしく、今日もまた授業中に私の目の前で何かに疲れて深い眠りについている学生がいる。授業が終わり、反省の念仏を唱えながら還暦になっても未熟な自分に会話しながら帰路につく。



中部日本の自然と文化を巡る エクスカーション

上高地・高山と合掌造り集落への見学旅行

工学部・助教
松本 忠博

7月21日・22日、ルンド大学と木浦大学からの留学生20名の長野・岐阜・富山を巡る見学旅行に同行した。出発前日、東海地方に最接近した台風6号の影響が心配されたが、幸い両日もとまずまずの天気恵まれた。朝9時過ぎ、チューターの学生らが見送る中、観光バスは最初の目的地、上高地へ向かった。途中、ひろがの高原SAでガイドさんお勧めのアイスクリームを食べたりしながら、昼過ぎに上高地・大正池に到着した。大正池からは遊歩道を歩いて河童橋へ向かう。ガイドさんの旗を持って先頭を行くクリストファル、郡上で買った一本歯下駄に履き替えて、擦れ違う人々の注目を浴びるエーリク、遊歩道の自然を撮影しながらゆっくりと進むマティルダなど、それぞれのペースで目的地に到着。しばらく河童橋付近の景色を楽しんだ。2日目午前中は高山祭屋台会館を見学した後、高山陣屋、朝市、古い町並みなどを自由に散策した。午後は五箇山の大きな合掌造りの家屋を見学、民謡こきりこ節の実演には皆が興味深げにカメラを向けた。最後に白川郷・萩町の合掌造り集落を各自見学して二日間の日程を終えた。私自身初めて訪れる土地ばかりで引率には多少不安があったが、同行された留学生支援室迫さんのおかげで無事終えることができたと感謝している。



高山エクスカーション スケジュール

7月21日（木）

- 9：20 バス宿舎出発
- 12：30～15：30 上高地・大正池・河童橋（各自昼食）
- 17：00 高山市内ホテル到着（のち夕食・自由時間）

7月22日（金）

- 9：00 高山市内ホテル出発
- 9：10～12：30 高山祭屋台会館（のち各自自由時間・昼食）
- 14：00～15：00 世界遺産合掌造り家屋見学・村上家・民謡鑑賞
- 15：30～16：30 白川郷・萩町合掌造り集落
- 16：30 バス萩町出発

郡上プログラム

留学生センター・准教授
土谷 桃子

サマースクールの郡上プログラムは、郡上八幡国際友好協会と郡上市の全面的なご協力をいただき、毎年郡上踊りの踊り初めの週末に実施している。今年度は7月8日（金）～11日（月）の3泊4日でサマースクール参加学生は郡上の皆様にお世話になった。本報告では、初日に引率を担当した留学生センター土谷が、8日の様子について述べる。

朝8時10分に宿舎近くに集合をかけていたが、全員が時間前に勢揃いしていたのは素晴らしい出足であった。道路も空いており、順調に郡上に到着した。ちょうどこの日に、例年より10日程度早く東海地方は梅雨が明け、青空の見えるいささか暑いプログラムのスタートとなった。

まず、郡上八幡国際友好協会によるオリエンテーションがあり、引き続き書道体験に移った。事前に各学生に書きたい漢字一字のアンケートを取っており、それぞれがその漢字に真剣に取り組んだ。講師の松浦裕之先生は丁寧な一人一人を指導し、お土産としてそれぞれの漢字を書いた団扇をくださった。



昼食を取った後、八幡小学校に移動し、同校5年生との交流の機会を持った。今年度から英語学習が必修化され、同校でもALTを活用しながら英語教育を実施しているということで、小学生は緊張しながらサマースクール参加学生に英語で話しかけていた（参加学生には、小学校で英語を求められることを事前に話し、了解を得た）。英語での交流の後、日本の伝統的な遊び（だるまさんが転んだ）で遊んだり、郡上踊りを踊ったり、ドッジボールをしたり、暑い中汗だくになりながら十分に遊び、交流した。小学生から歌のプレゼントがあり、そのお返しとしてルンド大生はスウェーデン語のセーラームーンの主題歌、木浦大生は韓流アイドル少女時代のダンスのパフォーマンスを披露した。



次に遊童館に移動し、水野政雄先生の華麗な紙細工の技を堪能した。学生たちも折り紙や紙コップで飛行機や輪ゴム鉄砲を作り、しばし子どもに戻って歓声を上げていた。

郡上に来て郡上踊りをしないわけにはいかない。次に準備されていたのは、旧庁舎での郡上踊り講座である。講師の先生の丁寧な説明と何度も繰り返す練習によって、「かわさき」「春駒」は習得したようである。「三百」は難しく、最後までどうにも手足

がスムーズに動かない学生もいたが、全員講習の修了証をもらい、満足気であった。

しばらく休憩または散策のための自由時間を取り、いよいよ19時からレストラン「流響の里」でホストファミリーとの対面式を兼ねた歓迎交流会が催された。学生は、ホストファミリーの皆さん、郡上の皆さんの拍手が響く中、一列に並んで会場に入場する。緊張気味に自己紹介をし、ホストファミリーと対面する。もじもじしてなかなかホストファミリーと話せない学生、ホスト家族の子どもにあつという間に懐かれていいお兄さん、お姉さんになっている学生、それぞれである。例年のことながら、郡上の皆様への感謝の思いを強く感じるパーティーである。

歓迎交流会では、日吉神楽の実演があり、学生たちは度肝を抜かれたようである。また、郡上踊りのお囃子の実演もあり、生演奏で「かわさき」「春駒」を全員で踊るという楽しい経験ができた。翌日の踊り初めに備えてよいリハーサルとなったであろう。

翌日（9日）には、茶道と剣道の体験が予定されている。学生は翌日の再会を約しながら各ホストファミリー宅へと散っていった。月曜日まで無事に、そして郡上の皆様に迷惑をかけずに過ごすようにと祈りながら学生たちを見送った。

今年度は事情により留学生センター長が同行できず、郡上の皆様には大変申し訳なかったと感じている。また、3月の福島第一原発事故以降、各国の来日への懸念が強まり、今年度のサマースクールも5月初めまで開講の有無が決定できなかった。郡上の皆様は、このような中途半端な状況をご理解くださり、開講が決定すると、例年通りホストファミリーの募集、日程策定などご尽力くださった。心よりお礼申し上げます。

今年度の新しい試みとしては、プログラム前日の7月7日（木）に、郡上プログラム事前説明の時間



を取ったことがある。昨年度までは、注意事項や連絡事項は、郡上行きのバスの中で慌しく伝えていたが、今年度は1時間かけてプログラム内容、ホームステイ時の注意事項、ホストファミリーの発表を行った。学生からの質問に答えることもでき、このような説明の機会は必要であり重要だと認識を持った。

最終日の11日（月）、学生たちは楽しい思い出を抱えて郡上を後にした。ただし、今年度は天候に恵まれすぎたためか、かなり疲労の色が濃い学生が見受けられた。次年度は、郡上の皆様に相談申し上げながら、プログラム内容について検討させていただければと思っている。

事前説明の際に「ホームステイが終わってからホストファミリーにお礼の手紙やメールを出すこと」と学生たちに伝えたが、皆連絡をいただろうか。郡上の皆様への感謝を、われわれからだけでなく、学生自身からも是非伝えてほしいと強く思う。

郡上プログラム スケジュール

| | |
|-------------|-------------------|
| 7月8日（金） | |
| 8：25 | バス宿舎発 |
| 10：00～10：40 | オリエンテーション |
| 10：45～11：45 | 書道講座 |
| 12：00～12：45 | 昼食 |
| 13：15～15：00 | 八幡小学校生徒との交流会 |
| 15：15～16：15 | 紙細工講座 |
| 16：30～17：30 | 郡上踊り講座 |
| 17：30～18：30 | 自由時間 |
| 19：00～21：00 | ホストファミリー対面式・歓迎交流会 |
| 7月9日（土） | |
| 9：40～10：50 | 茶道講座 |
| 11：00～12：00 | 剣道講座 |
| 12：00～13：00 | 昼食 |
| 13：00～ | 各ホストファミリーと自由行動 |
| 7月10日（日） | |
| 終日 | 自由行動 |
| 7月11日（月） | |
| 9：30～10：30 | 反省会 |
| 10：30 | バス郡上発 |

工学部との交流授業

工学部数理デザイン工学科・教授 新田 高洋

6月22日（水）にルンド大学からのサマースクール参加生と数理デザイン工学科および数理デザイン工学専攻所属の学生との交流会が行われました。この交流会は数理デザイン工学科の学生の国際性涵養のために、2008年度から行われています。これまでの3回は、学部1年生の初年時教育科目であるフレッシューズセミナーの一環として行われてきましたが、今年度はフレッシューズセミナーとは切り離し、数理デザイン工学科および数理デザイン工学専攻所属の全ての学生から広く参加希望者を募りました。

交流会では、初めに緊張を解きほぐすためのゲー

ムを行ったため、和やかな雰囲気の中交流会がスタートしました。会話は5～6名程度のグループに分かれて行われました。今年度は上級生が多く参加していることもあり、落ち着いた雰囲気の中会話が行われていました。私自身も交流会中にルンド大学生から日本語についての質問を受けました。彼が日本語の電子辞書を片手に持ちながら興味津々に質問する姿に感心するとともに、彼らの向学心の強さに改めて驚かされました。

最後に、本交流会の趣旨にご賛同頂き、毎年貴重なご意見を頂いております。留学生センターの吉成先生、土谷先生やスタッフの皆様へ感謝致します。



役員の方との昼食会

留学生センター・准教授 土谷 桃子

今年度も、サマースクール参加学生と役員の方との昼食会を実施した。先生方にはサマースクールの様子を知っていただき、学生たちには学長をはじめとした先生方と交流することができる貴重な機会となっている。

今年度の昼食会は、6月30日（木）12：10～13：00、学内施設である柳戸会館1階の集会ホールにて開催した。多忙のなか、森学長、小見山理事、吉村理事、杉戸理事、水谷監事、戸田監事、岩間副学長、廣田副学長、林副学長の9名の先生方にご参加くださった。また、国際戦略本部から、速水教授、鈴木（徹）教授もご参加くださった。学生側は、前日にコースが開講したばかりの4週間コース参加学生3名を含む総勢20名全員が参加した。

昼食会は、サマースクール（受入）コーディネーター土谷が司会進行役を務め、今年度は東日本大震

災及びその後の福島第一原発事故の影響でサマースクールの開催が危ぶまれた等の経緯の説明を行なった後、森学長にご挨拶いただいた。その後は、準備された軽食と飲み物を手に、自由に歓談する時間を取った。最初は緊張をしていた学生も、徐々に先生方と話をすることに慣れ、途中からは会場のあちらこちらで笑顔も見られた。会の最後には、参加学生を代表して Lund 大学のオロフ君、木浦大学のミンジュさんが日本語でスピーチをし、その日本語と内容の両方で会の参加者の胸を打った。

お忙しい中、そして6月とは思えぬ厳しい日差しでの照りつける暑い中、参加くださった先生方に心よりお礼申し上げます。今後とも、岐阜大学の歴史あるサマースクールの継続と発展に、お力添えをお願い申し上げます。



夏期短期留学参加者名簿

| No. | 氏名 | 性別 | 国籍 | 出身大学 | |
|--|----|---|----|--------|-------|
| 8 週 間 コ ー ス (6月6日～8月2日) | 1 | アルクミュール ヘレーナ グニラ Alkmyr, Helena, Gunilla | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 2 | ベネディクトゥドッティル アウスデイスエッダ Benediktsdottir, Asdis Edda | 女 | アイスランド | ルンド大学 |
| | 3 | ビヤルグウォース アンニ エリーサベット Bjervas, Anni, Elisabet | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 4 | ファーゲルベリ ニルス フレドリック Fagerberg, Nils, Fredrik | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 5 | ヒュン クリストファール チードウング Huyhn, Christoffer, Chi Duong | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 6 | ハード エムンド アーサー Hard, Emund, Arthur | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 7 | ヨハンソン エリク グスタフ オスカル Johansson, Erik, Gustaf, Oskar | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 8 | クリングホルグ マルクス カールバルター Klingborg, Marcus, Carl Valter | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 9 | メイリッング マティルダ ヘレーナ Meijling, Mathilda, Helena | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 10 | ニルソン ネリー エヴェリナ Nilsson, Nelly, Evelina | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 11 | オルソン ロヴィーサ アンナ Olsson, Lovisa, Anna | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 12 | ペルソン サンネ ロビネ イサベラ Persson, Zanne, Robine, Isabella | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 13 | フー カミッラ イン ファン Phu, Camilla, Ging Hung | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 14 | セルリップ アレクサンデル カール マルクス Sellrup, Alexander, Carl Marcus | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 15 | ステーン イーダ マリア Stern, Ida, Maria | 女 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 16 | テディン オロフ ウィリアム Tedin, Olof, William | 男 | スウェーデン | ルンド大学 |
| | 17 | グイー エマ フルボ Vig, Emma Furbo | 女 | デンマーク | ルンド大学 |
| 4 週 間 コ ー ス (6月29日～8月2日) | 18 | チュ スヨン Choe, Suyeong | 女 | 韓国 | 木浦大学 |
| | 19 | キム ミンジュ Kim, Minju | 女 | 韓国 | 木浦大学 |
| | 20 | シン ソンミ Shin, Seon-mi | 女 | 韓国 | 木浦大学 |

* 「氏名」の記載は、Family name, First name, Middle name の順に記載しています。

ホームステイファミリー ～郡上から～

7月8日（金）から11日（月）まで、郡上市でエクスカージョンとホームステイを行いました（p.19参照）。現地でお世話になったホストファミリーの皆様が感想文を送っていただきました。

GIFAの3回目のホストファミリーを させて頂いて

河合慶子さん（関市）

今年は日本ではたくさんの尊い命を奪われた東日本大震災という、とても心痛む出来事があったばかりでなく、想像を絶する量の放射線セシウム流出で、スウェーデン・韓国の大学ではプログラムを中止の判断をされたそうですが、そんな日本の状況の中でも「日本へ行きたい！」と強い信念を持って、学生自らが学校側に働きかけたという話をお聞きし、今回の学生さん達は例年以上に「日本に来たい！！」という気持ちが強いという事を知り、とても感動したと同時にホームステイ側の私は正直言っていたように無く緊張してしまいました。

今年は、クリストファー（チー君）・アーサー（アサ殿）の19歳の男子学生を我が家へ迎えさせていただきました。

ウエルカムパーティーの時にクリストファーは「チー君と呼んで下さい。」と、とても人懐こく、すぐに心の距離が縮まりました。アーサーは、「拙者は…。」とか「…ござる。」という言葉で日本語での会話の中で頻りに使い、日本人の私でさえ馴染みが無く戸惑ってしまい、江戸時代にタイムスリップしてしまうほどでした（笑）。彼は日本語を学ぶ過程で時代劇に非常に興味を持ったということです。関の伝承館では刀の展示に目が輝いていたのが印象深かったです。

ゴルフの練習場へ行った時は、2人とも、休憩時間も殆ど入れず、あの暑い中シャワーを浴びたように発汗をしながらも二時間も打っている姿を観て、勉強もこんな風に頑張っているだなあ！と彼等の努力の姿勢が伝わってきましたし、私も彼等に負けなように頑張ろうと刺激をいただきました。

たまたまヤナセから招待状が来ていたので彼等に尋ねるとチー君のお父さんもベンツに乗っているらしく「行きたい！」と即答。アサ殿も賛成。とても驚いた事に、（スウェーデンでは）車を購入時には、税金が86%になるという事を聞き、つくづく日



本人で良かったと思いました。ヤナセの担当者の配慮でメルセデスの特注の扇子をいただき、彼等はともうれしそうでした。

二人は、今までに無く日本語のレベルがとても高く、主人はコミュニケーションがとても楽だと、とても喜んでいましたが、私は英会話を楽しませていただきました。

後藤 貴さん（高鷲町）

久しぶりにホストファミリーを引き受け私達家族も少しばかり緊張しました。でも、とても明るく優しいロビッサさんに私達もホッとすすぐに打ち解け合えました。

自然豊かなスウェーデンにとっても関心を持っていましたので、いろんなお話を聞かせていただきました。私どもの次女もいまニュージーランドの大学へ留学中、一時帰国しているので少しでも英語で話せるお友達が出来ればとも思っていました。ロビッサさんが来宅してくれて、我が家もいつも静かな時間を過ごしているのが、笑い声が広がり明るくなりました。

高山の街にも出かけ、あまり近すぎて出かけることのなかった古い街並みの散策、ソフトクリームを食べたり、日本食のお店で昼食を取ったり、楽しい

新しい家族

蒲 佑宇子さん（和良町横野）

和良小学校5年生 蒲 樹水（なお）

はじめて見た時、背が高くて美人だなんて思いました。お母さんは、いろいろ話していたけど、ぼくは、超はずかしかったです。

意外と日本語が上手で、ぼくより日本のことをたくさん知っていてびっくりしました。

いちばん心に残っているのは、和良の鬼谷川で遊んだ事です。ソンミが和良の川を好きになってくれたのでうれしかったです。

ソンミに作ってもらったトッポッキがとてもからかったけど、はまりました。ぼくが日本で知っているのとは味がちがいました。

ソンミは若いのに料理がとても上手でびっくりしました。

お別れの時はずごくさびしかったけど、「ットマンナヨ」なので楽しみです。ソンミにもらったカブトムシのキーホルダーはぼくの宝物です。

「ットマンナヨ」＝韓国語で「またあいましょう」を意味する言葉

おねえちゃんができた

和良小学校2年 蒲 樹心（なみ）

ソンミと、八まん城へのぼったことが、すごく楽しかった。みんなでかき氷を食べて気もちよかった。お城に入って、ソンミにだっこしてもらったので、八まんの町がいつもよりたくさん見られました。

おどりは私もはじめてでむずかしくて、ソンミとずっと手をつないで見ていました。夜店で金魚すくいをしました。ソンミに外国のお友だちをしょうかいしてもらって、はずかしかったけどうれしかったです。次の日は、サンプルのお好み焼きを作りました。本物みたいでソンミもよろこんでいたし、私も楽しくてうれしかったです。またソンミといっしょに来たいと思いました。夜はわたしのたん生日を

いっしょにいわってくれて、花火をしました。やさしいおねえちゃんができて、とてもうれしいです。ソンミが帰ったのはさびしいけど、こんどは私がかん国へあいに行きます。夜店の金魚は今も元気になっています。



宿舎チューター

初めてのサマースクールチューター

工学部2年 桐山 大輝

僕は今回初めてサマースクールチューターに参加してみました。その理由は、今まで外国人と話をすることがなかったため、いつかは自分から留学して外国に行ってみたいと思っていましたが、AIMS-GIFUで「サマースクールのチューター募集!!」と書いてあるのを見て、英語が苦手な自分でも日本語で交流することができる機会だとわかって、外国人と話せるいいチャンスだと思ったので、参加してみました。

始めは、緊張したのでなかなか上手く話しかけることができなかったけど、スウェーデンの人たちはすでに結構日本語が話せる人ばかりだったので、わりとすぐに雰囲気馴染むことができましたし、先輩チューターさんたちにもいろんなアドバイスをいただいたので、勉強になりました。

スウェーデンで行われるお祭りであるミッドサマーをやったときが、最もスウェーデンの食文化や伝統的な踊りが見られて、楽しかったです。踊りのときは、木で作った十字架の周りを回りながら、音楽に合わせてスウェーデンの学生たちの踊りを見よう見まねで踊りました。結構大変な踊りでした。

ご飯のときは、スウェーデンのすごく強いお酒を飲みました。かなり苦くて、自分はちょっと苦手

でした。

1ヶ月経って、韓国の人たちも合流し、ますますサマースクールは賑やかになりました。みんなでたこ焼きパーティーをしたり、カラオケに行ったり、ほんとに楽しい生活でした。そして、みんなで名古屋に行き買い物をしたり、ナガシマスパーランドへ行ったりしました。スウェーデン人の5人がスパーランドに行きたいと言ったので、ぼくは一応リーダーとしてみんなを連れて行ってあげるようになりました。前日から楽しみなのか、みんなは夜もなかなか寝ませんでした。なので、ちょっと寝不足気味だったけど、当日はなんとかみんな元気にジェットコースターに乗りまくっていて、すごく楽しそうにしていたので、僕もこの日は最高に楽しい思い出になりました。帰るときにも「また、連れてってください。」と言われたときは、本当に嬉しくて、連れてきて良かったと思いました。

この2ヶ月間、サマースクールのチューターをやってみて、普段なかなか体験できないことができたし、それによっていろんな人たちと出会って、得るものはたくさんありました。今度は自分が英語をもっと勉強して、いろんな国へ行って、たくさんのかを学べたらいいなと思います。

サマースクールを終えて

地域科学部3年 藏本 沙和

2011年のサマースクールは今年3月の地震のため、開催されるかがあやぶまれました。けれど、無事開催でき、また今年も楽しい楽しいサマースクールを送ることができて、本当によかったと思います。

私たち三カ国は今まで住んできた環境も受けてきた教育も違います。

常識であると思っていたことが常識でないことがあります。考え方の相違で、お互いにいやな思いをしてしまうときもあります。けれど、それぞれの国々



の文化をうけいれること、また知ることはとてもおもしろい事だとも思います。サマस्क生は、このサマースクールで日本語や、日本文化を学びに来ました。陶芸や和太鼓をしたり、郡上で踊りも体験しました。そして日本の伝統芸能である能や狂言も体験する機会もありました。日本料理もたくさん食べたし、カラオケもよくしました。サマस्क生のもみな楽しんでくれていたと思います！カラオケではセーラームーンの歌を一緒に歌い、スウェーデン語版のセーラームーンも歌ってくれました！小さい頃に、あんなに離れた国だけど同じアニメを見ていたと思うと、世界って案外狭いな、って思いました。

またそれだけでなく、私たち日本人にサマस्क生は色々な事、例えば料理や生活習慣などを教えてくれました。辛い辛い韓国料理を食べることができたし、臭い魚やミートボールを食べることもできました！辛かったけど、臭かったけど…とっても美味しかったです。ありがとうございました！私は今年で2年目のチューターでしたけれど、またたくさんの新しいこと、おもしろい事を知ることができました。これもサマスクのみんなのおかげです。ありがとうございました！

そして時に困難さを伴う常識さえ乗り越える力を持っている、その常識を破る力をもっているのがサマースクールです。

私は今年のサマースクールでは主に土日に学外研に滞在することが多く、土日は授業がないため、パジャマのままでいることがあり、だんだんパジャマが正装となっていき、「パジャマパーティー！」と称してパジャマで一日すごし、パジャマでバローで

買い物をした経験はいろいろな意味で忘れられない思い出になりました（笑）。また正装（パジャマ）でパーティーしよう！パジャマ＝家着と思っていた常識もサマースクールでは常識ではなくなるみたいです（笑）。

いえ、申し訳ありません。今あげたものはたいた常識でもないし、ただ怠け者だったからです。けれど考え方のちがう人達と共に生活していくことによって、自分自身の考え方にも幅ができるようになりました。そして色々な常識を、文化を知ることができることはとてもおもしろい事だと思えるようにもなりました。常識だと思っていたことも破ってみると案外なんでもないなっことも実感できました。ありがとうございました。

私は今年サマースクールのチューターのリーダーであったこともあり、みんなをまとめ、引っ張っていかなくてはいけない立場でした。しかし、その役割を満足に果たすことができたとはいえ、よく他のチューターに迷惑をかけてしまいました。大変な時もあっただろうけど、いやな顔せず引き受けてくれて本当にありがとうございました。助かりました！！男子のみなさんも今年女子がとっても多くて、大変なこともたくさんあっただろうけど…どうもお疲れ様でした！男手って大切だなって実感しました。ありがとうございました。

最後になりましたが、サマースクールが開催され、参加することができ本当によかったです。お世話になりました先生方、関係者の皆様本当にありがとうございました。

初めてのサマースクール

教育学部1年 小柳 麻奈未

私は今回初めてサマースクールに参加させていただきましたが、本当に充実した日々でした。2か月間と聞くと長いようですが、私にとってはあっという間に過ぎた2か月間でした。最初は知らない外国人と仲良くなれるか、サマースクールに参加しているみんなを楽しませることができるか、とても不安でした。しかし、久しぶりに会うとサマースクール生のみんながいつも名前を呼んで声をかけてきてくれて、温かい気持ちになれました。不安もすぐになくなり、日を重ねるごとにみんなと仲良くなれた気がします。サマースクール生の笑顔を見ることが、とても幸せでした。別れるときには本当の家族や兄弟のようで悲しかったですが、みんなからもらったメッセージや、サマースクールの楽しい思い出を大切にしながら、またみんなと会うことを楽しみにしていようと思います。

サマースクールでは焼き肉パーティーやカラオケ、浴衣パーティーや名古屋観光などいろいろなイベントがあります。そのなかでも、私にとって印象的だったミッドサマーについて書きたいと思います。ミッドサマーはスウェーデンのみんなが先生方やチューターのためにスウェーデンの伝統的な料理をつくってくれたり、歌やダンスをいっしょにしたりと、とてももりだくさんの1日でした。何よりも私たちのために、みんなが一生懸命にミッドサマーの準備をしてくれたことがうれしかったです。まずスウェーデンの伝統的な料理は、料理担当のみんな

の力作でとてもおいしかったです。またご飯を食べていると、「おいしい？」と聞いてくるみんながとてもかわいらしかったこともよく覚えています。おいしいご飯を食べた後は、外に行ってみんなでぴよぴよはねて踊りました。暑い日だったので汗をかきながら、でもみんな笑顔で楽しく踊っていた光景が今でも思い出されます。ミッドサマーは日本にはない行事だったので、新鮮でとても楽しいものでした。

サマースクールではスウェーデンや韓国の人々と仲良くなることはもちろん、他のチューターとも仲良くなることができます。特に私にとってチューターの先輩方の存在は、とても大きいものでした。サマースクールが初めてでどうやってみんなと仲良くしていいのかわからないわたしが、ここまでみんなと仲良くなることができたのも、すてきな先輩方のおかげです。サマースクール生のことを第一に考え、みんなを楽しませていた姿は本当にかっこよかったです。みなさんに会えて、良かったなあと心から思います。チューターのみなさんが私は大好きです。

最後にサマースクールを支えてくれた先生方、留学生センターのみなさん、そして幸せな思い出をいっぱいくれたサマースクール生のみんなには感謝のきもちでいっぱいです。こんな充実したすてきな体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

3年目のサマスク

応用生物科学部3年 坂井 悠里

3年目のサマスク、また目が回るほど忙しく、おかしくて楽しいサマスクの季節がやってきました。私の大学生活の中で、サマスクはもうなくてはならない存在になっています。今年はサマスクの中心である3年生として、またリーダーさわを支えるサブリーダーとして、サマスクを引っ張っていきたいという思いが強かったと思います。ただ戸惑っていた

1年目、ただ楽しかっただけの2年目、そして今年は、やっと先輩たちの苦勞や、それゆえの達成感が分かった気がしました。下の学年の子たちに、チューターの仕事覚えてもらうこと、チューターの役割を伝えること。初めは「やらなくちゃ」、「どうしてうまくいかないんだろう」と焦っていました。一番大切な、「『サマスクがどんなに楽しくて、サマスク

生がどんなに仲良しでかけがえのない存在になるか』を、だんだん下の子に知ってもらうこと」が抜けていました。そんなことを心配しなくても、みんな2カ月後には頼もしいチューターになっていました。

3年間サマस्कチューターをしてきたけれど、どの年も決して同じことなんかなくて、みんなちがってみんなかけがえのない思い出です。今年は、みんなで助け合ってできたサマस्कだったと思います。サマस्क生もイベントの準備をよく手伝ってくれま

した。新人チューターもすごくよく頑張ってくれて、大助かりでした。4年生の先輩は、私がいろいろ失敗しても温かく見守り、的確な助言をたくさんくれました。

毎年、後悔や反省はなくならないけど、終わってみるとほんわり温かくて懐かしいサマस्क。そんなサマस्कに今年もチューターとして関わられて、幸せでした。こんな時間を、私も、他のチューターも、そしてサマस्क生も、一生忘れないでしょう。ありがとうございました。

サマースクール報告書

医学部1年 中村 織衣

私は、AIMS-GIFUでサマースクールのチューターの募集を見て、すぐに応募しようと思いました。なぜなら、やらないと絶対損をすと思ったからです。今、サマースクールが終わって、サマस्क生と他のチューターから書いてもらったメッセージを読んで、本当に参加できてよかったと思います。大変ではありましたが、大変だったからこそ充実していたのではないかと思います。

最初、私は、少し人見知りなので、サマस्क生や、他のチューターと仲良くできるかとても不安でした。でも、だんだん一人ひとりと話をしたりして、みんなと仲良くなることができました。

私がサマースクールで最初に一番驚いたことは、サマस्क生が、会話にはほとんど支障がないくらい、日本語がペラペラだったことです。サマस्क生に話を聞いてみると、1年間や2年間ほど勉強しただけなのに、びっくりするくらい日本語が上手ですごいなと思いました。きっと一生懸命勉強したのだと思います。

4週間コース歓迎パーティーの時は、料理の経験が少なかったため、他のチューターの方々に配慮していただき、手巻き寿司を担当させていただきました。サマस्क生や先生方、チューターなどとても多い人数のため、ごはんをどのくらいの量を用意すればいいかが難しかったです。また、刺身に雑菌が繁殖してしまわないようにも気を付けました。また、4週間コース歓迎パーティーの時には、8週間コースが始まってすでに4週間が経過していたので、韓

国からのサマस्क生がみんなと仲良く溶け込めるか心配していましたが、そんな心配は全然ありませんでした。韓国の子たちは、とてもフレンドリーですぐにみんなと仲良くなっていました。もちろん私もです。

チューターの先輩方はとてもたくさんのイベントを企画してくださいました。誕生日の子がいたときには、サプライズでとても大きなケーキをローコストで手作りしました。誕生日の子は本当に嬉しかったと思います。それに、人を喜ばせることは喜ばせる側も楽しい気持ちになれると思いました。

外国の人たちが、日本の文化に興味を持ってくれて嬉しいと思うと同時に、自分も能や狂言を鑑賞したり、浴衣を着て流しそうめんをしたり、七夕をしたり、日本人でありながら、なかなか経験しないことを経験できて、日本の文化を見直すきっかけになりました。

スウェーデンや韓国の話を聞いて、特にスウェーデンは遠い国で今まであまり詳しく知らなかったけれど、サマस्क生のみみんなの国だと思うと、とても親近感が湧くようになりました。

私は、先輩についてばかりで役に立てたかわかりません。でもこの夏が一生残る思い出になりました。サマस्क生のみみんなといつか再会できる時が来るかもしれないという人生の楽しみが一つ増えました。こんな素敵な機会を与えてくださってありがとうございました。

他では経験できないこと

工学部3年 野坂 竜也

welcome party：4週間コースの韓国メンバーを迎える party。今年のテーマは「運動会」。

運動会を始める前に、みんな腹ごしらえしない！

ごはんはチューターひとりひとりが料理をつくり、日本の料理をおもてなししました。手巻きずし、いなりずし、豚汁、豚カツ、豚の角煮、後半豚ばかりですが、そして野菜スティック。これは料理かどうかちょっと怪しいですが（笑）などなどたくさん料理を一生懸命作りました。

最後のデザートは一瞬でなくなってしまうほど人気でしたが、遅れてきた僕のためにサマスク生がとっておいてくれたのを覚えています。とてもうれしかったし、料理を「おいしい、おいしい」と言ってくれて作った甲斐があったと深く感じました。

また、去年のチューターのめいさん、ますみんが来てくれ盛り上がりを見せてくれました。

みんなお腹いっぱいになったところで、運動会の開催です。

ここで大活躍したのがますみんでした。今年はチューター男子が少なかったの、女装するメンツがますみんのおかげでそろったのです。きりちゃん、ますみん、自分の三人が黒い短パンをはいて赤白帽をかぶり、化粧をして登場したのです。こんな格好で、サマスク生とすぐにますみんは仲よくなり、女装したイメージがずっとサマスク生に残っていることでしょう。そんななか運動会の第1種目目からみんなホールを走りまわり、とても楽しそうでした。次に飴さがしで顔を小麦粉だらけにして顔を

真っ白にして大盛り上がり、こんなことはこれからの人生でサマスク生はなかなか経験することはないでしょう。さらに、パン食い競争と借り物競走で、今までおとなしいと思っていたマチルダが見事なダッシュを見せてくれて、意外な一面がみることができ、この日の最高潮の盛り上がりを見せました。日本の昔からの運動会を通してスウェーデンメンバーも韓国メンバーもチューターもみんなぐーんとぐーんと仲が良くなりました。それに、団結の意識がすこし湧いたのではないかと思います。日本の昔から伝わるものを経験でき、わすれられない日になったでしょう。

こんな風楽しく遊ぶことができたのもチューターとサマスク生がとても年の近い関係があるからでしょう。この関係が大事なんだと感じます。

ここで感謝すべき人がいます。今年のリーダーさわ！アウスデイス！みんなをまとめて動いてくれたし、気を配ってくれました。本当にありがとうございます。他にもチューターのみなさんお疲れ様でした。新メンバーのみんなも積極的に参加してくれてうれしく思います。2年目の僕は頼りないところがあって申し訳なかったと思ってます。このサマースクールではいろいろ大変なこともあったけど楽しいことはもっとたくさんありましたね。だからサマースクールは癖になるのです。やめられないです。

こんなサマースクールを作りあげてきたみなさんに大きな感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

オリジナル！サマースクール2011

地域科学部4年 半田 実里

今年で3回目となり4年生の私にとっては最後のサマースクール。

1年目は何もわからずに、ただひたすら留学生と関わりを持ち、2年目は自分の仕事を意識し着実に2ヶ月をかけがえのないものにしていく。そして、3年

目の今年、伝統を伝えていく年であると意識しながら参加をしていた。

今年サマスク生・チューターは共に今までになかった“カラー”いわゆる個性を持っている学生が多かったと感じた。それぞれの学生の考えが異なり、今ま

での当たり前や常識は覆された。当初は、「おいおい！そうするのか！それでいいの？」と声に出したくなった時もたくさんあったが、リーダーのさわを初めとして皆が試行錯誤している姿を見て伝統というのは、その年によって新しく生まれ変わっていくのだと感じた。今までと同じことをしていくだけではなく、その年のメンバーによってその年ならではの「サマースクール」が出来上がるのだと思う（もちろん今まで作り上げられてきた伝統は受け継がなければならない！）。

メンバーそれぞれの感受性の違いを大事にし、オリジナルなサマスクをこれからも作り上げていってほしい。将来、この時期に学外研を覗きに行き、ど

んなオリジナルなサマスクが出来上がっているのかとても楽しみだ。

サマースクール2011は私にとって、「気の休む場所」。

スウェーデン・韓国・チューターみんな！ありがとう！！Tack！！고맙워！！

また会う日まで！元気でね！

最後に、留学生センターの先生や留学生支援室の方々、3年にわたり、このような素晴らしい経験をさせて頂いてきた私はとても幸せでした。

ありがとうございました。この経験を糧に、これからの生活も頑張ります！

大家族の一員

工学研究科 M1 広田 はとみ

ただいま！おかえり！おはよう！おやすみ！ありがとう！！

サマスク生が退去した翌日の岐阜大学学外研修施設（以下、学外研）の大掃除の日。この声が聞こえてこないのは、非常に寂しかったです。学外研は大きな一つの家でした。授業後、学外研に行くと必ず誰かがいて、お帰り！今日はどうだった？と話しかけて来てくれます。一人暮らしの私にとってはこれが一番の楽しみでした。

サマースクールチューター。これは大学一年生のとき、見つけた案内。それから毎年、募集の時期になっても勉強やアルバイトとの両立ができるかどうか心配で、毎年断念していました。大学4年生が終わるころ大学院の2年間でやりたいことを考えたとき、一番に思いついたのがこのサマースクールチューターでした。これはやるしかない、と思ったのです。

この2か月間は非常に濃厚な期間でした。チューターを担当していて、大学1年生のときからやれば良かったと思いました。しかし今考えると、これで良かったのかもしれない。大学生活に慣れ、もちろん忙しいですが、計画能力が上がったためか無理なくこなせるようになりました。もちろん学部1年生のときからやれば良かった、という気持ちは捨てられませんが。

学外研での生活は、みんなが一つの屋根の下の大

家族のようでした。サマスク生、チューターにはお父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟、妹、ペット的存在が居ます。間違ったことやいけないことをしている人がいると、注意をする人がいます。困ったことや悩み事があったとき、相談に乗ってくれる人がいます。体調が悪そうにしている人がいると、心配し、薬を探してくれる人がいます。宿題や生活でわからないことがあったとき、説明をしたり調べたりしてくれる人がいます。勉強で疲れているときに、癒してくれる人がいます。この2か月間を、大きな問題や事故なく終えることができたのは、リーダーがこの大家族の一人一人に、常に気を配ってくれたおかげだと思います。

最後に、私にこの機会を与えてくださり、指導して下さった土谷先生、迫さんをはじめ、矢島さん、管理人の西川さん、チューターリーダーのさわやチューターみんな、サマスクリーダーのアウスイスやサマスク生みんな、ありがとうございました。来年の夏も、また新しいメンバーでこのような夏が訪れることを楽しみにしています。

ウェルカムパーティー

応用生物科学部 3年 前濱 風花

今年チューターとして2年目になる私は、昨年に続いて今年もチューターを出来ることの喜びを肌で感じる事が出来ました。

私たちとルンドの学生との最初の出会いは、8週間コースのウェルカムパーティーでした。みんな緊張した面持ちで自己紹介をしていたのが思い出されます。その緊張感もとれた頃に4週間コースのウェルカムパーティーがあり、そこでは韓国の学生も参加して全員揃って楽しむ事が出来ました。このウェルカムパーティーでは私たちチューターがそれぞれ分担して手巻き寿司やトン汁、天ぷらなど様々な日本料理を作りみんなに食べてもらいました。留学生に日本料理を知ってもらっただけでなく、私自身も日本料理について知る良い機会となりました。また、料理を披露した後はチューター、サマスク生ともにゲームをしました。運動会のように、チームに分かれて借り物競走や玉入れなどで競い合って盛り上がり、仲を深めることが出来ました。特に、あめ探し競争ではみんな顔を小麦粉だらけにしていました。ウェルカムパーティーは本当にたくさんの笑顔があって楽しい時間でした。

サマースクールではたくさんの思い出がありますが、一番みんなと打ち解け合って仲を深めることが出来たのはウェルカムパーティーだったと思います。その機会を与えて下さった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。今年もチューターが出来たことを心から嬉しく思っています。本当にありがとうございます。



家族—Familjen—가족

教育学部 4年 松野 綾野

“You have been like a big sister for me!” “I bet it's impossible to find a person that does not like you.” 「ばんがいたから、僕たちは最初から安心してたよ」「尊敬してます！」

研究室での目まぐるしい毎日の合間に、私が元気をチャージするために見る本の中。サマスク生や

チューターズからもらった素敵な言葉がたくさん詰まっています。

現在私は、あっという間に終わってしまった4年目のサマースクールを振り返り、私は後輩チューターズに何を残し、何を伝えられたのだろうか？と考えています。最後ということへの寂しさ半分、新

しい出会いへの期待半分でサマスクの初日を迎えた私は、先輩チューターとして、後輩に自分が伝えられることを伝えきること、そして自分自身もみんなと思いきり楽しむことを誓い、2カ月を走りました。今最も感じているのは、今年のサマースクールも独自の鮮やかなカラーがあり、やはり楽しかったということです。国籍が違うからこそ生まれる楽しさや感動は、大変なことの何十倍もたくさんありました。しかし、時には私たちチューターが全然気付かないところに障害があり、これが異文化の壁なのかと悩んでチューターズと話し合うこともありました。また、伝えにくいことを後輩チューターズにどう伝えたら効果的なのか、ということも課題でした。パーティーの準備やイベントなど、既に必要な事項が決まっていることを教えていくのは容易ですが、チューターやサマスク生同士の関係がどうしたら深まるか、円滑にサマスクを進められるか等のことは誰も教えてくれず、自分で考えて行動するため教えるのは容易ではありません。私自身もそれに対する明確な答えを知っている訳ではないので、自分の行動とたまに解説付き（笑）、という形で伝えるしかありませんでした。それをよく見て、覚えて動いてくれていた後輩チューターズには、とても感謝しています。ありがとう。

今年は研究や試験等で、例年のようにはイベントに参加したりすることが困難でしたが、やはり学外研に行けば夏限定の“家族”が迎えてくれるのは、本当に嬉しいことでした。普段はあまり口には出していないけれど、私はその家族が大好きです。この場を借りて、その大好きな家族へお礼を言いたいと思います。

まずはサマスクに参加してくれたスウェーデンと韓国の人たちへ。岐阜のサマスクに参加してくれて、本当にありがとう。みんなの日本での2カ月を、私たちチューターはサポートできたかな？良い友達になれたかな？今は寂しいけど、大好きだったみんなに、またいつか会えるって信じてるよ。また会える日まで、本当にありがとう。

しっかり者、頑張り屋さんが揃った3年生へ。アドリブ命の4年生を、いつも温かく見守りながら、いつも声をかけてくれて、分かりづらいアドバイスを理解してよく実行してくれてありがとう。あまり頼りにならなくてごめんね。みんなは今年のサマスクと比べて悩んだりしていたみたいだけど、それぞれの年の良さがあるのだから、気にする必要なんて



全くありません♪今年も最高のサマスクだったと思うよ。それは参加したサマスク生とチューターズが一番よく知っているでしょう？本当にお疲れ様でした。

異色の2年生へ。上と下に挟まれて、色々と戸惑うことがあったと思うけど、2年生の適応力の高さには、本当に度肝を抜かれました（笑）。あつという間に周囲に溶け込み、笑いが絶えないのは、自然に人を惹き付ける何かを持っているからかもね。可能ならば、来年、サマスクを引っ張る立場として頑張ってもらいたい。Fight！

そして、バタバタしていても全然そう見えない1年生へ。今年初めてサマスクに参加するとは思えないほど落ち着いていて、私が1年生の時はどうだったかな？と懐かしい記憶を思い出しながら驚いていました。サマスクではたくさん慌ただしく動かなければいけない時が多いけど、いつも落ち着いて行動し、日々チューターとして目に見える成長を遂げていた1年生チューターズには脱帽でした。来年も、サマスクを盛り上げてね！！

先輩なのにすごく低姿勢なはとちゃんへ。1人しかいないから名前出しちゃいました（笑）。はとちゃんからは丁寧さ謙虚さ、私に足りないたくさんものを、サマスクを通して学ばせていただきました。真の強さをもった大和撫子は本当に素敵でした！！お疲れ様でした。

アドリブ命の4年生の相手へ。お疲れ様でした。とにかく、楽しかったね。今はただそれだけが言えると思う。本当にありがとう。

そして最後に、今はまだ知らない、これから家族になる予定の人たちへ。サマースクールは、決して特別なものではありません。私たちと同世代の人々

が、互いに文化を学んだり、他愛もない話をしたり、一緒にパーティーをしたりするだけです。大変なことは決して少なくはないけど、サマースクールでなければこの達成感や感動は味わえないだろうと思えるところが、このサマスクの醍醐味ではないかと思っています。最初の1歩を踏み出すには勇気がいるかもしれませんが、きっと新しいドアの向こう側への期待が追い風となって、背中を押してくれるはずです。ぜひ、来年はサマースクールの家族の一員として最高の夏を経験してみてください。絶対にあの時1歩踏み出して良かったと思える日が来るから！！！！

初めから読み返すともものすごく上から目線だということに気付いてしまいますが、これが私なりの“最後の”夏への関わり方、そして4年間サマスクに関わったチューターとしての終わり方なのかなという気がしています。完全に言い訳ですが（笑）。過去

4回のサマースクールから私が学び、得たものは本当に測り知れません。それを今後私がどう人生に活かしていくのか、それは私にしかできない、自分の人生の歩き方だと思っています。自分の人生を歩くということは、相当に強い信念と決意が必要ですが、それを支え、更に多くの選択肢を与えてくれたサマースクールに、心からの感謝の気持ちを忘れず、これから先を歩んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、このサマースクールを支えてくださった、留学生センターの先生方、留学生支援室の職員の方々、西川さんご夫妻、矢島さん、ホストファミリーの方々…全ての方々に、感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。そして、来年からのサマースクールも、彼らが無事に最高の夏を楽しむことができますように。よろしく願います。本当にありがとうございました。

宿舎チューター名簿

（学年順・50音順）

| 氏 名 | ふりがな | 所 属 | 学年 |
|---------|----------|---------|----|
| 広 田 はとみ | ひろた はとみ | 工学研究科 | M1 |
| 半 田 実 里 | はんた みさと | 地域科学部 | 4 |
| 松 野 綾 野 | まつの あやの | 教育学部 | 4 |
| 藏 本 沙 和 | くらもと さわ | 地域科学部 | 3 |
| 坂 井 悠 里 | さかい ゆり | 応用生物科学部 | 3 |
| 野 坂 竜 也 | のさか たつや | 工学部 | 3 |
| 前 濱 風 花 | まえはま ふうか | 応用生物科学部 | 3 |
| 井 藤 はづき | いとう はづき | 応用生物科学部 | 2 |
| 桐 山 大 輝 | きりやま たいき | 工学部 | 2 |
| 濱 田 直 人 | はまだ なおと | 工学部 | 2 |
| 小 柳 麻奈未 | こやなぎ まなみ | 教育学部 | 1 |
| 中 村 織 衣 | なかむら おりえ | 医学部 | 1 |

サマースクール感想文

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。日本滞在中の「心に残る一枚」の写真を中心に自由に書いてもらいました。一人ひとりの個性あふれる作文をお楽しみください。

アニメの車

アルクミュール・ヘレーナ・グニラ

ホームステイの時その土曜日は午後から私とロヴィーサと私のホームステイのファミリーは色々ところに行きました。その時私のホームステイファミリーは私とロヴィーサを飾っていた車のてんらんかいに連れて行ってくれました。そのてんらんかいは大いちゅうしゃにあって、たくさんの車がありました。全部の車はアニメのキャラクターで飾っていました。その車のドライバーはも全部男性でした。だから、たくさんの車の飾りは少女のアニメのキャラクターでした。私の一番好きなアニメがありませんでした。残念ですが、ほかのいいアニメがありました。K-ONと言うアニメはとても人気がありました。少しの車はちょっと飾っていました。でも、四台は飾りすぎました。

たとえば、私の決めた写真につて車は飾りすぎだと思えます。

その車は珍しいと思えます。その時までその飾っていた車を見たことがありませんでした。その時「どうやって車を運転しますか。」と思いました。けいさばんの上はたくさんのフィギュアがありました。だから、外を見ることは難しそうでした。その車は



きれいかどうか今までわかりません。その車を飾ったことは300万ぐらいでした。私はびっくりして「そのぐらいは高すぎる。」と思いました。この写真を決めたから、車を飾ることはスウェーデンでは珍しいと思えます。特にアニメの飾りです。それで私はアニメが好きです。だから、その飾った車を見たのはとても楽しかったです。ホームステイファミリーは飾っていた車のてんらんかいに連れて行って、よかったです。

かわいい物がいっぱい！

ベネディクトツドッテイル・アウスディス・エッダ

私はディズニー映画の大ファンです。そして、日本のアニメとまんがも大好きです。

「ぴたテン」や「満月をさがして」や「セーラムーン」など、子供の時からずっと好きでした。でも、スウェーデンではアニメやまんがやディズニーの物がふつうに珍しくて、高い物なので、あまり集めたくなくなってしまう。それはざんねんだと思えます。

ある時、先輩から「日本に色々なかわいい物があるよ」と聞きました。その時、それは本当かどうかよく分かりませんでしたが、日本へ来てから絶対に信じています。日本は全部のかわいい物の楽園です！どこに行っても、どこを見ても、ハローキティやリラックマや他のキャラクターが見られます。それは素晴らしいことだと思います。いつも笑顔になります。笑顔にならない人もいるかもしれませんが、私はそんなことを信じたくはありません。人間の命は短くて、時々大変な存在なので笑える時があればよく楽しんで、心から笑った方がいいです。私はそう思っているから日本に来てよかったです。日本に来たおかげで、ディズニーとアニメとまんがのかわいい物をたくさん集めることも、たくさん笑う

こともできました。

それにしても、私はスウェーデンに帰る時に、ちょっとだけ困る可能性があります。いっぱいかわいい物を買ったので、スウェーデンまで持って行くのは大変になるかも知れませんが、まっ、いいんじゃないんですか。私にとって、本当にかががあるからね。



ゲームと踊り

ビヤルヴォース・アンニ・エリーサベット

郡上の旅行の中でサマーコースの学生は小学校に誘われました。その学校の名前ははちまん小学校でした。前の日は七夕で、私たちはチューターと一緒に学外研でパーティーがあったから、その日私は本当に疲れていました。でも私は子供が好きです。スウェーデンで私は保育園で働いたり、教会の日曜学校で教えたり、キャンプリーダーの仕事をしたりしました。だから、その日私は疲れていたけど、とてもうれしかったです。

私たちは大きな部屋で待っていました。皆はとても心配しました。何が起こりますか。そして、二人ずつは四人の子供に集められました。その子供は私たちにきれいで大きな名札をくれました。子供はその名札を自分で作りました。私とフレデリクと四人

の子供と一緒にグループを作って、体育館に行きました。私とフレデリクのグループの子供はこよとまかしとあやのとめいでした。あやのとまかしはテニスが好きです。こよは剣道をします。他の子供はこよが上手だと言いました。めいはバレリーナです。子供は私たちと一緒に英語で練習しました。男の子は恥ずかしがっていました。ほとんどあやのとめいは話しました。

でも、あとでグループはゲームをしました。ルールはやさしかったです。ゲームの後で子供は私たちに郡上祭りの伝統的踊りを教えてくれました。その踊りはちょっと難しかったです。でも楽しかったです。

最後に子供は私たちにきれいな歌を歌いました。何についてか分かりません。でも、子供は協和音で歌ったから、私は本当に感動しました。スウェーデン人の小学生はそのことができません。私たちは帰る前に子供からきれいな折り紙をもらいました。その日は私にとって、とても大切な思い出です。

日本の自然

ファーゲルベリ・ニルス・フレドリック

私の選んだ写真は郡上八幡城から景色の写真です。この作文の題は私に一番感動した事：日本の自然です。

私は子供の頃からよく家族や友達と一緒に森林浴などをしましたので、日本に来て、景色を見たら、とてもうれしくなりました。特に、出身地に山も大きい川もありませんので、郡上の自然は大変違って、すばらしいと思いました。

郡上と言えば、そこでホームステイをする間に、阿弥陀々滝を見せて下さいました。言った通り、近所に川と山はないから、滝を見るのは初めてでした。本当に見事でした。

将来に、再び日本に行きたいです。その時、まだ行かない自然の観光地へ行くように頑張ります。

そして、日本人と自然について話して、その人の意見は、日本の自然を見に行くなら、春が一番きれいな季節です。色々な植物が咲いていて、カラフルな季節からです。

けれども、全てのは良くなかたです。日本の気温に慣れていないから、長い時間自然で歩いたら、凄





く疲れてなります。ですから、外にすぎないに気を付けなければなりません。

終わりに、いくつかの美しい所を経験して良かったです。貴方は日本に行ったら、大都会ばかりで遊ばないで、ぜひ日本の自然を楽しむに行ってください。

岐阜公園と金華山

ヒュン・クリストファル・チー・ドゥング

岐阜の自然はとてもきれいだ。この池を見ると公園の大きい緑色の木が池の青い水の上にきれいに反射している。それに、その日は空がとても高く感じて、太陽の光が眩しく、目を開けることができなかった。この池の近くには博物館がある。でも入る前に入場料を払わなければならない。その入場料は二百円ぐらいだった。博物館は二階建てで、一階にはたくさんの古い地図があった。それは岐阜の地図だった。昔の地図と現在の地図を比べる事ができた。二階には刀とか昔の銃が飾ってあり、昔の建物も展示してあった。

岐阜公園は夜になると蛍が出てくるので景色はとてもきれいになる。公園の上に岐阜城がある。そこに行きたかったら二つの方法がある。一つはロープウェイだ。しかし、ロープウェイは無料じゃないのだ。もう一つは金華山を歩いて登る方法だ。料金は六百円だ。登山する事はひじょうに時間がかかるし、苦勞な事だ。その登山道に足を踏み入れたとこ



ろ、逃げ出す事もできなくなる。その瞬間から怖い金華山に登らなければならない。この暑さで歩けば歩くほどもっと暑くなって汗がたくさん出て、足がだんだん重くなる。329メートルの後やっと岐阜城に到着した。

岐阜城の外でアイスクリームを売っている店がある。もしべんとうを持ってなかったらそこで食べ物を買うことができる！岐阜城の中に入って城の一番高い所に登ると岐阜が見られるし、景色もいい。岐阜城はちょっと小さかったがきれいだった。下りる時はロープウェイに乗った方がいいと思う。それは金華山を登った後はきっと疲れるはずだから。

景色が好きなのは岐阜公園と岐阜城に行ってみてください。特に岐阜城からの夜景はきれいだそうです。今度僕も夜景を見に行くつもりだ。

J-Bridge は悪ものだ

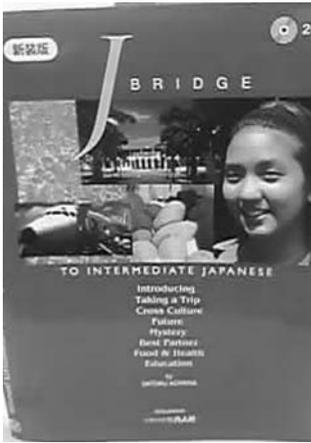
ハード・エムンド・アーサー

雨のおぼろ

俺は暗い道を歩いていた。パーティーへ行った帰りで、いろいろなことを考え込んでいた。恋愛の悩みとパーティーの後悔が俺の頭を満たしていた。明日の二日酔いを恐れていて、周囲を気にせずに、進んでいった

「今夜の俺は一体何をやっていたのか」や「俺は何で海賊の服を着ているのか」や「俺のズボンはどこへ消えたのか」など

と思っているところに、急に冷たい風が身体を吹き抜けた。海賊帽子が飛ばされた上、服無しの下半



部が特に寒く感じた足の音。後ろを振り向くと、そこには見知らぬ男が立っていた。暗くてあまり見えないが、スウェーデンの方ではなかった。恐怖を抑えながら、その方に疑問を撃ちまくった「どなたさまでございますか私のお金をお盗みになります

かあなたはそのニュースに出た御殺人鬼ではないんですよねー」

と言う感で俺は早口で言った

謎の男は一言も言わずに、本を見せた。J-Bridgeと言うのだ。ただの日本語の教科書に見えたが、再び見ると、凄く不安な気持ちが溢れてきた

「この本をお前に渡しにまいった」と男が掠れた声で述べた。「この書を預かることはお前の運命なのさ」と続けた

「いやです」と俺。「困りますよ」

「この書さえ手に入れれば、我々の世の中は——」

その分を終らせる前に、俺は走り出した。なぜかわからなくても、絶対その本を預かると死ぬことが明白に理解できた。助けを求めながら、思いっきり逃げていった

「生まれ」と後ろから。「我は渡さねばなるまいぞ」

困り果て、ゴミばこに隠れ、荒い息を止めようとした。しかし、落ち着くことはできなかった

「隠れても無駄だぜ」と言う男の声がした。

「協力してもらえねば、暴力を使うしかない」

俺は口を割らなかつた。

「本を手にとったらば、我は褒美をやろう。約束だぞ」と謎の男。「いいものだ」

真実のはずではなかつた。

だが俺は男の話の聞き入れなくて、J-Bridgeのことしか顔の中に浮かんでいなかった。一ページも読まずに、その本は悪魔の道具として造られたことがわかった。その書は悪そのものをかたどったにちがいない

やはり、最後の最後に、引き付けられた。褒美の

ためか、悪の魅力に引き込まれたか、未だにわからぬ。

おしまい

日本での経験

ヨハンソン・エーリク・グスタフ・オスカル

私は日本で色々な面白い場所を見たことがあります。宮島の神聖な弥山という山や二条城や東大寺などです。しかし、その中で一番感動した所は、広島平和記念資料館です。

もちろん、テレビ番組と本と歴史の授業のおかげで、もう広島に原子爆弾が落ちたことを知っていた、けれどもその場所でその痛みや悲しみや破壊を見るのは本当に違う経験でした。少し圧倒的でした。

原爆の跡はとても恐ろしかったです。黒焦げになった弁当や焼けた学生の軍服や熱さの影という石で作った物に熱波が焼きつた跡、そんな物を見た時、泣き出しそうになりました。

その上、原爆が切り抜けた「原爆者」という人が描いた絵がいっぱいありました。その時に絵のテーマは「黒い雨」でした。原爆が爆発した後で放射性の雨が降りました。絵はあの毒の雨を経験した人の難事を見せて、とても感動しました。

広島市は原子力兵器のない世界の目標を達成させるまで頑張っています。私はこの夢が実現すると思います。歴史は繰り返されるものですが、この場合には例外になったほうがいいと思います。残念なことに歴史は人間が操れるものではありません



ん。望むことはできます。

広島へ行くことを強く推奨します。広島は爆撃した商工会議所だけではありません。

日本の景色

クリングボルグ・マルクス・カール・ファルター

日本に来てから色々な景色を見ました。例えば都市や田舎や山の景色を見ました。その景色の中でもこの山で見たダム景色が一番綺麗だと思います。私が見た景色は全部写真機で記録しておきました。その記録した写真が無くても自分の思い出に残っているのです。作文には岐阜と岐阜の周りの景色について書きます。

まず、日本に着いた時の様子から書きたいと思います。日本に着いてからはずうっと東京と東京の県の境に近いの町を歩いていました。東京の県境の夜景のあでやかでかすんでしていた幻想的な景色でした。

次に岐阜に行きました。岐阜の周りで色々な綺麗な景色を見ました。その中で私に一番思い出残っている景色はこの写真のダム景色です。この景色を見ると感動しました。日本の色々な景色は永遠に私の心に残ります。



なつまつり

メイリン・マティルダ・ヘレナ

この間の一番おぼえやすいことはかんしされてい



て子供みたいに見られた気持ちです。「自転車で通学するのはだめでバスに乗らなくてはいけない」と言われて自分の自由がなくなるのは大変でした。いつも自分の写真をとられてとられてとられて…だれがどこかいつかどうしてかぜんぜん知らなくてもとられました。でも一つのいい思い出はぐじょうの夏まつりです。

私は前から日本のまつりについて映画を見てからちょっと知ったけど映画が見せるまつりはちょっとゆめみたいでしょう。げんじつではなくてだれかのゆめのまつりですから。

スウェーデンのまつりと日本のまつりはぜんぜん違いますよ。じつはスウェーデンにはそんなまつりなんかがないと思うんですけど。「まつり」の言葉をスウェーデン語に訳すと意味がもう同じではありません。ですから行かせてくれたぐじょうの夏まつりは私に特別です。

自由にそのまつりに行けて金魚のすくいを見られて友達がかき氷をおごってくれて…たのしかったです。

そのまつりで一番大切なことはそのまつりは高山か白川のようなかんこうきゃくの場所ではなくて本物のまつりでした。それでその時かんしされていませんでした。

日本のけしき

ニルソン・ネリー・エヴェリナ

日本のけしきとスウェーデンのけしきとはとてもちがうと思います。まず日本にはたくさん山があります。どこに行っても見えます。でも、スウェーデンには山があまりありません。私が住んでいる南スウェーデンはとてもへいたんで、はたけがたくさん



あるので、スウェーデンに広い場所が多いです。それは日本にくらべてとてもちがう点です。

そして、日本の町にいればたいてい山が見えます。だから、町にいても自然の近くにいるように感じます。それに私は町でやせいの動物を見ました。岐阜であらいぐみを見て、ぐじょうときょうとでたかを見ました。それに私は町でやせいの動物を見ました。スウェーデンではそんなことを見たことがありません。やせいの動物はほとんどいなかでだけ見られます。川がある町にいても、たかが見られません。また町にいればたいてい自然が見られません。だから、私は日本に来て、びっくりしました。

しかし、日本とスウェーデンのけしきはちがっても、私は両方が大好きです。両方ともとてもきれいで、特別だと思います。だから私はスウェーデンに帰ったら、日本について考える時だぶん最初けしきについて考えると思います。せつたいに忘れられないと思います。秋と冬と春にも日本に来て、もっとけしきを見たいです。

いたしゃのてんらんかい

オルソン・ロヴィーサ・アンナ

日本に来てからたくさん色々なスウェーデンと違うことがわかるようになりました。たくさんいいこ

とです。たとえばスウェーデンの店員より日本のバスの方がていねいです。そしてスウェーデンではゴミばこは多くあっても、スウェーデン人はぜんぜんゴミをすてないが日本ではゴミばこはほとんどなくても日本人はいつもゴミをもってちゃんとすてます。いいこともあって悪いこともあります。たとえば男の人の方が女の人より大切だそうです。そして変なこともあります。

ホームステイの時ぐじょうでホームステイの家族といっしょにいたしゃという車を見に行きました。何の車かわかりませんでした。だからてんらんかいに着いた時本当にびっくりしました。信じられませんでした。

いたしゃはアニメとまんがとテレビゲームのキャラクターが書かれている車です。1980年にオタクは車にぬいぐるみとステッカーでアニメのキャラクターをかざりました。そのキャラクターはだいたいいつも有名なアニメのキャラクターでかわいい女の子です。そして時々ちょっとへんたいです。最近10年間大きくなって、色々ないたしゃのコンベンションがありました。

てんらんかいで車が50台ぐらいあって、たくさん色々なアニメとまんががありました。一番人気があったアニメはラッキースターというアニメとけいおん！というアニメらしいです。

いっぱい写真をとって、すごくても変でした。大人の男の人はわかい女の子をかざった車を運転するのはスウェーデン人の考え方によるとちょっとへんたいで、変です。しかしおもしろいけいけんでした。



た。あとで「さすが日本」と考えました。

家族のけんか

ペルソン・サンネ・ロビン・イサベラ

サマースクールの全員はチューターさんと一緒にがくがいけんというりょうりに住んでいます。色々なことを一緒にします。例えば、バーベキューをしたり、宿題をしたりしました。チューターさんはいつも私たちをおせわしてくれるので、安心です。

時々チューターさんは私たちを色々おもしろい所につれて行きました。例えばみんなで一緒に名古屋屋に行ってお遊びしました。

家でみんなはおたがいに、よくからかったり、皮肉を言ったりしたので、私たちはちょっと家族みたいです。でも、いつもがまんしているようにしているので、あまりけんかしません。だから、私のスヴェーデンにいる家族より、がくがいけんの家族のほうが平和です。



この写真は韓国人のかんげいかいに撮りました。みんなは一緒に食べたり、ゲームをしたり、遊んだりしました。一日中みんなは笑って、とてもおもしろかったです。とても楽しい経験です。その日韓国人のみんなは家族になりました。とてもよかったです。

サマースクールがもうすぐ終わるのは実に残念です。いい思い出がいっぱいです。いい経験がたくさんあります。みんなが大好きです。本当に岐阜に来てよかったです。

郡上八幡の眺め

フー・カミッラ・イン・フン

私は7月8日に郡上八幡に行きました。そこで色々な面白い講座に参加できて、ホームステイもしました。おかげで日本の伝統文化と日本人の日常生活も経験できて、私はこのサマースクールに参加していることをとても良かったと思っています。

この写真はホームステイプログラムの二日目に撮りました。その日は郡上踊りの初日でお祭りに行く前でした。ホームステイのお母さんを待っていました。そして暇つぶしで橋の上で立っていて長良川の写真を撮りました。その後はみんなと一緒にお祭りを楽しみました。

私は本当に綺麗な景色を見るのが大好きなので郡上八幡の眺めが大好きです。山の中の穏やかな町で川に流れる水の音が本当に最高です。自然も多くて町並みの古い建物もあって町の雰囲気はとても素敵です。そんなに美しい風景はめったに見られないので再び日本に行く時には郡上八幡に戻ろうと思っています。



The opportunity

セルリップ・アレクサンデル・カール・マルクス

この写真はグライダーで飛ぶ前の物です。私がこの写真を選んだ理由は岐阜に来てから、この事が一番印象に残っているからです。

私はチューターのはとみさんとマルクスさんと一緒に飛びに行きました。マルクスさんと私は一人ずつで誰かの教官と飛びました。

グライダーと言うのは小さい飛行機と似ていますがエンジンが無自然の風で飛んでいます。向かい風を受けなければ飛べません。飛び始める時は車とグライダーをロープで繋いで引っぱります。グライダーで飛んだ時に揺れたりしましたが恐怖心が無くとてもいい時間を過ごしました。もちろん、ちょうど飛び始めた時緊張しましたがこの気持ちを抑制する事ができました。やっと空を飛んで大変美しく素晴らしい景色を見ました。教官は私にグライダーを操縦させてくださいましたのでとてもいい経験ができて楽しかったです。

グライダーには、二つの操縦桿があり、教官と私の操縦桿は連動しているので、私が間違っても安全でした。

私は昔飛行機を少し操縦した事がありますからこの経験は初めてじゃありませんでした。しかしずっと子供のころからパイロットに成りたくて、自然の風で飛んで見たかったからこの夢は正夢に成りました。

そして最後に、空を飛ぶ事は私にとって他の意味もあります、人間というのは飛べない物ですから、



この問題を解決した時に人生の困難を克服するという意味を持つと思うのです。

外人で～す

ステーン・イーダ・マリア

私は外国人です。日本人ではありません。日本にいる時、私たちのルンドの大学の学生のみんなはちょっと目を引きます。それは当然でしょう。アジア人ではないからです。

日本人とスウェーデン人はとても違って、文化も違うと思います。私たちは外国人から、日本のふつうの生活をあまり見られません。でも、サマースクールのおかげで、ホストファミリーといっしょに住むチャンスももらえました。

私たちは郡上に行きました。そして、そこでホストファミリーと会えました。私のホストファミリーの名字は高田です。高田夫婦はとてもいい人だと思います。ホストファミリーといっしょにたくさん楽しいことをしました。買い物に行ったり、食品サンプルを作ったり、川の中で泳いだりしました。そして毎日ホストファミリーといっしょに日本料理を食べました。

ホストファミリーにいもうともいました。さやかと言うかわいい女の子です。さやかは私と同じ嵐が好きです。私たちはいっしょに嵐のばんぐみを見ました。すごく楽しかったです。

ホストファミリーがいなかった時もありました。クラスメイトといっしょにいろいろな日本の文化の



けいけんをしました。

私は郡上はとても日本らしい町だと思います。行った時、本当に「日本とスウェーデンはとても違なあ。」と思いました。私の国の文化と日本の文化のカルチャーショックはとてもおもしろいと思います。

大相撲

ティン・オロフ・ウィリアム

2011年7月14日は暑かったです。はれていて空気がよどんでいてからからでした。

岐阜大学のキャンパスからへんなぐんしゅうが歩いて行きました。その多くはきんぱつてせが高かったです。ぐんしゅうの中に特別な人もみえました。たとえば大きすぎる目のうちゅうじんで、熊はついて行きました。

ぐんしゅうのおんどをとっている人は日本人でぐんしゅうといっしょにおもしろかったです。そのぐんしゅうは Rund 大学から来た人でした。今までそのスウェーデン人はたくさん経験をしましたが、今日、その外人は日本の国技を経験するよでした。

外人たちは、その日名古屋に行きました。

私は大会の前にぜんぜんすもうを見たことがありませんでしたが、大会の前にすもうのゼミで聞かせてもらいましたので少しわかりました。私は本当にすもうをたのしみました。

スタジアムに入って、私たちのせきをみつけました。私たちのせきはすもう土俵はたたかう場所から



はちょっととおかったので見にくかったです。でもたくさんのしあいを見ました。すもうしあいがみじかいの事を知りませんでしたのでびっくりしました。

ややあって、私とクリストファさんがきゅうけいをとってスタジアムをあるきました。そして、私たちは二人のすもうさんに会いました。私たちは「写真をいっしょにとってもいいですか」と聞きました。すもうさんは「はい」と答えたので、私はすもうさんのあいだに立って、クリストファに写真をとってもらいました。そのあとで岐阜にもどりました。

長良川の周囲

ヴィー・エマ・フルボ

この写真は郡上で撮りました。ホームステイの最初の日、書道の後で八幡小学校に行きました。その時、長良川の横を歩きました。本当に美しかったです。

サマースクールの時、長良川の周囲にたくさん思い出がありますのでその経験について話したいと思います。

まず、皆が住んでいる学外研は「長良」という所にあって長良川に面しています。学外研から見えますが遠足の時よく長良川沿いを行って帰ります。だから、川は学外研の象徴のようになりました。それに、長良川は岐阜城の下を流れていてとても印象的な景色です。

長良橋の下に行ったら、長良川で泳げます。晴れていて暑い日だったらサマースクール生はよく泳ぎに行きます。橋の下から山も岐阜城もみえますからとてもきれいです。川の水もきれいで冷たいからとても気分がいいです。日本的な景色を見ながら友だちと泳ぐのはずいぶん面白い経験です。城を見ながら泳ぐのは初めてです。

郡上に行った時私は美並町に泊まりました。郡上から20分かかって山ときれいな古い家に囲まれている長良川沿いをドライブしました。郡上の真ん中にも川が流れていて町を半分に分けています。

写真を撮った時は書道授業の後で踊りと紙細工の前です。その日は景色がとてもきれいで面白い経験がいっぱいありました。郡上の経験も平日の活動も



全部長良川の周囲にあるから川はいい経験の象徴になってきました。

もう一回郡上に行って、そんな美しい景色を見たいです。でも、もしかしたら、サマースクールが終わったら長良川は普通の川になってしまうかもしれません。

でもその川はいつもサマースクールと友だちのすばらしい思い出を思い出させるものになると思います。

また会いましょう

チェ・スヨン

私はホームステイについてかきたいと思います。私は今回が2回目の来日で、前は名古屋大学語学研修の経験がありますが、その時はホームステイがなかったので今回とても期待しました。

郡上でいろいろな経験がおわってよいよホストファミリーとであった時とてもきんちょうしました。私のホストファミリーは4人でした。その中にもさいきん韓国にはまっている中3の女の子が今回ホームステイで韓国の姉が欲しいと言ったから私が姉になりました。韓国語にも興味があっていっしょに勉強しました。うちのホストファミリーはどこかにつれて行くより自分たちの友人に私を紹介してくれて、本当の家族の気分でした。中3の妹の友達といっしょに郡上おどりを踊ったり、韓国にはまっているお父さん、お母さんの知り合いの家族といっしょに食事をしたり、いろいろな人と出会いました。



さいごの日のよるにはもうすぐ誕生日を迎える私のためにパーティーを開いてくれたので感動しました。ろうそくの火を消したら「おめでとう」で言ってくれて心の中が暖かくなりました。

別れる日には中3の妹と高2の弟は学校に行かなければならないので、朝早く別れましたが、妹とが泣いて手紙を渡された時にはとてもさびしかったです。郡上のホームステイについて全員のホストファミリーと関係者さんたちの中でスピーチをする時、思わずもらい泣きしまつて後でいらっしゃったお母さんも泣いてとてもさびしかったです。

今回のホストファミリーだけではなくて韓国に帰っても日本の家族だと思ってこの縁がつづいてほしいです。本当にありがとうございました。

大切な思い出、私の家族

キム・ミンジュ

私のホームステイの家族は明宝という所に住んでいて、そこは郡上八幡から車で15分ぐらいかかる場所です。どこへ行っても川と山に囲まれていてとてもすてきな町です。そんなきれいな自然の中で100年以上の歴史を持った家で、私は3日をすごしました。初めてホームステイ家族に会った時、すこし、はにかんでいる私を優しい笑顔で歓迎してくれたおばあさんとお母さんたちの姿はとても暖かくて一瞬、韓国にいる家族を思い出しました。

ホームステイの家族には中学2年生と小学校5年生の男の子が二人いて、二人とも野球部に入っていたので、野球の試合の応援にも行きました。子供達の試合だったのですごく熱い雰囲気の中で皆ががんばっているのを見て、日本で優秀な野球の選手がいっぱい出て来る理由がわかりました。

また、ホームステイの家族に鍾乳洞や八幡城、温泉など色々なすてきな場所へつれて行ってもらいました。その中で一番記憶に残るのは郡上の八幡城のおよさん伝説とか石伝説です。私は古い遺跡や歴史が好きなので八幡城に展示してあった物語の一つ一つが大切に感じられたのではないかと思います。

最後の日はホームステイ家族と一緒に買物をして、庭で手巻き寿司を作りながら食べました。にぎやかな雰囲気の中で家族みんなと食事をしながら自分がほんとうにこの家族の一人になった気がしてうれしかったです。

食事の後はおばあさんと一緒にホテルを見に行きました。天気があまりよくなかったので2匹を見たので終わりでしたが、2匹だけでも、すごくうつくしかったです。

短かった3日だったが、私は大切な日本の家族ができたこの3日を一生忘れないでしょう。



もう一つの家族

シン・ソンミ

私は郡上八幡から少し離れた「和良」というところでホームステイしました。和良は郡上よりもっと小さな町で、いえの前にきれいな和良川が流れているうつくしいところでした。自然ととても近くて鹿や蛇などの動物を見ることができました。岐阜では見られない景色を見ながら楽しい時間を過ごしまし

た。

はじめて会った時、とてもシャイな子供たちとしたしくなれるか少し心配しましたがいっしょに食事をしたり、川であそんだり、モノポリーゲームをやったり、流しそうめんを食べたりする間に、いつのまにか仲良くなっていました。特に、郡上八幡城まで歩いて行って郡上市を見下ろしながらいっしょにかきごおりを食べたことは、韓国にいる家族のような感じがする、ころがあたたまる経験でした。ホストファミリーだけではなく、郡上や和良の人達は皆親切で、いろいろな助けや情報をくれました。

そして最後の日、私は家族のために韓国料理であるキンパとトッポギをつくりました。ホストファミリーのおかあさんといっしょにはなしあいながら作ったのもっと楽しかったです。その日は丁度娘さんの8歳の誕生日でしたから、おいしいケーキも食べて、家族皆とパーティをしました。ところが私が韓国から持って来たコチュジャンで作ったトッポギが辛すぎたせいで、こどもたちにあやまったハプニングもありました。

別れの日の朝、玄関でホストファミリーと写真を撮る時、こどもたちが「また会いましょう」の意味の韓国語のあいさつをしてくれました。ホームステイは日本の家庭を感じられるすごくいい経験で、忘れられない思い出になりました。



総 括

| | | |
|------------|---------------|------|
| 8週間コース参加学生 | ルンド大学（スウェーデン） | 17名 |
| 4週間コース参加学生 | 木浦大学（韓国） | 3名 |
| | | 計20名 |

今年度のサマースクール（受入、以下略）は、定員25名で募集を行い、20名の申込があった。3月11日の東日本大震災に起因する福島第一原発の事故の影響で外国からの来日者が激減したが、本サマースクールも5月初めまで開講できるか否か、不確かな状態が続いた。最終的には20名もの参加者を迎えて例年通り実施できたことを、非常に嬉しく思う。困難を乗り越えてサマースクールに参加した学生たちからフィードバックを得るために、筆記アンケートとまとめの会（反省会）アンケートを実施した。

筆記アンケート（A3版2枚）は7/25に配付し、7/27に回収した（20名全員より回収）。筆記アンケートは、過去の年度との比較のため、質問項目を大きく変えないようにしている。それに対して、まとめの会で学生に尋ねるのは、その年度特有の事柄や、より深く尋ねたい事柄である。筆記アンケートについては、詳細は後掲の集計結果に譲り、ここではまとめの会で得たフィードバックを中心に述べることにする。

まとめの会のアンケートでは、学生に回答用紙を配付し、進行役（コーディネーター）が口頭で述べる質問に対する答えを書き込んでもらった（日本語または英語）。この方法だと、質問の意図や前後関係などを詳しく説明でき、よりの確な回答を得られる効果がある。また、声の小さい大人しい学生からの意見ももれなくすくうことができるため、ここ数年同じ実施方法を取っている。今年度は、参加学生20名全員から回答を得た。

以下、まとめの会で学生に尋ねた項目をピックアップして記載する。

日本語授業

昨年度より教科書と授業方法を変更した日本語授業だが、昨年度のフィードバックでまずまずの好評を得たので、今年度は原則昨年度を踏襲した。とこ

ろが、今年度は一転して厳しいフィードバックが多く、教科書等かなりの改善を要求される結果が出た。たとえば、同じ教科書（『J. Bridge』）を来年度も使ったほうがいいという学生（20名中4名、以下同）に対して、使わないほうがいいという学生（15名）が大幅に上回った。では、教科書以外で（もしくは別の教科書で）どのようなことを授業でしたいのかと問うと、会話をしたい、文法をもっと学びたい等々の回答があった。

一方、昨年度から始めたプロジェクトワーク（調べて発表する）は、来年度もしたほうがいいという学生が大半で（16名）、来年度以降も継続してよいのではないかという感触を得た。昨年度得た、発表回数が多すぎて大変だったというコメントを尊重して、量と頻度を加減したのが功を奏したと考えられる。

今年度のフィードバックには、日本語授業に関して例年には見られないものが複数あった。それは、教員数についてのコメントである。日本語授業は、月～木に2クラスに分かれて行なうため、各曜日の教員が2名、今年度は2日にわたって授業を担当する教員がいなかったため、計8名の教員が授業を担当した。この点が学生から指摘された。教員の数が多すぎる、教員によって指示内容が違う、授業開始当初にそれぞれの教員に対して同じ自己紹介をさせられる等々、例年には見られないコメントが複数の学生から出てきたのは、意外であった。過去にも計8名の教員が授業を担当する年度はあったが、このようなコメントは記憶にない。今年度なぜこのようなコメントが頻出したのか、検討が必要だと考えている。

来年度の日本語授業については、参加者の所属校の日本語担当教員とも相談し、より適切なものが提供できるよう改善を期したい。

エクスカージョン・旅行

「地域密着型」を志向するサマースクールであるが、岐阜及び近隣を中心に回るエクスカージョンは、ほぼ内容が安定してきた。美濃の和太鼓体験、土岐の陶芸体験、大相撲名古屋場所観戦、これらは今年度も安定した評価を得た。

ここ数年、プログラムに含むべきかどうか迷っていた一泊旅行（上高地・高山・白川郷）だが、今年度の学生全員から良かったとのフィードバックを得た。昨年度も好評だったので、今後は迷いなくプログラムに含めていこうと思う。ただし、要検討点が2点ある。

まず、日程が忙しすぎて疲れたという反応が今年度もあったことである。昨年度同様のコメントがあったため、今年度はスケジュールを緩くした。しかし、それでも疲れた、忙しかったという反応があるということは、どうしたものかと考えてしまう。もう1点は、次に述べる郡上プログラムとも関連することだが、高山・白川郷が訪問先でよいのかという点である。

「地域密着型」としては、岐阜県内の高山や白川郷をプログラムに是非盛り込みたいのだが、この旅行（7/21～22）に先行する郡上プログラム（7/8～11）で、ホストファミリーが高山や白川郷に連れていってくれるというケースが見受けられ、同じところに行って退屈だったという学生もいた。たしかに、限られた滞在期間中に、ほぼ同じ時期に同じ場所に二度訪問するのはもったいない。しかし、全ての学生が郡上プログラム中に高山や白川郷へ行くわけでもなく、頭の痛いところである。上高地は、学生自身で行くことはまずなく、美しい自然が非常に好評だったので、旅行先から外すつもりはない。高山と白川郷の扱いをどうするか、来年度までじっくり考えたい。

学外活動のなかで、3泊4日のホームステイを含む郡上プログラムは、サマースクールの山場と言っていい。しかし、今年度は学生の反応が例年とは少し異なっていた。例年の反応が「楽しかった、でも疲れた／忙しかった」だとすると、今年度は「疲れた／忙しかった、楽しかったけど」だった。楽しさよりもしんどさが先に立ったようである。理由はさまざまあろうが、まずは非常に暑い時期にぶつかってしまったことがある。暑期中移動してさまざまな体験をするのが大変だったことは想像できる。また、最も多く寄せられたコメントは「やることが多

すぎる」というものであった。この点については、来年度に向けて郡上の皆様と相談させていただければと思っている。意外だったのは、何をするか予定を知らされていないから、急にやることを言われてびっくりして疲れたというコメントであった。この「予定を知らされていない」という不満は、郡上プログラムに限ったことではなく、他の活動についても寄せられた。郡上プログラムについては、前日の事前指導、またプログラム初日のオリエンテーションで説明をしているにもかかわらず、このような反応があるのは情報の送り手と受け手の認識のずれである。

ホームステイはほとんどの学生は楽しんだようであるが、初対面の人と生活することを苦痛に感じた学生が数名いた。対応に困ったホストファミリーもいたと聞く。本サマースクールは、参加者を募集する時点で、プログラムにホームステイが含まれることが明記されており、全プログラムに参加することが前提となっている。プログラム開始後の情報伝達も重要だが、応募段階でも情報をしっかり認識させる、認識してもらう必要があると痛感した。

宿舎のインターネット環境

今年度のハード面の最たる進歩は、宿舎でインターネットが使えるよう環境を整備したことである。無線LANによってインターネットにパソコンやスマートフォンが5台までつなげるようにした。昨年度までの「宿舎にインターネットが欲しい」という切実な要望を反映したこととなった。

実施側としては大いなる進歩と自負しているが、参加学生にとっては昨年度のことは自身とは関係なく、今年度のネット環境がどうかということにのみ意識が向かう。ネットが遅い、5台は少ない、独り占めして使う人がいた等々、ネットが使える便利さへのコメントより、不十分な点を書き連ねた回答が多かった。初めての試みなので、いろいろな不備があることは当然である。

また、宿舎でサマースクール参加学生とともに生活したチューターからは、別の観点から懸念の声があがった。特定の学生が、ネットが接続できる部屋に籠もってしまい他の学生やチューターとの交流をしなかったり、体調不良で授業を休んでおきながら徹夜に近いような状態でネットをしている学生がいたりしたというのである。

通信速度の遅さや接続可能台数の少なさは設備に

かかわることなので対応が難しいが、使用ルールを定めることで改善できることもあるだろう。来年度更に検討したいと考えている。

通学手段（スクールバス）

2007年度のサマースクールで、自転車の使用による怪我と病人が頻発したことを受け、2008年度から日本語授業や大学での行事がある日に宿舎から大学キャンパスまでのスクールバスを運行している。今年度も運行したが、その利用について参加学生から多くのコメントが寄せられた。

大学が学生の安全に配慮し、責任を持って対応するのは当然であろう。過去に少なからぬ交通事故が起きていることを知っただけで、何の対応もしなくてよいのだろうか。その疑問からスクールバスの運行は始まっている。学生の安全を願う、いわば親心からスクールバスを運行し、利用を勧めているのだが、それが参加学生の目には、自分たちの自由を縛り行動を規制するものと映り、双方にとって残念な印象を残してしまった。

通学手段でそんなにもめるなら、いっそ日本語授業担当教員が宿舎に出向いて授業を宿舎ですべて済ませてはどうかと提案してみたところ、見事に全員がそれは嫌だと回答した。日本の大学キャンパスで過ごすことも日本文化を知る一環だという主張であった。

スクールバスの運行には、少なからぬ費用がかかっている。今後について再度必要に応じて検討したい。

今年度のサマースクール全般についてのアンケート結果は、「とても良かった」6名、「良かった」10名（うち1名は「とても良かった」と「良かった」の間）と、まずまずの結果であったと思う。しかし、今年度は例年になくプログラムの最中から、さまざまな意見や要望が寄せられた。その一部はここに記載したものと重なる。全ての意見や要望に応えることはできず、また必ずしも応える必要はないと考えるが、次回までの宿題が多く残されている。

今年度のサマースクールも学内外の多くの方々のご好意とご協力をいただき、無事全日程を終えることができました。エクスカーションでお世話になった郡上、美濃、土岐の皆様にはお礼を申し上げますと同時に、今後も変わらぬご支援・ご協力を心よりお

願い申し上げます。

サマースクール参加学生に本物を体験させるために、実演をお願いしている能の味方團先生・田茂井廣道先生、狂言の山口耕道先生・茂山良暢先生には、今年度も快くお引き受けいただきました。どうもありがとうございました。

また、岐大生とサマースクール参加学生が交流する機会をいただいている工学部数理デザイン工学科の青木正人先生、新田高洋先生にもお礼申し上げます。

役員の方との昼食会では、多くの先生方のご参加をいただきました。この場を借りて、再度お礼申し上げます。

サマースクール参加学生が居住する学外研（学外合宿研修施設）では、管理人西川節子さんにお心配りをいただき、12名の宿舎チューターズには友人として、相談相手として、模範として、活躍してもらいました。ありがとうございました。来年度のサマースクールの無事の実施を祈念して稿を終えたいと思います。（文責：土谷）

Summary

Eight-week course students
Four-week course students

17 from Lund University (Sweden)
3 from Mokpo National University (R.O.K.)
20 in total

This year's summer school had 20 applicants for 25 places. Due to the impact of the accident at Fukushima No. 1 Nuclear Power Plant in the wake of the Great East Japan Earthquake on March 11, we were uncertain for a while whether the summer school could be held, but I was glad that in the end it went ahead this year with 20 students. A summary session (review session) was held this year again to obtain feedback from participating students. At the summary session, the students were presented with oral questions by the session facilitator, and were then asked to write down their answers in Japanese or English on the answer sheets provided. The main points from the feedback are as below.

Japanese Language Classes

Last year the Japanese language classes underwent considerable changes. Since we received mostly positive feedback from last year's students, we continued to conduct the classes basically in the same style this year. However, in complete contrast this year we received mostly critical feedback, which indicates the need for extensive improvements. For example, while four out of 20 students commented that the textbook *J Bridge* should be used for classes again next year, almost all of the rest of the students (15 students) said they felt that the textbook should not be used next year.

Meanwhile, most (16) students commented that the project work-based approach that was introduced last year should be used again next year. For this reason, we felt that the same approach could be used again next year. The approach was well received, probably because we decreased the number of presentations in response to the feed-

back from last year's students saying they found it hard to give so many presentations in the time available.

This year we received some comments that we had never received before about the number of instructors. For the Japanese language classes, there were two sessions per day from Monday to Thursday. Since each session was delivered by a different instructor, there were eight instructors in total. Unexpectedly, this year we received comments from some students such as "there are too many instructors," and "different instructors give different instructions on the same points." Japanese language classes were delivered by eight instructors in some previous years, but as far as I remember, we did not receive comments like these. We need to discuss this for next year's classes.

Excursions and Trips

Excursions and trips were organized for Gifu University Summer School to see the local features of Gifu. Excursions and trips in and around Gifu have almost become a standard. The following excursions were mostly well-received again this year: an excursion to Mino to try playing traditional Japanese drums; an excursion to Toki to try pottery making; and an excursion to the Nagoya Grand Sumo Tournament.

For the past few years, we have been wondering if we should continue to include an overnight trip (to Kamikochi, Takayama and Shirakawa-go) in the summer school program. However, we received positive feedback from all participating students on the overnight trip this year and so we will definitely continue to include it in the program.

However, there are two issues that need to be discussed.

Firstly, some students commented that the itinerary was so tight that they felt tired, even though we made this year's schedule less hectic in response to similar comments received from students last year. Secondly, we should discuss if Takayama and Shirakawa-go should continue to be destinations for the overnight trip, considering the outcome of the Gujo Program as described below.

Considering our policy of focusing on local features in Gifu, we would like to continue to include Takayama and Shirakawa-go as destinations for the overnight trip. However, in some cases students visited Takayama or Shirakawa-go with their host families during the Gujo Program (homestay program in Gujo) that took place before the overnight trip to Kamikochi, Takayama and Shirakawa-go. These students commented that the overnight trip was boring because they had already visited the same destinations before. It would certainly be a waste of time to visit the same places twice during their short stay in Japan. However, not all students go to Takayama or Shirakawa-go during the Gujo Program. We will therefore discuss whether to continue to include the two destinations in the overnight trip. However, Kamikochi is not a place that students would be likely to visit themselves and the trip has been very popular with students because of its beautiful scenery. We will therefore continue to include this destination in the overnight trip next year.

Out of all the off-campus activities, the Gujo Program, including a four-day and three-night homestay, can be the most exciting part of the summer school. However, the feedback from students this year was a little different from in previous years. Most students in previous years made comments like "I enjoyed the trip, but it was tiring/the schedule was hectic." In contrast, students this year made comments like "I was tired./The schedule was hectic, although I enjoyed the trip." It seemed to me that the trip was more tiring than enjoyable for students this year. There could be various reasons for this. One of the reasons may be that the

Gujo Program was held during a period of very hot weather. The most common feedback we received was "too many things to do." We will discuss this matter with the local residents of Gujo for next year's program. Meanwhile, we received unexpected feedback on the Gujo Program saying that students were surprised when they were unexpectedly asked to do things that they had not been previously told about and that they felt tired. We received similar complaints about activities other than the Gujo Program. In fact, we explained the schedule of the Gujo Program at a predeparture guidance session and an orientation session on the first day of the program. So it seems that there was a communication gap between us and the students.

Although most students seemed to enjoy their homestay, a few students felt uncomfortable living with people whom they had only just met. The summer school program brochure clearly states that a homestay is included in the program and that participation in all activities during the summer school program is a prerequisite for application. It is important to give participants information during the program, but we have become aware that we need to ensure that potential summer school participants are well informed about the entire program before they apply.

Internet Access at the Lodge

Internet access was made available via a wireless LAN at the lodge this year. Up to five PCs and smart phones can now be connected to the Internet at the same time. This improvement was made in response to past participants' request for Internet access at the lodge.

Although we regarded this as a significant improvement, naturally this year's students were only concerned about the current Internet access environment, and could not compare with past years. We received many negative comments such as, "Internet speed is too slow" and "some students monopolized Internet access," while we received very few positive comments on the convenience of Internet access. Naturally we had many problems, because this was the first year that Internet access

was made available at the lodge.

Meanwhile, Japanese tutors who lived with the summer school participants at the lodge voiced their concern from a different perspective. According to the tutors, some particular students holed up in a room with Internet access and did not interact with other students and tutors, others spent all day and all night surfing the Web, although they were absent from school because of illness.

It was difficult on our own to solve facility problems such as the slow Internet speed and the limited number of devices that can be connected to the Internet at the same time. However, we must improve the rules for Internet use.

Transportation (School Bus)

During the summer school program in 2007, many students were involved in bicycle accidents or became ill. In response, we introduced a school bus service between the lodge and the campus in 2008. We provided the same service this year and received comments about the service from many students.

Based on the fact that several students were involved in traffic accidents in the past, we provided a school bus service to ensure their safety. Although we provided the service only for the sake of the students, they thought the service would hamper their freedom and control their actions. This was an unfortunate outcome for both parties.

To solve the problem of transportation, we suggested that Japanese language instructors conduct classes at the lodge. However, all the students said this was unacceptable. Most students argued that experiencing university campus life in Japan was one of the best ways to understand Japanese culture.

In response to a questionnaire on their overall evaluation of this year's summer school program, six students answered "very good" and ten students answered "good." Therefore, I conclude that this year's summer school program was relatively successful. However, we received an unusually diverse range of suggestions and requests this year. We

cannot accommodate all the suggestions and requests and we do not necessarily want to. However, we have many issues to deal with before next year's summer school.

たいです。

- 伝統文化
- 日本歴史全般
- あまりないです。

5. 日本事情の講義の回数について

| | 多すぎた | ちょうどよかった | 少なすぎた |
|--------|--------|----------|--------|
| | 5----- | 3----- | 1----- |
| (回答者数) | 0 | 19 | 0 |

Ⅲ 日本人学生との交流授業 Exchange Class について（ルンド大生だけ）

1. 工学部数理デザインの学生との交流（6月22日）について

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|--------|--------|--------|---------|
| | 5----- | 4----- | 3----- | 2----- | 1----- |
| (回答者数) | 0 | 7 | 8 | 2 | 0 |

2. このような交流授業を、何回くらいしたいですか。

- 0回（しなくてもいい） 6
- 1回 4
- 2回 6
- 3回以上（ ）回 0

3. 交流授業について感想や意見があれば書いてください。また、日本人とどんなトピックについて話したいか書いてください。

- よかった！
- 工学部は男が少し多い
- 自分の国について話す。
- 分かりません
- 日本人の学生生活
- It was ok. but I didn't understand the purpose of the meeting.. Was it for them to practice English or we who school practice Japanese?（まあよかったが、しかしミーティングの意味が分からない。それは彼らの英語の練習のためか私達の日本語の練習の為なのかが）

Ⅳ 見学 Excursion・旅行について

見学（美濃 6/16：ルンド大生だけ・土岐 7/4・相撲 7/14），旅行（7/21-22）は、それぞれよかったですか。

【美濃 6/16・ルンド大生だけ】

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|--------|--------|--------|---------|
| | 5----- | 4----- | 3----- | 2----- | 1----- |
| (回答者数) | 8 | 8 | 1 | 0 | 0 |

【土岐 7/4】

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|--------|--------|--------|---------|
| | 5----- | 4----- | 3----- | 2----- | 1----- |
| (回答者数) | 6 | 12 | 1 | 0 | 0 |

【相撲 7/14】

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|--------|--------|--------|---------|
| | 5----- | 4----- | 3----- | 2----- | 1----- |
| (回答者数) | 6 | 10 | 2 | 1 | 1 |

【旅行（上高地・高山・白川郷）7/21-22】

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|--------|--------|--------|---------|
| | 5----- | 4----- | 3----- | 2----- | 1----- |
| (回答者数) | 14 | 6 | 1 | 0 | 0 |

感想や意見を書いてください。また、ほかに行きたい所や、サマースクールでしたいことがあれば書いてください。

- どこへ行っても美しい自然があってすごくよかったです。自然を保存する日本の努力に驚きました。
- とても綺麗な所に行けて色々な体験ができてとてもよかったですと思います。
- いい経験。
- 色々なことをしてみられてよかったです。
- 見学は全部おもしろかったと思います。自分でもそんなことをするのはたぶん難しいので、サマースクールといっしょにしてよかったです。
- 日本のれきしのゼミを聞いたかったです。
- （すもう）私達のせきはちょっとわるかったからみにくかったです。
- もっと旅行したい。
- もっと歌った方がいい。
- りょこうとかとてもよかったですけど、かんこうじをもっとみたかったです。がじかんがみじかかったです。

- ・見学旅行はすごく楽しかったです。日本のれきしきょうみがあるからせきがはらにいきたくて。
- ・いろんなけいけんができてとてもよかったです。とくにりょこうでかみこうちなどのかんこくじんはあまりしらないかんこうちにいったのでうれしいです。

V 郡上でのプログラムについて

プログラム（書道 calligraphy, 小学生との交流, 紙細工 paper craft, 郡上おどり Gujo dance, 茶道 tea ceremony, 剣道, ホームステイ）はどうでしたか。

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|------|-----|------|---------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (回答者数) | 10 | 8 | 2 | 1 | 0 |

感想や意見を書いてください。

- ・たのしかった。
- ・色々多すぎです。
- ・とてもかっこよくて（日本伝統文化は）とても楽しかったです。
- ・とてもとてもとてもよかったです！全部大好きでした。
- ・つごうが多すぎた。でも楽しかった。
- ・時間はみじかい、ステレックス（ストレス）よ！
- ・ちょっといそがしい
- ・紙細工なぜか分からなかった。意味なしかんじがした。
- ・スケジュールがいっぱい入っていたのでちょっと疲れましたがとてもよかったです。
- ・郡上に行った時の週はちょっとたいへんでした。
- ・ぐじょうでしたことは全部おもしろかったです。多すぎたと思います。私たちはとてもいそがしくて、自由の時間があまりありませんでした。それはちょっと大変でした。
- ・ぐじょうでのプログラムぜんぶいいたいけんでしたが、とくに小学校とのこうりょうはこのサマースクールしかできないけいけんでした。ありがとうございます。
- ・小学校との交流にとてもかんどうしました。やはりホームステイがいちばんよかったです。GUJOでもいろんなけいけんをしなければならぬのでホストファミリーとのじかんがみじか

くてとてもざんねんでした。

- ・ The school was the most fun. (学校が一番楽しかった)
- ・ The paper craft was kind of useless. May be you could let us do origami instead? Other than that au things we did were great. But too many and too little time for each things. The best part was playing with the children.

(ペーパークラフトはどちらかと言えば意味がないと思う。代わりに折り紙をさせてくれたらよかったのに。それ以外の他のことは私たちは楽しくやれた。でも短時間でたくさんのをやりすぎる。一番よかったのは子どもたちと遊んだことだ)

VI 宿舎 dormitory とチューターについて

1. 宿舎の設備 equipments について

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|------|-----|------|---------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (回答者数) | 5 | 7 | 6 | 1 | 0 |

宿舎にほしい設備があれば書いてください。また、問題点も書いてください。

- ・そうじきはだめだぞ。
- ・天火（オープン）
- ・オープンがあれば便利です。
- ・ An oven would have been nice. soundproof? the place! (オープンがあればもっとよかったです)

2. チューターが宿舎にいることについて

| | とてもよかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても悪かった |
|--------|---------|------|-----|------|---------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (回答者数) | 14 | 5 | 1 | 0 | 0 |

その理由を書いてください。

- ・チューター+++
- ・ハート
- ・たのしかった
- ・楽しいです
- ・大好き！
- ・いろいそだすけやじょうほうをくれました。
- ・いつも頼れる人がいてとても安心できた。
- ・たくさんの日本語を話せて色々な活動をしてとてもよかったです。

- チューターはやさしくておもしろかった。でもチューター達はあまり居なかった。
- よかったですけど、なかなかこないチューターがあったからほかのチューターがずっとかなしそうだったからつぎはせきにんのあるチューターをえらんでください。
- 理由が要りません。チューターさんはおどろくべき (amazing) でした。
- チューターさんはいつも手伝ってくれました。
- チューターはよくわたしたちを手伝ってくれましたし、たくさん日本語を話せて聞けましたし、よくおもしろいことをいっしょにしましたし、とてもよかったです。

Ⅶ サマースクール全体について

1. このサマースクールの全体的な評価 evaluation について

| | | | | | |
|--------|-------------|------|-----|------|-------------|
| | とても よかった | よかった | ふつう | 悪かった | とても 悪かった |
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (回答者数) | 6 | 1 | 9 | 2 | 0 |

2. これからのサマースクールのために、提案 suggestion や意見があれば書いてください。

- ありません
- 自転車で通学させてください。
- チューターにもっと金をあげてね。
- もっと自由が欲しかったです。バスもいいけどたまに自転車で学校へ行けばよかったです。
- バスでも自転車でも大学まで行けるといいです。そして先生が多すぎると思います。
- みんなの名前を覚えなし教え方がとても違うしちょっと不安でした。
- 授業はよかったんですが教科書があまりよくなかったです。文法はあまり説明してもらいませんでした。文法のれんしゅうあまりありませんでした。でも、授業の先生はおもしろくて、たのしかったです！
- とてもよかったんですが WIFI を 5 人しかつかうのができないのでちょっとふまんでした。
- Schedule が韓国の学生がくる時, focus で hard な schedule でした。2 しゅうかんくらいは、もっとゆっくりな schedule をすればよかったですと思います。
- It would have seen nice to have more time to just talk with Japanese people. And the lec-

tures was interesting, but it is Exhausting to listen to Japanese for such a long time, and there was too many in a row before Gujo which was fun but also exhausting, being in a country with people ALWAYS speaking a language you don't understand well enough to relax in if waves head hurt. The intentions in showing us all the things where nice but more time to rest would have seen really nice. The tutors were awesome.

(もっと日本人とお話する時間があったらよかったのに、講義は面白かったけれど日本語を長時間聞き続けるのは疲れる。郡上のホームステイの前はいろいろなことがありすぎて疲れた。分かってもらえないかもしれないが、日本にいるといつも日本語を話さなくてはならなく頭がクラクラして十分な休息が出来ない。私たちのためにいろいろなことを見せてくれるのはありがたいがもっと休息する時間がほしかった。チューターたちは素晴らしかった。)

- Ryugakusei center can inform people about what with happen on travels etc. earlier than on the same day. We never fully when what was going to happen or what we were going to pad.? same things about the cleaning of Gakugaiken. You told us the morning the same day you were going to clean on us so that we had heied? everything at 1 o'clock? Not away!

Not us let go to school by bicycle.

Have fewer teachers and have them communicate with every each other so we got the same introductions from everyone.

(留学生センターがもっと旅行の時などいろいろと何をするか知らせてくれたらよかったのに、当日ではなくもっと早めに。同じことが言えるように学外研の掃除も朝に来て私たちは全てを 1 時まできれいにしなければならいなんて信じられない！)

私たちを自転車で学校に行かせて！

もっと先生の数が少なくて、それぞれの先生同士でコミュニケーションを取れば、その都度私達は同じ自己紹介をみんなにしなくてよかったです。)

第二部 夏期短期留学（派遣）

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計16人）

日程：2011年8月25日（木）～9月24日（土）5週間プログラム

| | 氏 名 | 学 部 | 学年 |
|----|---------|-----------------|----|
| 1 | 佐部利 大 樹 | 工学部機械システム工学科 | 4 |
| 2 | 平 賀 絵 南 | 応用生物科学部食品生命科学課程 | 4 |
| 3 | 平 野 立 顕 | 地域科学部政策学科 | 3 |
| 4 | 大久保 如 野 | 工学部生命工学科 | 3 |
| 5 | 田 淵 晶 子 | 工学部生命工学科 | 3 |
| 6 | 石 村 真梨乃 | 地域科学部政策学科 | 2 |
| 7 | 毛 利 彩 香 | 医学部看護学科 | 2 |
| 8 | 猪 飼 祐 作 | 工学部人間情報システム工学科 | 2 |
| 9 | 神 崎 真 吾 | 工学部生命工学科 | 2 |
| 10 | 井 藤 はづき | 応用生物科学部生産環境科学課程 | 2 |
| 11 | 佐 藤 聖 人 | 応用生物科学部生産環境科学課程 | 2 |
| 12 | 渡 邊 みなみ | 応用生物科学部生産環境科学課程 | 2 |
| 13 | 平 野 芙 実 | 医学部医学科 | 1 |
| 14 | 釣 餌 咲 希 | 医学部医学科 | 1 |
| 15 | 井 端 ひかり | 工学部応用情報学科 | 1 |
| 16 | 清 水 美 帆 | 工学部応用情報学科 | 1 |



事前研修に関して

毎週月曜日と木曜日の週2回2人ずつ4人の留学生が講師として、私たちに英語を教えてくださいました。曜日は参加者の都合を考慮して決められました。授業にはサマースクール参加者以外にも生きた英語を学びたいと参加する学生もいて、自由に授業を受けることができました。日によって授業の形式は様々でしたが、主に会話表現と文法、語彙を学びました。

会話表現の授業では、ペアを作って留学生が作成してくれた資料をもとに会話をしました。

また、2つのグループに別れて円を作り、留学生が提供する話題についてみんなで話をする、どんな質問でもいいので順番に指名して質問し合うことなど、全て英語だけを使って会話の練習をしました。

文法、語彙の授業では、前置詞の使い分けや機内や空港で役に立つ語彙などを学びました。そういった全ての資料を留学生が一生懸命作ってくれました。また、授業中にも「どんなことを学びたい?」、「どんな授業をしてほしい?」など、こちらの意見も取り入れながら授業を進めてくれました。好きな映画について説明をし、みんなでその映画のタイトルをあてるといったゲームもありました。英語で説明するということが簡単なようでとても難しかったです。

オーストラリアに行く前にこのような経験をしたことで、英語に対する不安が少なくなりました。事前研修に参加したサマースクール参加者は、回を重ねるにつれ、英語に慣れていったように思います。

英語の授業以外にも、オーストラリアでの生活で困らないように、生活習慣や文化の違いなどを教えてくださいました。留学生は私たちの不安が少しでもなくなるように様々な面で配慮してくれました。とても意味のある時間でした。

（平賀 絵南）

せっかくの留学の機会を無駄にする最大の原因の一つは、恥ずかしいと思う気持ちである。例えば、初対面の方と英語で会話する時、間違

えないだろうか、聞き取れるだろうか、思いが伝わるだろうか、会話が続くだろうか、と思うのではないだろうか。そのように考えることで、会話することを諦めてしまい、せっかくの機会を無駄にしないだろうか。事前研修では、その対策として積極的に話し、分からない時は分からないと伝え、互いに教え、助け合う必要がある。

現地での授業では、ディスカッションの機会が多く、他の国からの留学生と話す機会も多い。そのため、事前研修では講師の留学生を交えての会話の時間が長く設けてあった。事前研修で積極的に話すことは、講師の留学生から単語、文法や発音などの間違いを指摘してもらえる好機である。さらに、指摘してもらったことは印象に残り、二度と間違えることはないだろう。このように、積極的に話し、間違いを通して学習することが必要である。

研修中の会話において、すべての会話を聞き取り、内容を把握することや自身の考えを完璧に伝えることは簡単なことではないだろう。そのため、分からない時は分からないと言う必要がある。分からないままにすると、さらに会話の内容が分からなくなり、思ったことを表現できず、会話ができなくなる時が多くあった。しかし、質問することで講師の留学生、周りの学生がより簡単な単語、表現で教えてくれる。そのようにすることで、会話の内容を理解し、他の単語、表現も覚えられるだろう。また、講師の留学生、周りの学生、他の参加者との会話の機会にもつながる。

このように、事前研修では、積極的に話し、質問することで恥ずかしさを少しずつでも改善していきたい。やはり、事前研修の初期の段階では恥ずかしい気持ちによって、間違えないだろうか、聞き取れるだろうか、思いが伝わるだろうか、会話が続くだろうかと思うだろう。しかし、その恥ずかしいと思う気持ちがすべてを無駄にする。せっかくの機会を無駄にすることが、最も恥ずべきことである。事前研修を通して、一步踏み出せるようにしていきたい。

（佐部利 大樹）

授業に関して

当たり前ですが、オーストラリアでは日本語が通じないので、毎日すべてのことを英語で話す必要があります。そういった点で、オーストラリアへのサマースクールは英語を学ぶには最高の環境です。私達が行った GELI (Griffith English Language Institute) は大学のキャンパス内には無く、Griffith 大学本校で勉強できるようにするために英語を学ぶ学生と、私達のような短期留学の学生と一緒に勉強する学校です。ですので、同年代のオーストラリア人の学生はいませんでした。

オーストラリアへ着いた初日は GELI の説明や、ホームステイ先のご家族に会う等で時間を過ごし、2日目にはクラス分けのためのテストを受けました。ライティングと会話形式のテストでした。日本にいる間にそれなりに勉強しておかないと難しく感じるかもしれません。

授業は、日本の高校英語で習った文法とニュースや日常生活で使うような単語、フレーズ、文法（推量、完了形等）を英語で習うという感じのものでした。同じクラスの学生はアジア人が大勢いましたが、皆非常に積極的に話していました。最初のうちは英語で話すことに緊張していたうえに、彼らに圧倒されて全然言葉を発せませんでした。GELI でできた友達やホストマザーに、「日本人の学生は英語を話す時に shy になるうえに、君は間違えることを恐れている。けど、間違えても気にしちゃダメ、話さないで進歩しないよ」、「考えるな、恐れるな、ただひたすら話せ」と言われて、少しずつ英語を話す生活に慣れました。やっぱり言葉は話さないとう達しませんよね。そう思って休憩時間は気の合う中国人やタイ人の学生と過ごしたり、授業後は GELI の近くにある図書館へ行ったり、Facebook でサークルが同じ留学生とチャットをする等をして、時間を過ごしました。また、GELI が企画したアクティビティに参加したり、GELI の学生と遊んだり、道で出会った人と会話することもありました。また毎週金曜日の授業で、新聞を読んで要約し、他のクラスメイトに紹介する時間がありました。

（平野 立顕）

この報告書を手にした学生さんは、留学に興味がある！サマースクールに行きたい！と

いう方々なのではないかなと思います。そこで、今回はグリフィス大学でのサマースクールの授業について紹介したいと思います。

まず、僕らが一番驚いたのは、英語を学ぶ場所がグリフィス大学のキャンパス内にはないということです。僕らはショッピングセンター内にある、日本でいう駅前留学のような場所に5週間通い続けました。留学に行くまで、そのことを知らなかったため、とても衝撃を受けましたし、本当の事を言うとメインキャンパスで学びたかったです。

そして僕達は現地に到着した次の日にクラス分けテストを行いました。内容は文法と英作とスピーキングだったと思います。その結果を基にクラスが分けられます。しかし、かなりの突出した英語力が無い限り、みんな同じぐらいのレベルに分けられます。そのためクラスの半分が日本人という状況になることが多いです。それが嫌なら出発前はかなり英語力を付けることをおすすめします。ちなみに僕のいた GE 4 には18人の学生がいて、その内の10人が日本人でしたが、なるべく英語で会話するように心がけたので、自分には十分な環境でした。

授業は、文法、リスニング、リーディング、スピーキングを同量ずつこなして行きました。全てが英語なので、耳が慣れるまでは時々何を言っているのかわからない事もありましたが、文法のレベルなどは中学程度なので、あまり問題はありませんでした。

授業の時間は8:15~12:45の午前中のみで、午後はフリーでした。内訳は2時間Class, 30分Break, 2時間Classという形で、途中のBreakでは軽食を買って食べたり、新しくできた友達たちと雑談したりと自由な時間を過ごしました。

授業後は学校のアクティビティに参加したり、ショッピングや図書館、グリフィス大学のメインキャンパスに通ったりしました。また、放課後で一番楽しかったのはBBQです。ゴールドコーストのビーチや公園には無料で使えるBBQセットがあり、新しくできた友達や廊下で会う人達に声をかけて、週に2回ぐらいのペースでBBQをしていました。いろんな国の人たちと仲良くなれたし、カンガルーの肉など日本では食べることのないものを食べることができていい経験でした。

最後に、一番重要なのは積極的に発言したり、話



かけたりすることだと思います。そこから生まれる出会いや友達はかけがえのないものです。今は Facebook という便利な SNS があるので、それを始めてみるのもいいと思います。僕も Facebook で今回出会った人たちと繋がり、メッセージのやり取りをしたりしていて、いつかみんなの国を訪れたいなと思っています！

（佐藤 聖人）

サマースクールに参加する前は、すべて英語で行われる授業についていけるのかな…という不安がありました。でも実際に授業を受けてみると、先生はゆっくりと簡単な言葉を選んで説明してくれるので、とてもわかりやすく、大抵のことは理解できました。もし、聞きとれないときがあっても聞き返せば丁寧に言い直してくれるし、他のクラスメイトに聞けば助けてくれたので問題はありませんでした。

授業でやっていること自体はとても簡単で、受験英語を一通りやってきた私達にとって理解できないことはないのですが、それを英語で説明するのが難しく、他の学生と答え合わせをする時に自分の考えを押し通せなかったのが悔しかったです。授業を通して、日本人は本当に静かだなと実感しました。私を含め日本人学生は話し合いの時あまり発言しないので、よくクラスメイトに Don't be shy!! と怒られました。クラスメイトは本当にいろんな国から来ていて、興味深かったです。様々な国籍、年齢、宗教、言語の人と触れあうことができました。ここに来ている理由も様々で、オーストラリアの大学に入るために勉強している人もいるし、母国が危険な状況にあるから仕方なく来ているという人もいま

す。国によって英語の訛りがそれぞれ違って最初はとても戸惑いましたが、仲良くなってくると、どこで訛るのかなんとなくわかって理解できるようになりました。

（渡邊 みなみ）

まず、到着した翌日にクラスを決めるためのプレACEMENTテストを受けた。テスト内容は、reading と speaking が中心だった。自分の経験に関する質問や短いエッセイを書く問題もあった。このテストを基にして、英語力に適したクラスに振り分けられるので自分の力に合った授業を受けることができる。

授業は、日本人、中国人、韓国人、アラブ人など様々な国や地域の人とともに行われる。そのため、授業中に使われる言語はすべて英語となる。最初は、英語での授業に慣れなくて戸惑うことも多かった。しかし、そうして英語で聞くこと、話すことが当たり前になると、自然とリスニングやスピーキングの力がついてくる。授業内容は、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングと多岐にわたっていた。授業の合間には、グループでディスカッションする時間もあり、他国の人と交流し、仲良くなるきっかけとなる。日本人の話す英語と外国人の話す英語の発音は異なるため、それを聞き取ることは困難であると感じた。しかし、互いにネイティブではないため、私たちが話す拙い英語にも必死に耳を傾けてくれるし、間違いも共有することができる。授業の雰囲気は、日本での講義とは大きく異なっていた。日本では、講師が一方的に授業を行うことが多いが、グリフィス大学では、学生が積極的に発言しており自由な雰囲気だった。



気持ちでいっぱいです。誕生日プレゼント、最後の日にもらった帽子、メッセージカードも全部宝物です。オーストラリアでの5週間をShirleyと過ごせて、私は幸せです。ありがとうございました。

（田淵 晶子）

私のホームステイ先は夫婦2人で共働きだったので、朝は早くに出かけ、夕方まで帰ってきませんでしたが、毎晩おいしい夕食を作ってくれました。毎日夕食を楽しみに帰宅していました。また、バーベキューやホームパーティーに連れて行ってもらえることもあったので、日本ではあまりできないような経験をすることができました。平日は学校、休日は観光に行き、日中は家にいることはほとんどありませんでしたが、家に帰ったらホストファミリーがいろいろ話を聞いてくれたので、すぐに打ち解けて家での時間も楽しく過ごすことができました。また、私のホームステイ先では食べ物やジュースも自分で自由にしてよく、シャワーやトイレも家に2つあり、ホストファミリーと別だったので、時間など気を遣いすぎることなく使えたのがよかったです。洗濯も頼んだらすぐに洗濯機を使わせてもらえたので助かりました。もっと落ち着かないものかと思っていたホームステイも、実際家族のように優しく受け入れてもらえたのでとても楽しかったです。

また、ホームステイ先では当然友達がいるというわけではなかったので、必然的に自分でなんとか英語を話そうという状況になり、がんばって英語で言いたいことを伝えることができました。うまく伝えられないこともありましたが、家ではホストファミリーと自分しかいないので、他の英語がうまい人に

気圧されるようなこともなく、自力でなんとかしようと思えたのがよかったです。

現地での生活を実際に経験したり、英語を積極的に話したりすることができたのは、ホームステイならではのと思いました。とても楽しかったので、ホームステイができて本当によかったです。

（清水 美帆）

今回のサマースクールでのホームステイが私にとっては初めてのホームステイでした。他の参加者からホームステイ生活について聞いたところ、何もかもがその家によって違っていらしたので、一例として考えていただけたら幸いです。

まずは私のホストファミリーと彼女たちとの思い出についてです。私のホストファミリーはホストマザー、シスター（教員として働いている）、犬2匹でした。ホームステイ週間日は他大学の日本人学生や中国人留学生もともに滞在していたのですが、二人とも途中で国に帰ってしまいました。そのため基本が大人2人の家庭でしたので、「テーマパークへ行こう！」というようなことはありませんでしたが、海が見えるレストランに何度か連れて行ってもらいました。その途中、ホストシスターの友人のお店に行ったり、ホストマザーの叔母さんの家を訪ねたり、ホストファミリーの家にホストマザーのお孫さんが遊びに来て、一緒に折り紙をして遊んだりしました。みなさん優しく話しかけてくださり、とても心豊かになる出来事がたくさんありました。何よりも忘れられないのは私が風邪をひいてしまった時のことです。ホストマザーが近所の診療所に連れて行ってくださり、その後の看病もしてくださいました。とても親切なホストファミリーとそのまわりの方々に出会えて幸せでした。今でもホストファミリーとはメールでやり取りをしています。

次にホームステイ先でのルールについてです。私のホームステイ先では次のようなルールがありました。5時半までに帰ってくる（遅れるときは事前に知らせること）、ホストシスターが早く寝るときは9時以降にシャワールームを使わず、ドライヤーも9時まで済ませてしまうこと、バスタオルは一枚を使ったら乾かして一週間ほど使うこと、シャワーは4分まで。一番苦労したのは二点目のシャワールームのことでした。「何日に早く寝る」という明確な予定がなかったので、シスターの動きを観察して「今日は早く寝ようだな」と感じたら、

早めにシャワーを浴びていました。

最後に、次からホームステイされる方へのアドバイスです。アドバイスは5つあります。まず一つ目は、お土産を持っていくことです。そこから会話が広がっていくのでとてもおすすめです。折り紙は小さな子どもが喜びます。二つ目は変圧器についてです。持っていく前にオーストラリアのプラグの形かどうか、充電器対応か、ドライヤー対応かということをしっかり確認しましょう。三つ目は、持ち物についてです。荷物の重さを計りたい人は小さい体重計を持っていくことをお勧めします（体重計がない家が多いので）。他に、海外対応のドライヤーもお勧めします。パソコンについては、滞在中に使いたいのであれば持って行ってください。パソコンがない家もあります（学校でパソコンを貸してもらえましたが、日本語が正常に表示されませんでした）。四つ目は、積極的に話しかけることです。せっかく留学をしたのですし、コミュニケーションをとってお互いに慣れていくほうが過ごしやすくなりますし、楽しいホームステイ生活になると思います。五つ目は、しっかり自分の意見を言うことです。家のルールでわからないことは「わからない」、何かしたいことがあれば「～したい」、何か嫌なことがあればその旨を伝えましょう。特に家のルールについては、わからないまま適当に済ませてしまうよりもきちんと尋ねたほうがお互いに快適に過ごせます。

最後に、私はこの初めてのホームステイ生活を通して、ホームステイとは「友達の家にお泊りする」ことでも、「お客さんとしておもてなしされる」ことでもなく、「ある家族の生活の一部となって一定期間ともに家族として過ごす」ことなのだということを感じました。

（石村 真梨乃）

 私のステイ先は、マザー1人と犬1匹という家庭でした。マザーは60歳くらいで、英語教師と観光客のガイドを仕事にしていました。とても気さくな人で、初めから緊張することなく生活することが出来ました。平日の午後には、何度か景色がきれいなところに連れて行ってくれました。

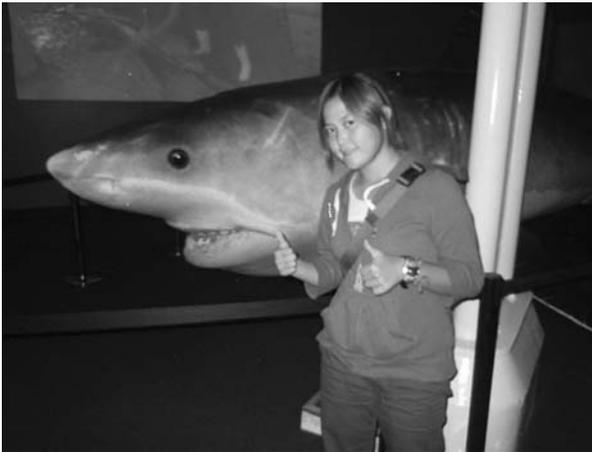
朝は毎日6時に起きていました。家を出るのは7時半過ぎだったので、かなり余裕のある朝を過ごしていたと思います。朝食は自分で準備して食べていました。シリアルかトーストで、時々夕飯の残りを食べ、自由にさせてもらっていました。お昼はファ

ストフードが多かったです。節約のために、友達とスーパーで50¢のパンを買って食べたこともありました。午後は毎日どこかに出かけて、17～18時頃に帰宅していました。夕食がいない日と帰宅が遅くなる日は、18時までには連絡を入れるよう言われていました。夕食は19時からが多かったです。食事の後は毎晩、リビングでのんびりしていました。本当に居心地がよくて、初日から自分の家のようにくつろがせてもらっていました。マザーが仕事していることが多かったので、私は隣で日記を書いたり、パソコンをやったり、テレビを見たりしていました。基本的に22時には寝ていたと思います。日本では考えられないほど、規則正しい生活を送っていた気がします。

私の家は学校から徒歩25分くらいのところにあつたので、学校へは徒歩で通っていましたが、雨の日と暗くなった時だけバスに乗りました。また、通学路にあるお店の人とあいさつするのが日課で、毎日の楽しみになっていました。徒歩通学する上で、マザーからは必ず左右を確認してから道を渡りなさいとよく言われました。実際に、日本以上に車優先の社会で、歩行者優先標識がない交差点では車が突っ込んでくるので何度か危ない目に遭いました。

洗濯は、自分でしたい時にして良いという感じでした。私は週に1回の頻度で洗濯していました。私の家では、タオル類・薄い色の衣類・濃い色の衣類に分けて洗濯していました。1回目はマザーの服と一緒に洗ったのでそうでしたが、2回目からは自分の物は一度にまとめて洗って干していました。シャワーは何時に入っても何も言われなかったです。最初の1～2週間は寒くてつらかったです。水不足で使用制限があると聞いていましたが、マザーから特にそういった説明はされませんでした。何度かお湯が出なくなって大変な思いをしました。

私のステイ先は、1階はLDK・2階に3部屋とバスルームという間取りでした。私の部屋は10畳くらいあって、大きな机とソファ・ベットが置いてありました。来客中の時などは自分の部屋で過ごしていました。私物は全部クローゼットの中の引き出しに入れて使わせてもらっていました。パソコンは、無線LANを使えるようにしてもらえたので家の中では自由に使えました。ネットが使えない家庭、使用料が必要な家庭もあったようです。私の滞在先では23時半を過ぎるとネットが使えなくなりました。



イトクラブへ行くときはパスポートなど年齢確認できるものがないと、入店を拒否されます。オーストラリアのバーベキューは日本式とは違い、大きなステーキをそのままドカンと焼いたり、公園でする場合は食パンとソーセージ、玉ねぎなどの野菜を持って行ってサンドイッチにして食べたりします。また、主催者が料理をしてゲストはおしゃべりをしながら待ちます。料理ができたら各自で好きなだけ皿に盛り付けていただきます。家によっては、マナーとして家主が食べ始めるまで待つべきこともあるので、現地の人の子の家のバーベキューに招待された時は、まず他の人の様子を確認するといひと思ひます。

オーストラリアには日本には無いものや、日本とは違うものが沢山あるので、授業の後や休日を使ってそういった物事をいろいろと見に行きました。

（井藤 はづき）

私は休日、大型ショッピングセンターに行ったり、ゴールドコーストの様々な観光名所に行ったり、ビーチやカフェでのんびりしたり、近所の子供たちと遊んだり、世界遺産であるフレーザー島に旅行もしました。全て忘れられない素敵な思い出ですが、特に心に残っているのは何といひってもホストマザーの Kaye と過ごした休日です。

1泊2日のキャンプ、サッカー観戦、ビーチ、教会、パブなど時間が合えば色々な場所に連れていひてくれ、観光では決して味わえない素敵な時間を過ごすことができました。

四苦八苦しながらテントを組み立てたり、大声でサッカーの試合を応援したり、ビーチで太陽を浴びながらお昼寝したり、パブでガールズトークをした

り、Kaye とは常に笑いが絶えませんでした。

学校は午前中に終わり、休日も十分にあります。こちらの生活リズムに慣れてくれば、自然と時間の使い方もうまくなると思ひます。しかし、あらかじめ自分が何をしたいか、どこへ行きたいか予定を立てておくといひより良いと思ひます。

このサマースクールは5週間です。5週間しかないと思ひるか、5週間もあると思ひかは、自分次第です。私は全てにおいて意味のないことはないと思ひますし、「今」は全てこの先の自分に繋がり必ず影響すると思ひます。このサマースクールでは日本では感じ取れないことがたくさんあり、観光では体験できないことがたくさん体験できたので、必ず自分の成長に役立つと私は思ひます。チャンスがあるのなら、是非参加してください。

（大久保 如野）

私にとって、5週間のサマースクールは夢のような日々でした。この短い時間を存分に楽しむため、私はオーストラリアでしかできない体験をしようと心に決めていました。日本では、休日といひてもアルバイトをしているか、暇なときは家で過ごすことが多かった私ですが、それではもったいないと、オーストラリアではアクティブに動き回りました。幸運にも、私のホストマザーは一人暮らしでしたが、とてもアクティブな人で、いろいろなところに連れて行ってくれました。ある日の夜はジャズを聴きに行ったり、買い物に出かけたりすることもありました。ある週末はカントリーミュージックのお祭りにいこうと誘われました。これは、車で2時間かかるジンピーという山中で、キャンプをしながら3日間カントリーミュージックの野外ラ



イブを楽しむというものでした。私は雨女なのですが、ゴールドコーストは雨が少ないと聞いていたので大丈夫だろうと思っていたら、見事に大雨でした。雨がザーザー降る中、レインコートとレインブーツで泥だらけになりながら音楽を聴いたり、びしょぬれの布団で雨音を聞きながら寝たことは、今ではいい思い出です。このお祭りには、ホストマザーの親戚や友達と一緒に参加したのですが、みんなとても陽気で親切にしてくれ、あたたかく迎えてくれたのでとてもうれしかったです。最後には、一緒に踊り、ビールを飲んで本当の家族のように仲良くなりました。このあとも、ホストマザーの兄弟の家に招かれてBBQをしたり、家で一緒にご飯を食べたりしました。家族の時間をとても大切にしていることに感動したし、このような何気ない、ゆったりとした時間があるから、オーストラリアの人々はおおらかで、陽気で、あたたかい人が多いのだろうと思いました。なかなか思うように英語が聞き取れず、

日本の文化を分かりやすく伝えることができなくて悔しい思いもしました。でも、この経験があったおかげで、英語をもっと上手くしゃべれるようになりたいと思えたり、日本についてももっと知らなければならぬと感じました。

このほかにも、一緒に行ったサマースクールのメンバーでフレザー島に1泊2日で旅行に行きました。オーストラリアの海も山も空も動物も食べものも、すべてを堪能できた2日間でした。夜、砂浜で満天の星空を見たり、早起きして朝日が水平線から出てくるのを見たとき、心が穏やかになって、ほんとうに幸せでした。また語学学校のアクティビティで動物園に行ってコアラやカンガルーを見たり、友達と買い物に出かけたり、とても充実した休日を過ごしました。休日は平日よりも時間があるので、ブリスベンへ行ったり、シドニーへ行ったり、遠くに出かけるのがいいと思いました。現地の旅行会社でも日本語で対応してもらえたり、安心して旅行の計画ができ、相談にものってもらえてよかったです。

オーストラリアでの経験は、とても大きな影響を与えてくれ、成長につながりました。なんでもまずやってみなければわからないと思ったし、やってみればなんとかなるという自信にもつながりました。またいつか、オーストラリアに行って、お世話になった人々に会いたいです。

（毛利 彩香）

休日は色々な過ごし方があると思います。僕の場合は学校のアクティビティに参加し、日本人の友達と休日を過ごし、2泊3日のシドニー旅行をしました。

最初の休日は、岐阜大の友達と海で遊んだり、ゲームセンターへ行ったり、ジャズフェスティバルのジャズを聴いたり、Pacific Fairというショッピングセンターで買い物をしたりしました。

海に行った時、砂浜の砂がきれいめで、甲子園の砂のように持って帰りたい気分になりました。またゲームセンターには日本にあるような機種がいくつかあり、全体的に日本と変わらない印象だと思っています。

次の土曜日は、岐阜大学のみんなとBrisbane観光が組んであったので、それに参加しました。しかし雨だったので、美術館とカンガルーポイント（カンガルーは見えません）と市内観光ぐらいしかできなかったです。美術館は日本ではほとんど行かない



けれど、ここはおもしろかったです。また Brisbane の町は全体的にレトロな建物が多いなと感じました。日曜日は映画の「ハリーポッター最終章」を見にショッピングセンターに行きました。また帰りにサーファーズパラダイスにあるアトラクション（絶叫マシン）に乗り、怖くて涙しました。

次の金曜日はゴールドコーストショーに行ったけれど、childishであったため、動物とコントショーを見ただけで帰りました。その後、オーストラリアで知り合った日本人の友達の家に行きました。その人は39階建てビルの29階に住んでいました。彼は毎日ホテル気分を味わっていることでしょう。

また、土曜日は学校のアクティビティで Mt.Tamborine に行きました。この日は一日中山の中を歩き続けたので、足がとても疲れました。

日曜日は岐阜大学の友達とドリームワールド（遊園地）に行きました。どれも面白かったですが、中でも「エアリアン vs プレデター vs you」というアトラクションが面白かったです。ビームガンのような

なもので実際に相手を狙うゲームです。ぜひ行ってみてください。

次の土曜日は学校のアクティビティで Curumbin Wildlife Sanctuary へ行きました。ここでは本当にたくさんの動物を見て触って写真を撮り餌をやって、その中で学校の外国人の友達とも仲良くなることができました。値段も安くてオススメです。

日曜日はとても天気良かったので海に泳ぎに行こうとしました。しかし波が強すぎて泳げず、ただ流されてばかりでした。でもこの海の波の魅力と砂浜の気持ちよさは今までに体験したことがないくらいすばらしかったので、行くべきだと思いました。

そして最後の休日は、3日間シドニーに行きました。シドニータワー、オペラハウス、ハーバーブリッジ、ボンダイビーチ、ブルーマウンテンズ、水族館を体験しました。中でも水族館はオススメです。安くてサメ、ジュゴン、エイ、カモノハシ等々の大きなものから、首の長いカメやウツボのようなウナギが見られます。シドニーは、Brisbane よりもレトロな建物が多い印象を受けました。シドニーへは1人で行って、ツアー旅行に参加したので、英語を1人で使わなくてはいけない時もあったし、日本語ばかりの時もありましたが、本当に良い3日間だったと思っています。

このように休日を過ごしていました。僕は休日なのに家にいず休まなかったので、1日か2日くらいはゆっくりしてもよかったかなと後になって思いますが、でもとても中身の濃い休日を過ごせたので満足でした。

（神崎 真吾）



総

括

私は海外旅行が大好きです。海外に行けば、日本とは違う国の文化に触れることができるからです。しかし自分の英語力が乏しいがゆえに、現地の人と触れ合う機会が少ないことに物足りなさを感じていました。「英語を通して多くの国の人々と出会い、自分の世界観を広げたい」—これが私の目標になりました。言語は生きています。言語を学ぶには、その土地に行っておぼくことが近道です。英語を上達させるために語学留学をしたいとずっと思っていました、なかなか踏み出すことが出来ず、気がつけば4年生になっていました。「今年が語学留学できる最後のチャンスだ」と思い、サマースクールへの参加を決めました。5週間という限られた時間の中で少しでも上達したいという気持ちから、事前研修には積極的に参加しました。この研修に参加したことで、英語に対する抵抗が少なくなりました。

期待と不安いっぱいだったサマースクールでは、多くの文化の違いを感じました。ホームステイは私にとって初めての経験で、何もかもが新鮮でした。例えば、朝は必ずシリアルとパンであることやオーストラリアは水不足なのでお風呂は4分までであること、洗濯は大きな洗濯機がいっぱいになるまで回さないことなど様々です。

私がこのサマースクールを通して一番衝撃を受けたことは、ほとんどの国の人が英語の会話力があるのに、文法を知らないということです。日本人は逆に文法は知っているけれど、会話力が弱い人が多いです。また、日本人はとてもシャイであるということです。初めて授業を受けたとき、授業が始まるやいなやみんな英語で議論を始めました。日本では授業を受けているときは静かにするというのがマナーなので、最初はいきなり話し始める雰囲気に驚きました。日本人は黙って聞いている人がほとんどなので、他の国の人にいつも「talk! talk!」と言われる。自分の英語がちゃんとあっているかな、間違っていたら嫌だなと思い、初めは全く自分の言いたいことを伝えることができませんでした。他の国の人にはあんなに話せてすごいなと思っていました。しかし何回も授業を受けていく中で、皆の話している英語が聞き取れるようになり、皆が話してい

る英語の文法がめちゃくちゃであることに気がきました。しかし、間違った英語でも伝えようとする気持ちが大切であることに気がきました。それがわかっただけからは、間違っていたら嫌だなと考えるよりも、まずは頭に浮かんだ英語で話してみることが大切だと思うようになり、授業でも積極的に発言することができるようになりました。クラスメイトとも打ち解け、冗談なども言い合えるようになりました。様々な国の人と友達になり、違う文化に触れ、もっと他の国について知りたいと思うようになりました。それと同時に日本の良さを知ることもできました。オーストラリアで出会った多くの人に「Where are you from?」と聞かれ、「Japan!」と答えると、ほとんどの人が暖かく接してくれます。日本の中にいたら日本の良さには気が付きません。多くの国の人が日本について良いイメージを持っているのは、日本の誇りだと思います。自分も海外に行くときには日本人の代表でもあるのだと思って、海外の文化を感じ取るだけでなく、自分の行動に責任を持つべきなのだと思います。

サマースクールを実現するにあたって企画してくださった方々や一緒に参加した友達、サマースクールで出会った人たちなどすべての人に感謝したいです。ありがとうございました。

(平賀 絵南)

なぜ留学に行くのだろうか。多くの人は英語力、特にリスニング、スピーキングのスキルアップのためと考えるのではないだろうか。しかし、昨今のメディアの発達、英会話教室の増加等により、日本国内においてもそれらのスキルを向上させることはできるだろう。例えば、CDやインターネット等により、リスニングの練習をすることができるだろう。また、英会話教室や他の国からの留学生との会話により、スピーキングの練習もできるだろう。このように、日本国内でも英語の学習環境がある程度は整っている。しかし、なぜ敢えて留学に行くのだろうか。

私は、海外へ行く事、学習してきた英語で実際に会話する事、さらなる英語力を身につける事への興味から今回の短期留学に参加した。しかし、今回の

短期留学を通して、英語の学習だけではない、留学の魅力、意義を感じた。外国の方々とコミュニケーションを取ることで、新たな事、それまで当然の事として意識していなかったことの重要性に気付いた。

オーストラリアに滞在中、私が通っていた語学学校の先生との会話を通して、オーストラリア料理の店が非常に少なく、明確にオーストラリア料理と定義できるものが少ない事を知った。さらに、ホームステイ先の近所の方とそのことについて話した時、オーストラリアは歴史が浅く、伝統や文化などが多数存在する日本が羨ましいと言われた事が最も強く印象に残っている。日本食、着物、芸能など、日本の文化は世界の多くの人々から注目されているが、私自身はそれまで意識していなかった。なぜなら、あまりに日常的であり、それが当然のことのように感じ、意識することではないと考えていたからである。このとき、日本に生まれ、育った事を誇らしく感じたが、同時に自国の伝統、文化への意識の低さにも気付いた。

また、語学学校には多数の国々からの留学生が学習に来ており、私は中国、ベトナム、タイ、カザフスタン、サウジアラビアの学生とよく会話をしていた。同世代の学生たちが英語を学習するために外国へ来ているので、お互いに流暢に会話することはできなかった。しかし、単語や身振り手振りを使って意思を伝え合おうとした時や、冗談を言い合えた時が印象に残り、忘れることができない。同世代の学生同士が同じような事を考え、同じようなことで笑い合う事は当然であると感じた。しかし、一緒に話した学生の生まれ育った国、伝統、文化が異なることに注目した時、そのような人々と会話できたことで、英語を学習してきたことに達成感を感じた。一つの言語で多くの国の人々とコミュニケーションができる楽しみ、充実感を実感した。

私は、今回の短期留学が初めての留学であり、初めての海外への渡航であった。しかし、これらの経験により、英語の学習だけではない留学の魅力、意義を実感した。それは、外国の方々とコミュニケーションを取ることで、新たな事、それまで当然の事として意識していなかった事の重要性に気付くことである。このような経験は留学でしかできない事であり、これらは留学の魅力、意義の一つであると感じた。また、留学には自身が気付いていないほど多

くの魅力、意義が存在するのではないだろうか。将来、英語の学習だけでなく、それらを意識し、さらに留学の意義、魅力を探す留学をしたいと思う。また、それを実行するために、さらに英語の学習に励み、積極的にコミュニケーションを取るよう意識していくことが重要であると感じた。

（佐部利 大樹）

「話す」という行為で一番思い出に残っていることは、私のホストマザーは元ヘアドレッサーだったので、私の髪の毛を切ってもらうように頼んだことと、夕食で様々なことについての会話（日本とオーストラリアの衣食住やアメリカ英語とイギリス英語の違い等）です。「アメリカで話されている言葉はAmerican EnglishじゃなくてAmericanだ」と強く主張されたことは、今でも覚えています。話す時に出てきた知らない言葉は文脈から推測し、記憶しておいて後で調べ、次の機会に



使う。そういう努力（？）は突発的な場面に遭遇した時ほど威力を発揮したので、やってみる価値はあります。

日本とオーストラリアはほとんどのものが違うので、その辺りに適応する必要はあると思います。例えば、日本では点鼻薬や風邪薬は薬局へ行けば簡単に買えますが、オーストラリアですと（お店によると思いますが）、カウンターの店員に自分の症状を説明してどんな薬が欲しいか伝えないと、欲しい薬が買えない場合があります。バスは時刻表の5分以上前に発車することや20分以上遅延することもしばしばあるので、早く出る準備とバスをひたすら待つ覚悟をしっかりとしなければなりません。

冒頭で、サマースクールは英語を学ぶには最高と述べましたが、たかが5週間で英語はペラペラにはなりません。行く前よりはスラスラと話せるようになりましたし、ホストマザーにも「かなり良くなった」と言われましたが、日本に戻っていざ外国人と話そうとするとやはりまだまだでした（聞き取りには問題無かったのですが）。

サマースクールを体験して思ったことは、英語を…英語というよりは何か挑戦する時は気合いと勢いが必要ということと、一切の甘えを捨てる必要があるということです。たぶんそれらと事前準備さえあれば、上手くいきます。モヤモヤして立ち止まっているくらいなら、とりあえずやってみる、そうすれば何か変わるということは、日本だろうがオーストラリアだろうが同じでした。

（平野 立顕）

私は高校の頃から海外留学をしたいと漠然と思っていました。そして大学入学後、留学生と関わる機会もあり、私の留学への思いは強くなっていきました。そんな中、サマースクールという短期語学留学の存在を知り、海外の文化や生活、生の英語に触れるいい機会だと思い参加を決めました。参加申し込みを済ませてから実際にオーストラリアに行くまでには、週に2回の事前研修に参加し、英会話の教室に通うなど英語に触れる機会を増やしました。また自分でも普段から洋楽を聴くようにしたり、学校の英語の授業で積極的に発言したり、友人と昼休みに中学英会話を練習したりと、基本的な英語ですが留学先で積極的にコミュニケーションをとりたかったため、短い期間でしたが毎日



英語に触れることを心がけました。またガイドブックであらかじめオーストラリアについて調べる程度のことはしましたが、国際理解の意識はあまり持っていないでいました。

オーストラリアに着いてから初めの1週間は相手の話を聞いて相づちを打つ程度しかできず、自分が言いたいことを英語で表現することができませんでした。しかしクラスメイトや先生、ホストファミリーの話す英語表現を取り入れてみたり、現地の学校の授業を受けている内に、だんだんと日常会話で困ることも少なくなりました。これも日本での勉強が少しは活かされていたのではないかと思います。しかしまだまだ話したくても表現できないことも多く、もっと英語を勉強してもっとコミュニケーションを円滑にしたいと強く思うと共に、英語という言葉が世界中の人々を繋いでいるという、当たり前だけれども今まで実感することの出来なかった感覚を身を持って体験することができました。またアジア、ヨーロッパ、南米などから来た留学生たちと一緒に学習したり、遊んだり、食事をするだけでも、国によって文化やマナー、考え方や性格までもが違うなど実感することが多く、そんな多種多様な人種が生活しているオーストラリアという国の良さだけでなく、日本の良さも再確認することができました。

今回の留学を通して、次回は長期間留学をしたいと強く思うようになりました。5週間という期間は海外を体験するにはちょうどいいと思いますが、英語を勉強するためには短すぎると思いました。またオーストラリアに行く前に日本でもっと英語力を付ける必要があると思いました。現地ですでできた友達は、長期間大学に通う人が多く、今は英語の授業だけでも、いずれは自分の専門分野を英語で勉強する

予定だという人が多くいました。それには相当の英語力が必要になると思いますが、長期留学に行くのならば、英語学習だけで終わらずに、自分の専門分野を英語で勉強するぐらいの目標と決意を持つとうと思いました。そうすれば世界に出て仕事を得ることもできるだろうし、将来の可能性が広がると思います。日本にとどまらずに、世界中を回ることが私の大きな夢です。この留学を通して、今から本気で英語を勉強しようという意欲を持つことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

（佐藤 聖人）

今回のサマースクールでは本当に多くのことを学べたと思います。もちろん英語のレベルは上がったと思いますが、それだけではありません。今回、私達は英語の語学学校で授業を受けたため、英語を勉強するために来ているオーストラリア以外の国の人達が集まっていました。みんな理由は違えど、英語を話せるようになりたいという1つの目標に向かって頑張っています。今回のサマースクールは決してゴールではなく、スタートです。ここからどのように世界とつながっていくのか真剣に考えるようになりました。このサマースクールという貴重な経験をバネに、更にステップアップをはかっていきたいと思います。

（渡邊 みなみ）

サマースクールに参加して感じたことは、英語で外国人とコミュニケーションをとることの難しさと楽しさである。初めての海外での体験で、日本との違いや言語の問題に戸惑うことも多々あったが、それだけに新鮮で貴重な体験もできた。

サマースクールに参加しようと思った理由は、大学生の間に一度は海外での経験をしたいと考えたからである。他の国の文化に触れたり、英語のスキルを上達させたりすることはもちろん、日本語の通じない国で自分に何ができるかなど、自分を試したり新しいことに挑戦したりする絶好の機会だと思った。

オーストラリアでは、ホームステイをすることでオーストラリアの生活に触れたり、様々な国の人とともに授業を受けることで多くの人と交流することができた。初めは、ホストマザーの話すことがほとんど理解できず、言葉の壁の大きさを痛感した。同

様に、大学でも他国の人と積極的に話すことができず、上手くクラスに溶け込むことができなかった。それでも、必死に耳を傾けているうちに少しずつ聞き取ることができるようになり、自分の成長を感じることができた。しかし私にとって一番困難だったことは「話す」ことであった。日本人は文法や単語を知っていても英語を話せないということをよく聞いていたが、まさにその通りだと思った。その上、私は初対面の人に積極的に話しかけることが苦手で、初日はほとんど何も話せずに終わってしまった。そのため、私は積極的に人の輪の中に入ることを大切にした。その結果、しだいに周りの雰囲気にも馴染み、英語で話す楽しさを味わうことができた。その中で、拙い英語で話すときは自然とジェスチャーが増えるものだと感じた。英語力だけでなく、伝えようとする気持ちや言葉に頼らない表現力が、外国人とコミュニケーションをとる助けになると思った。このように、サマースクールを通して英語力だけでなく、気持ちを伝えるための表現力も向上させることができた。

サマースクールに参加したことで、自分の世界が広がったように感じた。初めは、一つの経験として参加しようと思ったサマースクールであるが、この5週間を通して、英語や海外に対して前向きに考えるようになった。今後も語学留学に限らず、様々な国を訪れたり、国際ボランティアに参加したりするなど、積極的に海外に目を向けていきたいと思う。

（釣餌 咲希）

サマースクールに参加する前、自分の視野は狭かったと思います。英語も日本で生活していれば必要なく、必要だとしても受験や就職のためだと思っていました。日本以外の国の人々の考え方もよくわかりませんでした。つまり、英語は必須で国際理解もしなければならぬことは知っていても、実際には経験していないのであまり実感できなかったのです。しかし、海外の食べ物や自然、生活などをテレビで見て、興味はありました。このようなことから、私はこのままでいいのだろうか疑問に思いサマースクールに参加しました。

現地に滞在し、日本とオーストラリアの良いところも悪いところも見えてきました。例えば、機械や人です。日本はバスに乗っていれば必ず下車するた

めのボタンが至る所にあり、次のバス停の名前が放送されます。機械はほとんど壊れることなくいつも動いています。しかし、オーストラリアでは次のバス停がどこなのかかわからないし、下車するためのボタンも日本ほど多くありませんでした。その上、精算機が壊れていることもしばしばありました。しかし、悪いことばかりではありませんでした。道がわからず周りを見渡していれば、声をかけてくれる人がいました。また、ホストマザーとゴールドコーストの教育問題、日本の津波や台風の影響について話し合いました。多くの人が日本の津波や原発問題に関心を持っていました。また、私たちが通った学校では、サウジアラビア、中国、香港、タイ、カナダ、日本など様々な国の人たちと話すことができました。そこでの会話では、これまで当たり前だと思っていたことも国が違えばその当たり前が当たり前ではないことを教えられました。例えば、中国と日本の違い、日本人のお風呂についてなどです。私が帰ったらお湯につかりたいというとなかなか分かってもらえず、要は日本の家には小さいけれど一軒一軒スパがあるのだ、という驚かれました。他にも、私はオーストラリアの植物や動物も見してきました。オーストラリアは植物も動物も持ち込みがとても厳しいところですが、日本とは街路樹も庭の花も鳥も全く違って色鮮やかなものが多かったです。動物は、カンガルーやコアラ、大きな蛇など日本にはいないものをたくさん見ることができました。例えばホエールウォッチングです。私はテレビの映像ではない鯨を初めて見ました。たった数分の間だけ呼吸しに上がってくる鯨ですが、感動的でした。鯨が潮を噴いたり、尾を上げたり、近づいてきたりとても興奮しました。

サマースクール参加後、度胸も忍耐力も積極性も以前に比べてついたと思います。帰国した今思うことは、もっと勉強したいということです。政治、地形、気候、食文化、歴史、英語などです。自分が無知であることを恥じました。思うように英語を喋れず悔しかったです。もっと喋りたいと思いました。だから、私はもっと積極的に勉強していきたいです。そしてまた、広い世界を見に行きたいです。たった5週間の留学でしたが私の視野は広がったと思います。

（井端 ひかり）

私は、夏休みの5週間でオーストラリアで生活することができる、このサマースクールに参加できて本当によかったです。たった5週間で何がかわるのかと言う人もいますが、少なくとも私の場合は、これからの自分にプラスになる経験ができました。

私はこれまでに海外は一度韓国に観光に行ったことがあるだけで、はじめは本当にわけも分からず、不安でいっぱいでした。英語は学校の授業で習っただけで、実際の会話で英語しか使えないのも初めてでした。自分の伝えたいことがすぐに英語で思いつかず、外国の人と目が合うだけで、英語で話さなきゃと思って緊張していました。それでも、毎日少しずつ話していく中で、異なる国の文化や習慣を知ることがとても楽しく思えるようになっていきました。自分勝手に思い込んでいたこととは違うその国を知り、自分に入ってきていた情報はほんの一部で、自分の知っていたことがどれだけ少ないかを思い知らされ、今まで全く興味のなかった国にも興味をもつようになりました。育った環境が違うだけで、教育されてきたことが違うだけで、日本では普通のこと普通ではなく、その逆もたくさんあって、その違いを知ることがとても楽しいと思うようになりました。ある男子に、男同士でも仲がいいと手をつなぐのは普通なのに、彼が以前知り合った日本人は変に思ったので感じが悪かったと言われてしまいました。文化の違いで、しかたがないことではあるが、そのように思わせてしまったことは寂しいことです。

日本も国際化が進んできてはいますが、まだまだ外国の人は少なく他の国の習慣を知る機会も少ないため、日本の自分の考え方を当たり前と感じている人が多いと思います。世界にはいろいろな国があることを頭では理解していても、いざとなると簡単には行動はできないものです。日本がもっと外国の人が来やすい国になればいいなと思います。授業でも感じたことですが、やはり日本人はなかなか話しません。外国の人は先生の話の話を遮ってでも話します。それがいいこととか、悪いこととかは別にして、日本人よりも話せるのはこの違いによるのだと思われました。わたしの周りがそうだっただけなのかもしれませんが、日本人に比べて、英語を学ぼうとする意識が高いように感じました。

アラビア語やロシア語やタイ語は全然わかりませんが、英語はわずかながら理解できます。思っ

いること、伝えたいことをみんなで共有することができます。オーストラリアでさまざまな国の人に会い、外国の人と話すことができ、すばらしい経験ができました。ここに書いたことは当たり前なこと、みんな知っていることかもしれないけれど、それを直に感じることができました。今は、もっと他の国の人と話して、いろんなことを知りたいと思っています。文法よりも、喋れるようになりたいです。これからまた日本の生活の中で、英語を聞く機会も減ってしまうので、英語の音楽を聴いたり映画を見たりして、忘れないように心がけたいです。

（田淵 晶子）

 今回のサマースクールは、私にとって留学はおろか飛行機に乗るのも海外へ行くのも初めてだったので、楽しみにしていました。実際に行ってみて、学校としてまとまって行くことができたのがとてもよかったです。空港での手続きもわからないし、英語でのコミュニケーションにも自信があったわけではないので、心配なことも多かったです。先輩たちが引っぱってくれたので無事に行き帰ってくることができました。

現地の学校では、いろいろな国の人と交流することができ、陽気でおもしろい人たちばかりだったのでとても楽しかったです。アクティビティでいろいろな観光をすることができたのもよかったです。

ホームステイ先でも、ホストファミリーが親切にしてくれたので、快適に過ごすことができました。料理もおいしかったです。肉ばかりだと思っていましたが、野菜やお米も出ました。お米は日本のものではなかったので、日本の米は恋しくなりました。また、ホストファミリーとの会話はいい英語の練習になりました。

休日は、専ら友達と観光に行っていました。パイロンベイやフレーザー島など、有名な観光地にたくさん行くことができ、とてもいい思い出になりました。平日は学校、休日は観光で、休む暇もなく少しハードでしたが、行きたいところへ行くことができ、達成感がありました。また、海がとてもきれいで感動しました。日本では海に行くことはほとんどなかったので、オーストラリアではバスですぐに行ける海に何度も通いました。

サマースクールはとても充実したものになりましたが、それはやっぱりサマースクールのメンバーで

仲良く行けたから、友達がいたからだと思います。ホームステイ先のことや現地の生活について話し、一緒に出かけることができたから、最後までくじけずにいられたと思います。大学の友達がいたことは、本当に心強かったです。

今回のサマースクールで、海外での生活を体験することができ、楽しく充実した時間を過ごすことができたので、参加してよかったです。

（清水 美帆）

 今回のサマースクールに参加して、私は多くものを得ました。それは新しい友達であり、サマースクール参加以前の自分にはない考え方であり、英語能力の向上です。

まず英語能力の向上についてです。いままでは聞き取れなかった英検準一級レベルの速度の英語が、サマースクール後は聞き取れるようになりました。もちろん学校でのリスニングの効果もありますが、オーストラリア人のリアルな、かつ様々な話題の英語を聞くのに役立ったのはニュースでした。ホームステイ先ではいつもホストマザーとニュースを見ていて、初日は全く何を言っているのかわからなかったのですが、しだいにどのような内容を話しているのかという概要は聞き取れるようになりました。速度のある英語を連続で聞くことができた上に、ホストファミリーとニュースについて話し合うこともでき、自然と英語能力を向上させることができました。

次にサマースクールでの新しい友達のことです。サマースクールを通して、初めての海外の友達ことができました。中でも、タイから留学に来た女子学生とはよく休み時間におしゃべりをしたり、一緒にお祭りに行ったり、彼女の寮へ遊びに行ったりしました。好きなアイドルの話や彼女自身のタイ国内での旅行の話や私の京都への旅行の話をしました。私が帰る一週間前には、寮へ招いてくれて、そこでタイ料理（グリーンカレーやココナッツミルク）を作ってくれました。今でも彼女とは連絡を取っています。海外の友達ができると、外国をより身近に感じることができますし、留学生たちの勉強に対するモチベーションの高さに感心し、影響を受けました。英語だけにかかわらず、サマースクール後の勉強に対する気持ちは以前よりも一層高くなりました。

最後に、私自身がこのサマースクールを通して一

一番大切だと感じたことを記します。私にとって人生で初めての短期留学を通して、一番大切だと感じたことは、海外を「外」と考えないということです。確かに日本国内ではありませんが、人と人が会うまでに育ってきた環境が違うのは、海外であっても国内であっても同じであると感じるようになりました。今まで「外の人だ」と考えていた外国の方も、今は地球「内」に生きる同じ人間なのだと感じています。この考え方を得られたことは、私の人生にとって大きなプラスになっていると思います。

（石村 真梨乃）

今回のサマースクールは、私にとって初めての留学体験でした。英語を上達させたいということも参加を決めた1つの理由ですが、単純に海外での生活を体験してみたいという思いの方が大きかった気がします。そのため、オーストラリアではより多くの異文化体験をすることに重きを置いて、帰るときに心残りがないようにと思って過ごしました。ステイ先の Gold Coast は観光の町ということもあり、時間の流れがゆったりしているというのが到着して最初に感じたことでした。オーストラリアでの生活は、日本での課題や時間に追われる生活とはかけ離れていて、ゆったりとした時間を過ごすことが出来ました。そういった余裕のある暮らしのためか、現地の人は皆朗らかで陽気な人が多く、町もとても平和で和やかな雰囲気でした。また、外国人に対して寛容で、好奇の目にさらされるのが無かったことも大きな驚きでした。

今回の留学の1番の収穫は、留学の魅力に触れら



写真：帰国前日の日の出

れた事だと思います。異文化体験の楽しさだけでなく、何度も自分の意思がうまく伝えられないという経験をしたことで、もっと正確に意思疎通を図れるようになりたいという明確な学習目標を見つけることが出来ました。また、海外での生活は日本を客観的に見る良い機会になり、自分がいかに狭い世界で暮らしていたかを知りました。

この5週間、毎日どこかに出かけて自分のやりたいことを思う存分やって、充実した日々を送ることが出来ました。たった5週間の滞在でしたが、多くの出会いを経験し、それを通して、予想以上に自分が影響を受けたことに驚きました。明確な将来の夢を持って努力する人達に出会ったことで、自分の将来について真剣に考えるきっかけをもらったように思います。この経験を無駄にせず、これからも広い視野を持って多くのことに挑戦していきたいです。外国でしか出来ない多くの貴重な経験をし、とても意義深い5週間を過ごすことが出来ました。サマースクールに参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

（平野 実実）

僕は英語に自信がなく、英語で話すことがほとんどできませんでした。会話をするにしても、僕は基本的にはずっと相槌をうっているだけで、自分の意見をしっかりと表現することができない場面が多かったです。その度にもっと英語が話せたら絶対楽しいのと思っていました。

オーストラリアで出会った留学生は自分の将来に対する考えを持っている人が多く、将来は何になるか聞かれてハッキリとした答えが言えない自分が恥ずかしくなりました。また一緒にオーストラリアに行った岐阜大学の学生の多くも今後についていろいろ考えていて、とてもいい刺激になりました。そしてオーストラリアに住んでいる日本人も様々な理由でオーストラリアに来ているので、何故日本を離れたのかということを知りたかったり、聞いただけでもとても面白かったです。ですから、これから留学をしようと思っている人も出会った人に何故ここに来たのかなどを聞くといいと思います。

5週間のサマースクールは、僕の人生において本当にいい経験になりました。オーストラリアで経験したすべてのことは僕の宝物になっています。だからもし留学をしようか悩んでいる人がいたら、と

りあえず行ってみてください。必ずいい経験ができると思います。

（猪飼 祐作）

今回の留学の大きな目的は、英語に囲まれること、異文化を体験すること、オーストラリアの友人たちに会うことの3つでした。結果としては、すべて達成できてとても充実した5週間となりました。

この5週間で1番の収穫は現地の人たちとの関わり、またホームステイという形で地元の人々の生活を体験できたことです。オーストラリアでは時間の流れが日本とは全く異なり、ゆっくりしていました。現地では活動時間が日本よりも早い時間帯で、夜9～10時には就寝し、朝6～7時に起床するといった健康的な生活を送りました。食事は朝、昼はサンドイッチのような軽食が中心で、夜は5～6時に肉料理やパスタなどをホストマザーが作ってくれました。また、公園や友人の家でバーベキューもしました。食事の盛り付けや食べ方、バーベキューも日本のもとは異なり、とても興味深かったです。

オーストラリアの街並みも日本とは全く違いました。住宅は1階建てが主で、道路が広く大きな車が目立ちました。各住宅の庭や公園など、緑が多くいろいろな種類の鳥がいて、朝はとても賑やかでした。ビーチは果てしなく広がって、大きな波が絶え間なく打ち寄せていました。最後の2週間は気候が暖かくなったので、ビーチで泳ぐことができました。海での遊び方も日本とは違い、波を使った遊び方を教えてもらいました。また、ビーチでのルールも厳しく決められていて、原住民の海に対する畏敬の念が感じられました。

オーストラリアでの生活でどうしても好きになれなかったのは、交通機関です。オーストラリア人はみんなのんびりしていて、バスは必ずと言っていいほど遅れてきました。さらに、オーストラリアのバスは次のバス停がどこか教えてくれないので、景色を見て停車ボタンを押さなければなりません。シドニーで乗った電車は窓に落書きがあったり、ごみが散らかっていました。

今回の留学で私が学んだことは、世界には異なる言語を使って生活している人々がいて、異なる景色が広がっていて、異なる生活の形があるという事です。前から知識としては分かっていたことですが、

身をもって体験することで本当に理解することができたと思います。この経験を通して、異文化や価値観の違いをより一層理解することができるようになったと実感しています。

（井藤 はづき）

このサマースクールに参加して、私に一番変化をもたらしたことは人々との出会いです。共に英語を勉強した様々な国の友達、ワーキングホリデーでオーストラリアに住んでいる日本人、毎日遊んだ近所の子どもたちなど、日本では決して出会えない様々な人たちと出会うことができました。その中でもやはりホストマザーである Kaye は特別です。

Kaye との会話は、初め何を話しているのか全く聞きとれず、自分が伝えたいことも辞書を片手に事務的に伝えるのみでした。しかし Kaye との時間が多くなればなるほど Kaye との心の距離が近くなり、英語が聞き取れるようになりました。また Kaye も私の話をじっくり聞いてくれ、焦らず話すことができ、英語が上手くなったねと何度も褒めてくれました。気づけば辞書は手元から離れていました。今日の出来事はもちろん、お互いのこと、文化のこと、家族のこと、本当にくだらないことまで、話したことを挙げればきりがありません。コーヒーを飲みながら、ディナーを食べながら、テレビを見ながら、Kaye との時間を大切に、毎日のコミュニケーションをとる時間は、私にとって欠かせないものとなりました。

特に話をしたのが世界共通である文化についてです。「親子の愛は世界どこに行っても同じです。私が3人の子どもを何歳になっても愛しているように、あなたも両親に愛されています。だからあなたは両親に感謝を忘れず、毎日連絡は取りなさい」と、Kaye はいつも言っていました。今まで私は外国を訪れると、日本との違いばかり見てきました。しかし Kaye と出会い、世界共通なこと、つまり当たり前なことをもう一度考え直しました。

帰りの時間が予定よりも遅くなり迷惑をかけ、怒られたこともありましたが、落ち込んで何も言えない私に「日本人は時計しか見ないかもしれませんが、オーストラリアでは時間は全く重要ではありません。会話が全てです。全てを正確に私に伝えなさい」と言い、ぎゅっと私を抱きしめてくれました。Kaye

は本当に優しく、その溢れる優しさに私も答えたかったのですが、thank you と sorry しかでてこない自分の英語力のなさに涙もしました。

この5週間で、英語力はもちろん上がったと思います。常に英語だけの世界で過ごす日々はたとえ5週間で私に大きな変化をもたらし、自信となりました。何より Kaye との毎日の会話が、一番の英語の勉強となり、少しずつですが自分でも成長を感じることができました。学校では英語を母国語としない者同士が昨日起こった面白い出来事を英語で共有し笑い合える、普通なことかもしれませんが私には英語の偉大さ、魅力をひしひしと身をもって感じました。しかし、お店で注文が通じなかったり、友達との会話に入っていけなかったり、伝えたいことを十分に表現できなかったり、何度も悔しさを味わいました。

この5週間で感じたことを決して忘れず、今まで以上に英語に関わり、英語をこの先も続けていきたいです。

（大久保 如野）

多くの人は海外留学に興味をもちながら、さまざまな理由であきらめてしまっているのではないかと思います。私もそうでした。今までひとりで海外に行ったことはなく、英語にも自信がありませんでした。しかし、日本にいれば、外国の方と話すこともなければ、会うことも少なく、海外の文化に触れる機会もあまりありません。将来どんな人生を送ろうか、どんな人になりたいか考えるとき、どうしても狭い価値観だけで考えてしまう気がしていました。わたしはサマースクールに参加することで多くの人と出会い、様々な価値観や文化に触れ、自分の視野を広げたいと思いました。現在の生活に対する不満や悩みから離れて客観的に自分と向き合いたいという思いが海外生活に対する不安よりも大きかったのだと思います。行きたいと思ったときに行かないともうチャンスはない。「えいや」と飛び込んでしまえばどうにかなると思っています。

実際、オーストラリアでの生活は楽しく、充実していました。ホストマザーはとても親切で、兄弟や親戚、友人との集まりには積極的に参加させてもらえ、多くの人と会話しました。日本の文化をうまく伝えることができず悔しい思いもしましたが、真剣

に話を聞いてもらえ嬉しく思いました。オーストラリアの人々は、家族との時間をとても大切にしていました。休日は外でバーベキューをしたり、話をしたりして過ごしました。時間がゆっくりと過ぎるようで、なんでもないこの時間がどんなに贅沢で楽しいものか知りました。日本では家族がバラバラにごはんを食べることが多く、じっくり話す時間が少なかったことを思い出し、その日の夜、家族に電話した覚えがあります。

私が最も楽しかったのは英語の授業です。先生やクラスメイトはあたたかく迎えてくれ、授業中の発言も多く、自由な雰囲気でした。ある日、自分の国際理解が浅いことに気付かされたことがあります。グループで疑問文をつくることになったとき、ベネズエラ出身の学生が「他の国でより良い生活が送れるとしたら、あなたは外国に住むことを望みますか？」という文をつくりました。わたしは「外国に住みたいと思いますか？」という文でいいのではないかと言うと、「それは違う」と言われました。理解できずにいると、先生がベネズエラは国が多くの問題を抱えていて、自分の国では落ち着いて勉強することが難しいためオーストラリアで学んでいるのだということも教えてくださいました。その学生は英語を学んだ後、大学に進学するというのを教えてくださいました。日本で勉強し、安全に暮らせることは当たり前だと思っていましたが、幸せなことなのだと思いました。それと同時にベネズエラはどんな問題を抱えているのか知るきっかけになり、他の国のことや、世界情勢に興味を持つようになりました。

サマースクールに参加したことで、英語に対する抵抗感も少なくなり、もっと多くの人と話してみたい、そのためにもっと英語を勉強したいという思いが強くなりました。いつかオーストラリアに行った時、私のつたない英語で迷惑をかけたホストマザーに「英語が上手になったね。」と言ってもらえるように、英語のレベルを上げることが今後の目標です。

（毛利 彩香）

今回このサマースクールに参加すると決めた理由はいくつかあります。日本より過ごしやすいため、両親が過去にオーストラリアに行っているから、5週間という短い時間だが英語を使った



生活してみたいから、などです。でも一番大きな理由は、一度も海外に行ったことがなかったので、海外に行っておくさんの経験をして夏季休暇を充実したものにしたかったからです。この願いは見事にこのサマースクールによって叶えられました。

しかし、この5週間は全部が全部バラ色のような生活だったわけではありません。一つの大きな壁がそこにはありました。そうです。言葉の壁です。僕は英語を長年勉強してきたはずなのに、いざ現地に行くと聞き取れない、話せない状態の繰り返しでした。英語が聞き取れずホストマザーに何度も聞き返し、だんだんと態度が怒りっぽくなっていくのに僕は耐えられませんでした。僕はそれがとても辛く、嫌になりそうになりました。サマースクールが始まって1週間が経った時のことです。でもそこで諦めたら何も前には進まないと思い、聞き取れなかったら、謙虚にSorry?とどんな人にも聞き返すようになりました。この心がけが安定して英語で会話していくためのきっかけになったと思っています。何百回もSorry?と言った気がします。それで良かったと思っています。

またサマースクールの授業が始まってすぐに、他国の人の英語力に圧倒されて、他国の人と関わって友達になるのが、少し怖いと思う気持ちになりました。そのうえ授業では必然的にdiscussionする必要があります。しかしここで分かったことは、相手の話すスピードが速すぎて聞き取れなくても、なんとか気持ちさえ諦めなければなんとかなるということです。この経験ができただけでも本当に自分は良い経験をしているなーと、家でシャワーを浴びながら感じていました。

話は変わってホームステイの話ですが、僕の場合はお父さん、お母さん（二人ともベルギー人）と犬と僕で生活していました。お父さんは61歳で30歳くらいの時にお母さんとオーストラリアに来て、それから英語の勉強を始めたそうです。お父さんが最初に習った英語はI like ice-cream だそうです。そのお父さんからのアドバイスが「間違いは怖れず、たくさんしなさい。（日本語で）シンパイナイ！」でした。

お父さんは現在、英語を武器として美容師として働いています。本当に良い人でいつも僕の味方をしてくれたので、このアドバイスは一生忘れないようにしていきたいです。これからも英語の勉強はしていこうと心に誓った5週間でした。

（神崎 真吾）

ソウル科学技術大学

●韓国 ソウル科学技術大学参加者名簿（合計6名）

日程：2011年8月9日（火）～8月20日（土）2週間プログラム

| | 氏 名 | 学 部 | 学年 |
|---|---------|-----------------|----|
| 1 | 小 島 友 花 | 地域科学部地域文化学科 | 3 |
| 2 | 木 所 詩穂美 | 地域科学部 | 2 |
| 3 | 岩 田 紗代子 | 地域科学部 | 2 |
| 4 | 岡 本 彩 希 | 工学部応用化学科 | 2 |
| 5 | 古 野 陽 子 | 応用生物科学部生産環境科学課程 | 2 |
| 6 | 山 田 夕梨恵 | 応用生物科学部食品生命科学課程 | 2 |



事前研修

事前研修は、ソウル科学技術大学から岐阜大学に留学している韓国人留学生のソン・ミジさんとイ・ナレさんのお二人にお世話になりました。サマースクールに参加する6人はもちろん、韓国語を勉強したい学生も、事前研修に参加することができました。7月の水曜日と金曜日の16時半～18時半まで、計8回の事前研修でした。自己紹介を韓国語でどうやって言い表すのか、地下鉄にはどうやって乗るのかということから、実際の韓国のニュース番組を見て、韓国で今どんなことが話題になっているのかなど、幅広い分野にわたって教えていただきました。韓国語だけでなく、韓国とはどういう国なのかを知ることができました。向こうの大学の授業で自己紹介することがあった際には、事前研修のおかげでスムーズに先生からの質問に答えることができました。また、今韓国で何が流行っているのかなどのお話もしてもらったので、韓国に行ったときに「研修の時に聞いたものだ!」と思うことがよくありました。（15cm位のソフトクリームの映像を事前研修の時に見せてもらって、これ食べたいね～、とみんなまで話していて、明洞に行った際にみんなまで食べました。）事前に韓国に関してある程度の

知識をつけたことで、より一層韓国を楽しむことができました。とても有意義な事前研修でした。

わたしたちのために時間を割いてくださったソン・ミジさん、イ・ナレさんにはこの場を借りてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

（小島 友花）



↑ 帰国後、参加者全員で

サマースクールのプログラム

8月9日（火）14時ごろ韓国に到着し、ソウル科学技術大学へ。寮にチェックイン

本格的にプログラムが始まったのは10日から。

| 月日 | 9：30～12：30 | 14：00～15：50 | 16：00～ |
|---------|-----------------------|-------------|----------|
| 8／10(水) | オリエンテーション | 韓国映画鑑賞 | クラス分けテスト |
| 8／11(木) | 韓国語 (Basic Korean) | K-POP 音楽 | フリー |
| 8／12(金) | 韓国伝統音楽 | K-POP 音楽 | フリー |
| 8／13(土) | | フィールドワーク | |
| 8／14(日) | | フリー | |
| 8／15(月) | フリー | 韓服体験 | NANTA |
| 8／16(火) | 韓国語 | 韓国映画鑑賞 | フリー |
| 8／17(水) | 韓国語 | テコンドー | フリー |
| 8／18(木) | お面づくり | K-POP 音楽 | フリー |
| 8／19(金) | フリー | 修了式・お別れ会 | |
| 8／20(土) | | 帰国 | |

〈Basic Korean〉

韓国語の授業はクラス分けテストにより学生たちは、ハングルの読み書きから習う韓国語初心者クラスと、日常会話の練習を中心とする韓国語既習者クラスの2つのクラスに振り分けられました。岐阜大学からの参加者は全員ハングルと基本的な文法は学習済みだったので、後者のクラスで授業を受けました。私たちのクラスは、私たちを含む日本の学生8名とアメリカの学生4名と一緒に授業を受けました。

先生の『이야기하세요!』（話をしてください!）という一言で始まる授業はとにかく「話す」ことにポイントを置いて進みました。一言でも多く発言した者勝ちです。先生からの質問に対して必死に韓国語で答えます。他には時間の聞き方・答え方やお店でのお客さんと店員さんのやりとりなどを練習しました。最後の授業では私たち日本代表とアメリカ代表がそれぞれ出し物をしました。日本代表は韓国の有名な数字の歌を練習して披露しました。この歌は出発前に、岐阜大学にいる韓国の留学生の方が教え



↑左からアリサ、ブレンダ、ステファニー



↑ Basic Korean の先生と学生たち

てくださったものです。一方アメリカ代表は少女時代のGeeのダンスを披露してくれました。すごく上手でかわいかったです！

この授業は最初どぎまぎしながら受けていたものの、先生のペースに慣れてきたら和気あいあいとした雰囲気を楽しむことができました。

外国語で自分の伝えたいことを言葉にする難しさを実感しました。そのもどかしさからもっと勉強したい、という意欲が湧きました！

（山田 夕梨恵）

〈K-pop 音楽〉

初日に韓国語がどの程度できるのかという簡単な筆記と対話のテストとを受けた成績で、2つのクラスに分けられました。わたしたち岐阜大学の学生はある程度韓国語を学習していたので、韓国語ができる方のクラスになりました。

この授業では、今はやりの少女時代や東方神起などのK-POPから、韓国の人ならみんな知っている「無条件」という歌などをみんなで歌いました。本当に韓国の人にはみんな知ってるのかな？と疑問に思ったので、韓国人のバディ（学生のチューター）に「無条件って曲知ってる？」と聞いたら、「もちろん！みんな知ってるよ」と言っていました。テンポが遅い曲は何とか歌えましたが、テンポの速い歌を歌うのはやはり難しかったです。知っている曲がいくつかありましたが、歌詞の意味を理解することで、その歌をより一層好きになれました。そして授業で学んだ歌をカラオケに行ってみんなで歌ったのは、とても楽しい思い出となりました。

（小島 友花）



↑ 韓国大衆音楽の先生と、学生たち

〈伝統楽器の体験〉

韓国の伝統楽器（太鼓をバチを使って奏でるジャンゴ、銅でできているシンバルのようなクェンカリなど）の演奏をはじめに聞かせてもらいました。演奏してくれたのはソウル科学技術大学の、伝統音楽サークルの学生のみなさんでした。そのあと、わたしたちも実際に楽器を演奏させてもらいました。言葉は通じなかったけれど、身振りでこうやって叩くんだよ、と丁寧に教えてくださいました。演奏すると、うまいじゃん！と褒めてくれてとてもうれしかったです。わたしが体験したのはクェンカリでした。最初は簡単そうだなと思っていましたが、実際にやってみると難しかったです。最後にみんなで演奏したのはとても楽しかったし、ほかの国の学生たちと言葉で通じ合えなくても、音楽で通じ合えた気がしました。



↑ 伝統楽器サークルのみなさん



↑ 伝統楽器の練習（左の楽器がジャンゴ、右の楽器がジン）

（小島 友花）

〈韓服〉

韓国の伝統衣装である韓服を着せてもらいました。赤、ピンク、黄色、青、緑…と多くの色があり、



↑ 私たちと一緒に韓国語の授業を受けていたアメリカの学生です。この人たちが韓服を着るのも新鮮ですね。

学生たちはそれぞれ気に入った一着を選び、写真撮影。王様の衣装や、王妃様の衣装、両班の衣装とまるで韓国時代劇の一場面のようなようでした。

韓服、ほんとに色鮮やかできれいでした。日本の平安時代の着物と色使いが似ていますね。韓国の方が物を渡すときに物を持っている手首のあたりにもう一方の手を添える動作は、昔の人が韓服の袖を押さえた動作に由来しているそうです。この動作、美しくていいなあと思います。私も韓国にいるときはいつも真似していました。

（山田 夕梨恵）

〈NANTA〉

NANTAとは、舞台上でコック達がフライパン、鍋、包丁などの調理器具を楽器として使い、軽快なリズムに合わせて演奏したり、ダンスを踊ったり、笑いが起きたり、お客さんも参加できたりと、すごく楽しめる公演です。すごくおもしろくてみんなが笑っていると、次は素晴らしい演奏が始まり感動する…というような状況が何度もあり、息つく暇も無いくらいすごく充実していました。なんといっても、言葉が理解できなくても世界中の誰もが楽しめるというのが魅力的です！こんな公演はなかなか無いので、本当におもしろかったです。私たちも心の底から笑いました。NANTAを観た後は、誰かが何か物を持つと「お？」と言って演奏し始め、NANTAの真似ごとをたくさんしました。とてもおもしろかったので、韓国へ行ったら是非観に行つてほしいです。私もまた観たいです！！

（岡本 彩希）

〈テコンドー〉

韓国の国技であるテコンドーを授業で体験しました。サマースクール1日目の開講式の時、参加者全員に、青色のソウル科学技術大学のロゴが入ったTシャツが配られました。サマースクールのメンバーみんなでおそろいのTシャツを着てテコンドーの授業を受けました。ソウル科学技術大学のテコンドーサークルに所属する学生3人の方に、思ったよりも本格的に教えていただきました。最初と最後にはきちんと挨拶をします。これは日本の柔道や剣道などでも同じだと思います。初心者である私たちには、基本の蹴り方でさえもとても難しかったです。上手な人はとても綺麗にできていて、とてもかっ



↑ソウル科学技術大学のロゴ入りTシャツをみんなで着てテコンドーにのぞみました。たくさん汗をかきました……。

こよかったです。みんな一生懸命で、順番に基本の蹴り方を練習しているときも、誰かが上手にできたら拍手が起こって、とても良い雰囲気でした。少し失敗しても、goodと言って励ましてくれました。かなり一生懸命やりすぎて、次の日からは筋肉痛がひどくて歩くことさえ大変だったというのもいい思い出です。久しぶりの運動はすごく刺激的で楽しかったです！

（岡本 彩希）

〈お面作り〉

韓国のタルというお面作りの体験をしました。真っ白い、紙素材のお面に自由に色を塗る事が出来、自分だけのお面を作ることができました。お面



↑好きなお面を選び、それぞれ好きな色を使ってお面に色付けをしました。

は、アジョシ(おじさん)、アジュンマ(おばさん)、ナムジャ(男の人)、ヨジャ(女の人)の4つの形から選びました。絵の具は、赤、青、緑、黄、白、黒の6色を使いました。ポイントで金色も使えました。

タルは原始時代から存在したと考えられていて、最初は宗教儀式に用いられていましたが、現在では芸術活動に使われるようになっていきます。タルは伝統遊戯として現在まで受け継がれ、韓国人の生活に密着し親しまれてきた物です。見本はありましたがそれぞれ好きなように色付けし個性的なお面がたくさんできあがりました。

(古野 陽子)

〈食事について〉

わたしたちの基本的な食事は、大学内にある食堂

や大学の近くにあるお店へバディの方に連れて行ってもらったことが多かったです。以下は学食の写真です。

しかし、さすが韓国！！食堂で出される料理から、外出先で食べた料理は辛いものばかりで、なかなか慣れることが出来ませんでした。ですが、韓国にも辛さの少ない食べ物が存在します。その料理とは、キムパというもので、これは日本にあるノリ巻

学生食堂にて



きに非常に似た食べ物でした。韓国に来て初めてサムゲタンやキムパを食べたときには、韓国にも辛い料理があるということに驚きました。そして、日本のノリ巻きと韓国のキムパという、似ている料理があるということ、日本でも韓国でも料理を食べるときにはおわんと箸を使うということを知りまし

た。両国の食文化において、料理自体でも使われる食器でも似ている点があるということが発見でき、感動することもありました。食事ひとつでも、韓国と日本における食文化のかかわりを体験することが出来て良かったです。

（木所 詩穂美）

～サマースクール期間中にわたしたちが食べたおいしいものたち～



初日に昼食で食べたビビンバ(비빔밥)です。右上の小皿にあるコチュジャンをたっぷり入れて具とご飯を混ぜて食べま

す。モヤシやニンジンなどの野菜がたくさん入っています。小皿のおかずもいろいろ付いてきて賑やかです。

明洞で食べたチムタク(찜닭)です。鶏肉がしょうゆと砂糖で甘辛く味付けしてあります。日本人好みの味付けだと思



います。しかし、唐辛子が入っていて辛いので食べているうちに口から火を噴きそうになります。



これは、韓国に行ったら絶対に食べようと思っていたパッピンス(팔방수)です。出発前に留学生の方が教えてくだ

さったソウル科技大の近くのお店に行きました。ア

イスクリームや果物を自分で選んでトッピングすることができます。ちなみに、これは4人で食べたものです。非常に大きいです。

サムギョブサル(삼겹살)です。豚肉の焼き肉です。キムチも一緒に焼いていますね。焼きあ



がった肉をサンチュに乗せ、その上にキムチ、コチュジャン、ナムル、ニンニクなどを乗せて食べるのが王道です。



これは野菜ビビンバ(야채비빔밥)です。普通のビビンバよりも野菜の種類が多いです。シイタケや菜っ葉のよ

なものも入っています。

サムゲタン(삼계탕)です。日本の土用の丑の日(土用の丑の日)にウナギを食べるのと同じで、三伏の日という夏の暑い日に食べるそうです。ちょうど三伏の日に行ったのですが、有名店はものすごい行列だったので諦めて違うお店に入りました。

丸ごと一羽の鶏肉の中にもち米、ナツメ、松の実、ニンニクなどが詰まっています。スープは高麗ニンジンでだしをとっています。とても健康的な料理で



すね。塩味なので辛いのが苦手…という方にもお勧めです。

ピザ（피자）です。韓国語では“ピチャ”です。毎日辛いものばかりでどうしても嫌気がさしたときに気分転換に食べに行きました。具の種類は日本の宅配ピザとほとんど同じです。



キムパ（김밥）です。前にも紹介したものです。出かけていて小腹が空いたときに食べました。卵、たくあん、ツナ

などが巻いてあります。具の種類はお店によっていろいろです。海苔の表面には胡麻油が塗ってあります。

先ほどのキムパと同じお店で食べたラッポッキ（라볶이）です。ラーメン（라면）とトッポッキ（떡볶이）の



合体です。一度で二度おいしいラッポッキ。若者のおやつ、という感じです。辛さのレベルは高めです。食べる間は水が手放せません。



ビビンメン（비빔면）です。寮に宅配をお願いして食べたものです。10分ほどで届きました。一体どうやって作って

どうやって運ぶと10分で届くのでしょうか。不思議です。

真っ赤なたれの中にそうめん程の太さの弾力のある麺が入っています。トマトやキュウリなどの野菜も入っています。辛い場合は水を足して食べるのがお勧めです。

はい、これが韓国で出会った最大の衝撃です。ヤンニョンチキン（양념치킨）です。양념というのは“薬味”という意味で、鶏肉に甘辛のたれで味付けしてあります。手羽先の味付けに近いと思います。ころもがさくっとしていて絶妙です。日本人好みの味だとスヌメられて食べに行くと、完全にはまりました。ヤンニョンチキンに出会ってからあの味が忘れられません。もう一度韓国に行った際には絶対食べようと思います。チキン（치킨）と書いてあるお店に入れば食べることができると思います。ちなみに注文するときの単位は1羽、2羽といます。この写真のチキンは3羽分だそうです。



〈フリーアクティビティ〉

フリーアクティビティとは、プログラム内にある自由行動時間のことで、おもに夕方ごろに設けられており、授業が終わった後に、この時間を利用して、明洞（ミョンドン）などの街へバディと遊びに行ったり、夜ごはんを食べに行ったり、他の学校からの参加者と一緒にチムジルバンという韓国のサウナへ行ったりしました。また、ある午後には、今年の岐阜大学からのサマースクール参加者の中に野球好きが多かったことと、岐阜大学を担当してくれたバディも野球を好きだということで、韓国の野球を観に連れて行ってもらえることになりました。しかしながら、雨天続きの毎日の中で、その日は雨が降っていなかったにもかかわらず、試合が中止になってしまいました。そうではありましたが、球場だけでも見たかったわたしたちは、とりあえず、球場まで行きました。今回わたしたちは、野球は見られませんが、共通の趣味によって外国の人と仲良くなれたことは、サマースクールに参加しなければ



ば、なかなか体験出来ることではなかったと思います。このフリーアクティビティでは外国の方々と交流する機会が多々あって、文化に対しても、言語に関しても、さまざまな刺激を受けることが出来ました。

（木所 詩穂美）

〈チムジルバン〉

サマースクールの自由時間にチムジルバンという韓国のサウナに行きました。チムジルバンは寝泊まりができるサウナで、まずお風呂に入って軽く汚れを落として、借りた半袖シャツとズボンに着替えてサウナに入ります。チムジルバンにはたくさんの種類のサウナがあり、楽しかったです。塩の部屋や宝石の部屋など面白いものもありました。寝るところは体育館のような大きな部屋で、しゃべりたい人はおしゃべりをし、寝たい人はそこで雑魚寝という自由な雰囲気でした。

チムジルバンは友人との交流を深めたり、恋人とのデートで訪れたり、単に健康のために通うサウナではありませんでした。中にはテレビや食堂やカラオケもあり賑やかでした。

次頁の写真で、被っているものはタオルを折り畳んで端をくるくると撒いたもので、チムジルバンで



の定番の格好だそうです。

私たちが行ったチムジルバンでは垢擦りをしてもらうところがあり、初めて垢擦りを体験しました。台の上に寝転がって、体全体の垢擦りをしてもらいました。とても気持ちよく、肌の弱い私でも後で肌荒れすることはなかったです。チムジルバンに行ったら垢擦りをぜひ体験してみてください。

（古野 陽子）

〈サマースクール参加前と参加後の心情の変化〉

渡航初日に私が最も衝撃を受けた出来事は、現地の学生の語学力の高さであった。韓国が非常に勉強熱心な国であるということは耳にしていたが、日本語を話せる学生がいるかどうかは分からないと聞いていたので、空港まで迎えに来てくれた学生が流暢な日本語を話したことに大変驚いた。以前観光で韓国へ行った時も、日本語が話せるガイドの方が発音こそ多少違和感があるものの、語彙が豊富で日本人と話しているかのように思ってしまうほどだったので驚嘆したが、その学生の話す日本語もそれに匹敵するほどで、空港でのたわいのない会話だけでも彼がいかに勉強熱心であるかということを窺い知るこ



歓迎パーティーにて

とができた。しかしながら、私自身もサマースクールの事前研修で習った韓国語を使い、会話をしてみたかったので、韓国語で年齢を尋ねてみた。すると彼が、「年齢ですか？韓国と日本では歳の数え方が違いますよね？」と日本語で話し始めてしまったので、多少残念に思ったが、その知識の豊富さにまた驚かされたことがとても印象に残っている。

大学に到着すると多くの学生が私たちを迎えてくれたが、そこにも日本語を話す学生がいたので、空港に来てくれた学生だけが特別日本語ができる訳ではないのだと気づき、さらに驚いた。また、他国の学生と合流したときには、日本語だけではなく、英語、中国語など母国語も含め4カ国もの言語を使いこなす学生もおり、その姿は、英語さえも満足に話すことができない私に深い感銘を与えた。それと共に私の中には、「我々日本人は他国の人たちよりも劣っているのではないか」という焦燥感が生じ始めていた。

その焦燥感をさらに強めたのが、翌日の歓迎パーティーで同級生の学生に言われた一言であった。彼女は英語が堪能で、周囲の学生も一日置くほど優れた英語力を持っていたが、英語での会話に戸惑う私たちの様子を見て「なぜ英語が話せないのか」と尋ねてきた。これは、後に他の学生から聞いたことであるが、日本は先進国であるにも関わらず、英語を話せない学生が多数いることを疑問に思っていたそうだ。その時私は、とっさに「英語に触れる機会が少ないから」と答えてしまったが、それは言い訳に過ぎず、今まで気にしつつも避けてきたことを真正面から突きつけられた気がして恥ずかしく思った。

彼らが第二言語、第三言語を身に付けることができたのは目を見張るような努力があったからである。空港に迎えに来てくれた学生の日本語の問題集を見せてもらったのだが、「しっかり」「がっしり」

といった日本語独特の微妙なニュアンスを問う問題がいくつもあり、私たちがさえ小首をかしげてしまうようなものも見受けられた。

こうした経験を通して、焦燥感も持ち続けてはい

たが、私の中に「まずは韓国語を必ず習得し、次回韓国を訪れるときは韓国語で会話しよう」という固い決心が芽生えた。以前から勉強、特に自分の興味のあることに関しては熱心に取り組んできたつもり



アメリカ、インドネシア、フィリピン、イングランド、台湾、日本、韓国の仲間達

ではいたのだが、こんなにも明確で揺るぎない目標を持って勉学に励みたいという意欲が湧いてきたのは初めてである。さらに、他国との繋がりができたことで、自分自身の世界、視野が広がり自信がついたように思う。以前は無意識のうちに自分の中に限界を作ってしまった気がするが、サマースクールでの貴重な経験はこれを払拭し、私が勉学や日々の過ごし方の向上に向けて大きな一歩を踏み出すための、原動力となってくれた。

（岩田 紗代子）

〈韓国と日本の慣習の違い〉

韓国は北朝鮮と停戦状態にあるため、今なお男性には兵役の義務が課されている。主に私たちの世話をしてくれた学生が男性であったため何度かその話を聞く機会があったのだが、いわば「平和ボケ」しているといえる私たちにとっては気丈に話されるエピソードのひとつひとつが戦争を彷彿とさせた。彼は主に銃器などの管理を担っていたそうだが、初めは軍隊での生活に慣れることができず苦勞したと話していた。徐々に生活にも慣れ友達もでき、苦痛に感じることはなくなったのだそうだが、2年の服役期間中に与えられた休暇が10日と大変少ないこと、食事を残すだけで罰金を支払うよう命じられることなどは平和で陽気に感じられる韓国の根底にある張りつめた緊張感を垣間見た気がしてぞっとした。おそらく彼は韓国を知る上で必要な知識として、それ



明洞での食事風景

を私たちに教えてくれたのであろうと考えたが、韓国から兵役の義務が消えるようにと願うばかりである。

しかしながら、日韓間にも現在進行形の問題として竹島問題がある。その件において嫌な思いをすることはなかったが、明洞へ出かけたときに学生風の男性に「独島の問題をどう思っているか」と声をかけられて驚いた。敵視する様子もなくとても友好的な態度だったので、「そんなことで争いたくない。互いが納得のいく解決策を導き出してほしい」と答えたが、国際情勢に対する意識の高さと日本人にはめったに見られないであろう愛国心が感じられた。彼は笑顔でお礼を言ってすぐに立ち去ってしまったので、彼が竹島問題をどう思っているのか聞くことはできなかったが、私たちの答えが本心であるということが伝わっていればよいと思ったことが今も鮮明に記憶に残っている。

先にも述べたが、日本人は戦争を放棄したため国家間の対立に疎くなっている部分があるのではないかと現地で感じる事が何度かあった。それをよしとするか否かを一概に決めることはできないと思うが、少なくとも戦争が日本よりも身近に存在する韓国では日本の考え方は通用しないかも知れない。私たちに求められているのは、いかにして自国を守るかではなく、相手国の社会情勢の成り立ちを、どういった切り口から捉えるかが重要なのではないかとサマースクールに参加してひしひしと感じた。

（岩田 紗代子）



明洞にて

まず言いたいことは、本当に楽しかった！ということです。大好きな韓国に行って韓国語や文化を学び、多くの国の人々と交流して友達になり、買い物をしたり美味しいものを食べたりと、大変幸せなことばかりでした。また、初めて海外へ行って言葉が通じなくて悔しいという思いを味わいました。韓国語はまだ1年くらいしか勉強していないので、分からないことの方が多いくらいです。英語も苦手で、せっかく話しかけてもらったのに、なかなか話が弾まない、聞いているだけ、というような状況が多々ありました。そうならないために、もっと英語を勉強しておけばよかったと後悔しています。外国語をもっと勉強して、いろんな国の人たちとコミュニケーションが取れるようになりたいと思っています。

また留学には全く興味が無かった自分が、今では「してみたい！」とさえ思うようになりました。交換留学生の人たちの話を聞いていると本当に楽しそうですし、良い環境の中で勉強できているようで、とても羨ましかったです。サマースクールは考え方が変わるほど、自分にとって一生忘れることのない思い出になりましたし、刺激を受けました。

どこかの国に興味を持ってこんなにも好きになったのは韓国が初めてです。せっかくこういう思いになれたのだから、もっと勉強してまた韓国に行きたいです！

これからも一人でも多くサマースクールに参加してほしいです。この楽しさを共感したいです。そしてまたいつか国際交流の機会があれば参加したいです。そのためにも、もっと勉強しようと思います。ソウル科学技術大学サマースクールに参加できて本当によかったです。一生の思い出になりました。このサマースクールに携わっていただいた全ての人に



感謝します。ありがとうございました。

（岡本 彩希）

今回わたしたちが参加したサマースクールの期間は12日間と、前年度に比べると2週間ほど短い期間でした。その短い分、経験することのできる文化体験は少なかったですが、1週間の中にさまざまな体験が凝縮されていた気がし、中身の濃い充実した時間を過ごせたと思います。また、今年は、例年とは違い、アメリカ・イングランド・インドネシア・台湾といった、多くの国の学生たちもこのサマースクールに参加していたので、韓国人以外の人たちと言語コミュニケーションを取る機会はもちろん、韓国以外の文化を味わうことができたり、英語の重要性を実感することができたり、とてもいい経験をすることができたと思っています。しかし、今回はあまり韓国語を使うことができなかつたし、自分の韓国語の力がまだまだだと気づくいい機会だったと思うので、また韓国へ行って自分の力を試してみたり、これからも引き続き韓国語の勉強をしたいと思いました。それに加えて、英語学習の時間も設けたいと思いました。今回のサマースクールでは、韓国語だけでなく英語に対する勉強意欲がわき、自分にとって良い刺激が得られたと思います。

（木所 詩穂美）

今回、韓国で12日間という長いようで短い期間を過ごさせていただいた。こんなに長い間親の元を離れて、しかも海外で過ごすなんて人生初めてだった。参加者のうち3年生が私だけということで、私がしっかりしなくてはならないな、みんなと仲良くやっていけるかどうか、本当に充実した生活を送れるのだろうか、楽しむことはできるのだろうかとい



う不安がいっぱいあった。

サマースクールに参加して一番驚いたのは、授業や説明で基本的に使われる言語は英語だったということだった。てっきり韓国語ばかりかと思いきやそうではなかったし、アメリカやイギリス、台湾などの多くの国の学生が参加するとは知らなかった。英語というのは世界共通言語と言われていたけれど、実際に基本的に英語が話される環境に置かれて、改めて英語の必要性に気付いた。日本にいてはきっと体感できないことだったと思う。そして韓国のバディたちは、韓国語だけでなく英語や日本語、中国語をしゃべれる人が多かった。私の周りの友達で日本語以外の言語をしゃべれる人はそんなにいない。私が知らないだけなのかもしれないけれど、日本(岐阜)の大学生は韓国の大学生に比べて、勉強に対して積極的ではないと思う。国によって文化が違うから、勉強することに対する考え方も違って当然なのかもしれない。大学生活の中で思いっきり遊ぶのは今しかできないことだが、勉強を思いっきりできる時間も今しかないと思った。サマースクールに参加する前までは、もう3年生だから遊びまわろう！としか考えてなかったけれど、私の中でその考えは大きく変わった。韓国語を勉強して、韓国の友達ともっと仲よくなれたらいいなと思った。ほかの国の人としゃべりたくても言葉が出てこなくて、“Sorry”と謝ってばかりで苦しかった。けれども言葉が相手に通じて、分かり合えた時の喜びを知ることができた。ほかの国の人たちとたくさん友達になれた。もっと親しくなりたいし、せっかく築いた関係を継続していきたいので、今後も韓国語だけではなく英語の勉強も続けていきたいと考えている。就職のために言語（主に英語）の資格を取る人は多いけれど、私は純粋にいろんな人と会話できる程度の韓国語と英語の能力を身につけていきたいと思う。私にとって、私の中の考え方が大きく変わった貴重な12日間となった。

そしてサマースクールへの参加を勧め、韓国語を1年生の時から教えてくださっている洪順愛先生、サマースクールというプログラムという機会を与えてくださった太田先生、手続きなどのサポートをしてくださった留学生支援室の迫さんをはじめとするみなさん、出発前に事前研修をしてくれたソン・ミジさん、イ・ナレさん、出発前に相談に乗ってくれた半田先輩、ソウル科学技術大学の先生、学生。たくさんの方々のおかげで私たちは素晴らしい時間を



過ごせたことは一生忘れません。本当にありがとうございました。

2年生のみんなへ、私はむしろみんなに頼ることが多かったよね。3年生は私1人だったけど、みんな仲良くしてくれてありがとね。本当に嬉しかった。行く前まですごく不安だったけど、行ってみたら不安はなくなった。みんなのおかげでとても楽しく過ごせた。このメンバーで行けて本当に良かったって思っている。ありがとう、これからもよろしくね。

(小島 友花)

韓国のサマースクールは大変な事もあったけど、とても楽しくて貴重な体験が出来た12日間でした！いろんな国の友達ができたので、この関係をずっと保ちたいと思います。

日本を出発する当日までサマースクールの実感からはっきりとは湧かず、ふわふわした気持ちのまま飛行機に乗りました。しかし、韓国の空港に着くと、すぐに外国にいるのだという実感が湧きました。空港に迎えに来てくれているというバディさん達にはすんなりとは会えず、なんとか会えて空港を出ると周りの文字は当たり前ですが全てハングルでした。また空気が日本と違う、少し酸っぱいような匂いがしました。ソウル科学技術大学に着き、夕飯は学食で食べさせてもらえました。寮に入ってみると、部屋は掃除されておらずとても汚れていて、その日はコンビニで掃除道具を買って掃除をして寝ました。その日は初めてホームシックを経験しました。ものすごく不安で、この後1週間以上も楽しく過ごせるのだろうか、と考えながら寝ました。

次の日、オープニングセレモニーに出て、サマースクール参加者の学生達、スタッフの韓国の学生達

に会って話したら気持ちは一転しました。みんな親切で、元気で面白く、すぐにこれからが楽しみになりました。その夜は、全員で親睦会があり、いろいろな人と話して仲良くなりました。他の国の学生とは大抵英語で話しました。このサマースクールに参加して、私の中で一番変わったと感じる点は、英語に対する考え方です。サマースクールではオープニングセレモニーの自己紹介、予定や連絡事項、授業などはすべて韓国語と英語で行われました。日本の参加者以外はみんな英語が話せて、コミュニケーションもよくとれていました。世界では英語がこんなにも当たり前に使われるのかと、とても驚き、自分の英語力の無さを痛感しました。2ヶ月以上経った今でもその気持ちは続いています。

英語をあまり話せないながらも、短い文章や、単語を使って話したり、メモ帳に文字を書きあうことでコミュニケーションは積極的にとりました。そうするうちに韓国の学生以外の人ともとても親しくなっていて、サマースクールがどんどん楽しくなってきました。

外国と日本の違いを感じたのは、サマースクール最後の日にみんなでカラオケに行った時でした。日本のカラオケとは盛り上がり方がまったく違いました。カラオケなのにダンスホールにいるかのように感じました。誰かが歌っている時に歌に参加したり、叫んだり、踊ったり、自由な雰囲気のカラオケでした。日本ではこんな体験はできないだろうなと思いました。

サマースクールの授業で楽しかったのは音楽の授業で、1回の授業で2曲教えてもらい、6曲習いました。伝統的な歌から、最近のK-POPまで幅広く教えてもらい、またみんなで何度も歌って覚えました。アクティビティはどれも楽しく、NANTA鑑賞やチマチョゴリを着る体験、お面作りやテコンドーなど様々な韓国の文化に触れることが出来ました。自由時間には明洞に出かけ買い物を楽しみました。また、韓国の有名な料理もたくさん食べました。サムゲタンやジャージャー麺、冷麺、プルコギなど全部美味しかったです。

朝食と昼食は学食で食べました。辛くて食べれないのではと心配していましたが、スープ以外はいつも食べる事ができました。辛いものばかりではなく、日本食に味付けの近いものがでたりして食べやすかったです。

寮での生活は、岐阜大学からの交換留学生で寮に

住んでいる先輩達にとっても助けてもらいました。また韓国の学生の方にも本当にお世話になりました。感謝しています。

今回のサマースクールでは、貴重な体験ができ、よい友達と出会い、すばらしい思い出ができました。一生忘れないと思います。参加するか、初めはとても迷ったサマースクールでしたが、参加して本当によかったと思います。

（古野 陽子）

サマースクールを通して、ひとつの言語を学ぶことは本当に難しいことだと感じました。韓国語は1年以上勉強しているけれど、サマースクールの間は言われたことがわからなかったり、言いたいことが言えなかったり…そんなもどかしい思いを何度もしたので、自分の韓国語が相手に伝わったときには嬉しくて、もっといろんなことを自分の韓国語で伝えられるようになりたいと思いました。サマースクールの間、バディたちと、「これ日本語ではなんて言うの?」「韓国語ではなんて言うの?」と聞きあうのが楽しかったです。

日本語と韓国語はよく似ていると思っていました。文法はほとんど同じで、漢字の読み方も良く似ています。それでもお互いの言葉に翻訳すると雰囲気や感覚が上手く伝わらないな、と感じることもたくさんありました。特に他言語の擬音語や擬態語は理解するのが難しいです。しかしそこに言語を学ぶ面白さがあると思います。言語がそれぞれの国の人々の持つ感性や情緒に深く根ざし、固有の世界観を創り上げていることに感動を覚えます。

今回サマースクールに参加して、外国語を学ぶことの面白さを再確認することができました。韓国語はライフワークとして今後もずっと勉強していきたいです。

今回わたしたちは約2週間韓国にショートステイし、現地の方々との交流や文化体験を経験しました。韓国には以前2回旅行で訪れたことがありましたが、今回サマースクールに参加したことによって韓国について以前にも増して関心が強まり、旅行で訪れたときには見えなかった、韓国という国の本当の姿を少しでも知ることができたのではないかと思います。それは良い面ばかりではなく、考えさせられる面もありました。

ソウルの街は目まぐるしく進化し、人々で溢れる活気のある大都市です。大きなビルが立ち並び、地

下鉄でもネットが繋がり、街中にタッチパネルや液晶画面が設置されています。初めてソウルの街を目にしたときには世界の最先端を走るような街だと感じたことを覚えています。しかし、そんなソウルの道端で野菜やガムを売って生活するおばあさんや、観光客で溢れる明洞の真ん中でぼろぼろの服を着ておもちゃを売るおじいさん。この人達を目にするたびに胸の中がチクリと痛くなりました。街中のタッチパネルもネット社会もこの人達には何の意味もありません。それは日本でも同じことが言えると思います。どんなに技術が進化し、生活が便利になったとしても、弱い立場にある人々が救われない社会は発達した社会とはいえないと私は思います。留学は、留学先の国について学ぶことだと思っていましたが、それ以上に自分の国を外から見つめ直す機会でもあるのだということを知りました。私は今年20歳を迎えますが、この先日本の将来を担っていく人間としてどのようにあるべきか、今回、韓国での生活を経験し、考えるようになりました。

たった2週間という短い間でしたが、韓国に滞在している間、実に充実した良い時間を過ごすことができました。今回サマースクールに参加したことは私の人生において大きな財産です。私を成長させてくれるこのような機会に出会えたことに感謝し、またこのような機会があればぜひ参加したいと思います。

最後に、お世話になった先生方、韓国語を教えてくださいました留学生の方々、大切な時間を共有してくれた現地のボランティアの学生と私と同じくサマースクールに参加した各国の学生の方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

（山田 夕梨恵）



短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

【アンケート回収結果】回収者13人／参加者16人中
回収率：71%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、
いずれも平均点を表示）
- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）と
それぞれの満足度を1～5点で書いてください。
- Writing（週末の出来事、手紙の書き方、テーマ作文、エッセイ、インフォーマルな手紙）
4.1点（回答数：10）
- Grammar（完了形、可算・不可算名詞）
3.3点（回答数：4）
- Reading（広告等の読み取り、教科書や新聞を読む）
4.0点（回答数：6）
- Listening（会話の内容把握、道の聞き方、説明の仕方、ニュースやテレビ番組の音声を聞いて内容を把握する、ストーリー、ディクテーション）
4.0点（回答数：9）
- Speaking（病院での会話、道の説明、テーマについてグループでディスカッション、3分間会話、週末の出来事を授業で扱った文法などを用いて会話をした）
4.5点（回答数：10）
- 発音練習
5.0点（回答数：1）
- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
- テニス
3.8点（回答数：5）
- バーレイヘッズビーチ（放課後に集まってバーレイヘッズへの散歩の後BBQ）
3.8点（回答数：8）
- ホエールウォッチング
4.9点（回答数：9）

カンパセーションクラブ（何人か知らない学生同士で英語で話をする会）

3.7点（回答数：6）

カランビン動物園（カランビン動物園へ行き、コアラやカンガルーと触れ合う）

4.8点（回答数：9）

マウントタンボリン登山（タンボリン熱帯雨林を散策）

3.4点（回答数：8）

Japanese Tea

4.0点（回答数：3）

Q1（Queensland Number One：高層ビル）

4.0点（回答数：1）

c. 先方の受け入れ体制について

・生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前、分かれば役職も教えてください）

①ホストマザー

食事、洗濯、ベッドメイクなど生活面全般、地域のことを教えてくれた。

②ビオナさん（GELIの受付担当者）

アクティビティの手配や重要事項の連絡、学校の案内、観光の相談

③ジェニーさん（アシスタント）

夜食事を作ってくれました。洗濯機の使い方を知りました。

④アサミさん

・勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前、分かれば役職も教えてください）

①クラスの先生（マニュエラ、ビンセント、キアラ、フィリパ）

・授業で生じた疑問に答えてくれました。

・グリフィス大学のインターネットを利用した学習システムについて教えてくれました。

・休み時間、放課後でも質問に対応していただいた。

②ホストマザー

・自分の分からない宿題を手伝ってくれた。

- ・その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？（名前、分かれば役職も教えてください）

①ミーさん（GELIの受付担当者）

- ・大学との仲介や英語で質問するのが難しいときに日本語で対応してくれました。
- ・相談に乗ってくれました。
- ・悩みや問題があった時に相談にのってくださいました。
- ・ホームステイ家族の紹介、日本語による重要な連絡
- ・日本語で注意やアドバイスをくれた。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）

適当 8人

長い 1人

短い 3人（8～10週間が適当）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・もう少し speaking を重視した授業を期待していました。
- ・GE5のクラスにいる学生が6人だけで、そのうち4人が日本人になってしまった事態には驚いた（国際色がなかったから）。
- ・先生の中には学生同士のディスカッションを重視する方とそうでない方がいらっしゃいましたが、学生同士のディスカッションは大切だと思いました。
- ・立地が良くない。メインキャンパスで学びたかった。
- ・特にないが、強いて言うなら文法はある程度分かっているのでスピーキングにもっと重点を置いてほしい。

2. ホームステイについて

部屋の広さ 1部屋 8㎡：1人, 9㎡：1人, 10㎡：4人, 13㎡：1人, 14㎡：1人, 16㎡：1人, 20㎡：1人,

a. 部屋にあった設備を記入してください。

- ・ベッド, 勉強机, クローゼット, PC, たんす, ゴミ箱, 照明器具, 天井のファン, 棚, バスルーム, 冷蔵庫など

b. 食事はどうしていましたか？

- ・夜は家で食べたり, 外で友達と食べに行ったりしました。
- ・夕飯は家族と食べるが, 朝食は1人だった。準備は毎日してくれた。
- ・朝は自分でパンを焼いて, 昼は買っていました。夜はほぼホストマザーが作ってくれました。
- ・ホームステイマザーが作ってくれました。
- ・朝食はシリアル, 昼食は自分で外で食べていました。夕食はホストファミリーが作ってくれました。
- ・ホストマザーの手料理, たまに外食。
- ・平日は, 朝と夜はホストファミリーが作ってくれた。昼は買って食べたり, お店で食べたり。休日は, 朝と夜はホストファミリーが作ってくれて, 昼にはランチボックスを持たせてくれた。
- ・好き嫌いが多いので, すべて教えた。特に問題はなかった。
- ・朝食と夕食は基本的に家で, 昼食は買って食べたり, バーベキューをした。
- ・ホストファミリーが作ってくれた。出かけるときは買った。
- ・全て作ってくれた。
- ・朝は基本的に自分でトーストを焼いてコーヒーを飲んだ。昼はパンを焼いて持って行った。夜は毎晩作ってくれた。
- ・朝食と夕飯は作ってもらって一緒に食べた。

c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・洗濯をあまりしてもらえず, 自分で洗うことが多かったです。
- ・壁が薄いので夜中でも隣の部屋の音が丸聞こえでした。
- ・ホストシスターが早く寝る時は9時以降はシャワールームを使えなかったため, それが困りました（いつ早く寝るかわからなかったため）。
- ・門限があった。シャワーを浴びれる時間が短かった（5分程度）。テレビのコメディの笑いのツボがわからなかった。
- ・No pet と書いてあったのに猫がいたこと。猫が怖かった。

- ・英語が訛っていて聞き取りづらいことがあった。

d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

①良かったこと

- ・家族以外にも留学生が住んでいたの、異文化交流ができて楽しかったです。
- ・家に帰ったら、話す相手がいることはホッとします。
- ・親切な方で、よく話もして楽しく過ごせました。
- ・シャワーの水は使い放題、洗濯が週2回であったこと。
- ・マザーがJapanese レストランに彼女の日本人の友人と共に2度も連れて行ってくれた。最後の週にはパーティーにも連れて行ってくれた。
- ・ホストファミリーと会話ができるのが練習になった。
- ・日程又は時間があうと、いろんな場所へ連れて行ってくれた。キャンプや教会、ビーチやパブなど。外食もたくさん連れて行ってくれた。毎日、今日の出来事やお互いのことなどいろいろな会話をした。これが一番の英語の練習にもなったし、1番の思い出。土日はバスの始発が9時半だったので、送り迎えしてくれた。
- ・学校が終わってからでも英語が話せること。

②悪かったこと

- ・もう少し、私に興味を持って欲しかったです（なかなか話す機会がありませんでした）。
- ・家族全員でどこかに行くなら僕も連れて行って欲しかった。
- ・よくお金の話をホストマザーとホストシスターがしていて、その他にもホストマザーの体調が悪かったりと、心配なことはいくつかありました。
- ・同じ国の人がいて欲しかった。表現できない時に助け合えたと思う。
- ・初日に飼い主がいない間ホームステイ先の猫に襲われて4時間トイレにこもった。学校初日なのにホストマザーに学校まで送ってもらえず、学校の場所がわからず迷って学校に3

時間遅刻した。初日は前の留学生がまだいて部屋を与えてもらえなかったの、荷物も広げられずゆっくりできなかった。

- ・バスの台数が少なく、不便だったこと。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

- ・トラブル：風邪をひいたこと
相談相手：ホストマザー
対応：診療所に連れて行ってもらいました。
- ・トラブル：英語が聞きとれなかったこと
相談相手：会話相手
対応：ゆっくり話してくれとお願いした。

4. 所要経費について（平均）

支出総額 627,106円

内 訳

参加費 469,125円（航空費・宿舎費含む）

食 費 32,222円

保険料 15,063円

その他 84,444円

参加費について

高い 5人 適当 3人 安い 2人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・学内の諸手続は簡単でした。
- ・すごく楽であった。生協や留学生支援室に感謝です。
- ・とても楽で助かりました。
- ・もっと説明がほしい。全体を通しての話だが、学校による斡旋の割に放任的すぎると感じた(空港での手続きや、事前の説明など)。

（出発前の事前研修について）

- ・楽しかったのですが、時間帯が遅かったので家が遠い身としては参加しにくかったです。
- ・もっと Speaking を中心に学習すれば良かったと思う。もっと発言すれば良かったと思う。

- ・良い。
- ・もっと事前にみんなで集まる機会が欲しかった。
- ・経験者がもっと具体的に毎日の生活を参加者に伝えるべき（授業の内容や平日の午後からは毎日暇など）。参加者は本当に想像がつかず全くわからないから、質問ができないだけであって、伝えた方がいいことは山ほどあると思った。この冊子を参加者に配るべき。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・5週間、オーストラリアの家庭に住める機会など、そうそうないのでいい経験になりました。様々な国の友達もでき、もっとオーストラリアに滞在したいと思いました。オーストラリアは住みやすい国で大好きになりました。
- ・夏休みをすべて日本で英語を勉強することに充てるよりも、短期留学をした方が英語力は上がると思う。英語を含む語学に対する認識が変わった。
- ・さらに英語に興味をもつようになりました。
- ・「海外」や「異文化」、「外国人」をより身近に感じるようになりました。この3つの言葉はどれも「外」や「異」という字を使いますが、自分が思う以上に海外も異文化も外国人も自分と大して変わらないものだとすることに気づきました。異文化、外国人を理解することとは、普段自分のすぐ近くにいる人を理解することと全く同じではなくとも、とても似たようなことだと考えるようになりました。
- ・海外で5週間生活して、異文化に触れ、また日本を外から見る機会にも恵まれました。英語を日本語ではなく英語で学ぶことでより深く、ネイティブの感覚で学ぶことができたと思います。今回参加して本当によかったです。
- ・今まで生活してきた夏休みの中で、一番思い出に残り、一番濃い5週間だったと思う。
- ・世界の人々を身近に感じるようになった。肌の色、目の色が違う人同士がバスの中で英語で話しているところ。私自身も学校でそのような人と話した。英語一つで世界と話せるこ

- とを感じ、世界の人々を身近に感じた。
- ・最高でした。日本に帰りたくないぐらい充実した時間を過ごすことができました。
- ・留学自体はとても楽しかったし良い経験になった。参加してよかった。
- ・5週間というとても短い時間だったが、英語におぼれながらも身についたと思う。また、いろいろな国の人と話す機会が持て、お互いの文化を共有できたことがとてもうれしかった。また、オーストラリアで会う日本人にはとても刺激をうけた。ワーホリで働いている人や国際結婚をしてカフェを開いている人や10年住んでいて今年移住権を得た人など、同じ日本人なのに異国の地で生活をしている人はもっと自分も頑張らないと、と強く思ったし、英語の偉大さを感じた。
- ・とてもよい経験になった。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・今年のオーストラリアの冬、春は寒かったです。その年にもよりますが、半袖だけでなく長袖やあたたかい服装を持っていったほうがよいと思います。
- ・しっかり勉強（語学、文化の違い、観光スポットなど）してから留学してください。
- ・最初の1、2週間は寒かった。ドライヤーは自分で持っていくべき。
- ・留学前に英語の勉強をするのはもちろん大切ですが、映画、マンガ、スポーツ、音楽などの文化に関することも知っておくとよいと思いました。
- ・留学というと、「大変そう」と思うのですが、ぜひサマースクールに参加して、留学の価値を考え、感じていただきたいと思います。アドバイスは何事もためらわないことです。自分の意見、何がわかって何がわからないのかなどをはっきり言ったり、積極的にクラスメイトやホストファミリーに話しかけたりすることが大切だと思います。「できない」「恥ずかしい」という思いを捨てて積極的に行動してください。
- ・英語が話せたら、本当に楽に生活できるはずです。絶対に海外で携帯のWebをつながないでください。Facebookがあらかじめ使え

ると、友達ができやすいかも知れません。

- ・積極的に話しかけて、多くの友人を作ってきて欲しい。
- ・あらかじめ英語をだいぶ話せるようにしておく、もっと楽しめます。
- ・暖かい服装を用意したほうがいい。カードがあったほうがいいと思う。
- ・実際に参加した人とよく話をする。毎年同じ気候だとは思わないこと。

8. お礼の手紙について

出した 8人（誰に？ ホストマザー：8人）

出していない 8人（落ち着いたら手紙を出す予定：1人）

ソウル科学技術大学

【アンケート回収結果】回収者6人／参加者6人中
回収率：100%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、 いずれも平均点を表示）

a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）と それぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Basic Korean（日常会話、文法、数）：4.3点

Korean Pop Music（K-POPの歌詞の理解）
：5.0点

Korean Movie（韓国映画の鑑賞）：4.7点

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満 足度を1～5点で書いてください。

伝統音楽芸能：4.0点

伝統衣装試着：4.3点

ナンタ（太鼓パフォーマンス）：5.0点

テコンドー：3.8点

景福宮周辺散策：5.0点

伝統的な面の作成：5.0点

オープニングセレモニー：5.0点

お別れ会：5.0点

c. 先方の受け入れ体制について

・生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前、分かれば役職も答えてください）

①岐阜大学からソウル科学技術大学に留学中の学

生（伴さん、松尾さん）、ソウル科学技術大学の学生、ソウル科学技術大学の担当者

- ・地下鉄の切符の買い方や、学校周辺のお店を案内してくれた。韓国のおいしい料理のお店や、韓国の学生がよく行く場所に連れて行ってくれた。
- ・寮の使い方、洗濯の仕方、食堂の使い方を教えていただいた、部屋で使うものや洗剤も貸していただいた。
- ・学校内の施設などを案内してくれたり、私たちが行きたい所に連れて行ってくれた。
- ・自由時間にソウルを案内してくれた。
- ・観光、生活に必要な買い出しなど外出時のサポート。

・勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前、分かれば役職も答えてください）

①ソウル科学技術大学の先生方（Basic Korean, Korean Pop Music）

・充実した授業を提供していただいた、意思疎通が上手くいかないことがあった。

②一緒にサマースクールに参加した岐阜大学のみんなや、同じクラスで、ほかの大学から参加している人

・わからないところは一緒に考えたり、教えあったりすることができた。

③岐阜大学からソウル科学技術大学に留学中の学生、ソウル科学技術大学の学生

・授業を一緒に受けて分からない言葉などを教えてくれた。

・日本語で通訳をしてくれた（ソウル科技大学生）。

・その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？（名前、分かれば役職も答えてください）

①ソウル科学技術大学の先生方

・韓国の文化や言語を楽しく教えていただいた。

②ソウル科学技術大学の学生（バディ、ボランティア）

・学校近くを案内してくれたり、食事に連れて行ったりしてくれました。

・韓国の楽しいことなどを教えてくれた。

・買い物に付き添ってくれた。

・街に遊びに行くときに引率してくださったので、お店での注文もスムーズにできた。

d. 留学期間について

適当 2人

長い 0人

短い 4人（3～4週間が適当）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

・私はみんなに比べて韓国語がまだまだで、なおかつ英語も苦手なので、授業で何を言っているのか分からない時が多々ありました。

2. 寮について 1部屋（12㎡程度）

a. 部屋にあった設備を記入してください。

机、棚、クローゼット、下駄箱、トイレ、シャワー、洗面台、エアコン、ベッド、コンセントなど、共用部分に洗濯機、テレビ、トイレなど

b. 食事はどうしていましたか？

・学食を朝、昼、晩食べることはできたが、韓国のいろんなものを食べたかったので、出かけた先(明洞など)や、学校周辺のお店に行って食事したりした。
 ・学校の食堂で食べたり、外へ食べに行ったりしました。
 ・朝・昼はほとんど学食で食べました。夜は韓国の美味しいものを外へ食べに行きました。
 ・トイレとお風呂が日本と違ったのでかなり困りました。

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

・変圧器を韓国で買ったが、すごく安い変圧器を買ったせいなのか、使い物にならなかった。変圧器の型を把握しておいて、日本でちゃんとした変圧器を買うべきだと思う。
 ・到着した日に初めて部屋に入ったとき、床が汚かった。
 ・洗濯物を干すスペースがないこと。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

良かったこと

・綺麗で良いと思います。

・学食は心配していたほど辛くなかったし美味しかった。寮に限らずどこにでもウォータークーラーがあり、コップさえあれば水が飲めた。

・セキュリティがしっかりしていて、管理人の方がいらっしゃったので安心できたこと。

悪かったこと

・比較的快適に過ごすことができたように思う。ただ、韓国は引越す際に掃除をするという習慣がないため、部屋が汚かったので掃除しなければならなかった。

・部屋や浴室の掃除がされておらず、汚かったことが悪い点。それ以外は過ごしやすく、特に問題はありませんでした。

・シャワーが使いにくくて面倒だった（温度調整が難しい）。脱衣所がなく、脱いだ服などを置けないので、イスをもって来るなどの工夫が必要。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

回答なし

4. 所要経費について（平均）

支出総額 89,000円

内訳

参加費 58,000円（航空費・宿舎費含む）

食費 9,400円

保険料 5,000円

その他 26,000円

参加費について

高い 0人

適当 0人

安い 6人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

・留学生支援室の方から、お金の支払いなどの詳細を知らせていただいたので、手続きはスムーズにすることができた。

・参加者の募集期間中に、参加希望していた学

生が、まだ参加が確定していないにもかかわらず、パスポートを取得するように言われ戸惑っていた。そのような案内は選考結果が出たからにするべきではないかと思う。

（出発前の事前研修について）

- ・言語だけでなく、ニュースやドラマなどを通して文化や最近の様子などを、映像を使いながら楽しく学ぶことができたように思う。韓国に行ったときに、地下鉄の乗り方や、自己紹介をスムーズにすることができたり、事前研修によって得た知識を生かすことができた。
- ・すごく助かりました。
- ・事前研修があつてよかった、日本語の使用がもっと少ない研修の方がよいかもかもしれない。
- ・留学生の方から現地の情報を教えていただくことができ充実していた。
- ・ソウル科学技術大学の方に教えていただいたので、周囲にスーパーやコンビニがあることを事前に知ることができ、何を持って行く必要があるか、現地で何が調達できるかを把握することができた。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・韓国に行くということで、韓国語をたくさん使うのかと思いきや、韓国語だけでなく、英語を使わなければいけない機会が多かったように思う。アメリカやイギリス、台湾などたくさんの国の学生たちと交流することができ、そこでの会話はほとんど英語だった。言語が通じるという喜びを身をもって感じることができた。
- ・今回の短期留学はわたしにとって初めての海外でした。その点についても、自分の行きたい国に研修へ行けたことも非常に良い機会だったと思います。今回の留学は、文化交流が主だったので、あまり語学を学ぶことはできませんでしたが、外国の文化を知ることでもまた勉強のひとつであることを学び、外国の人と関わり合えたことは自分にとって貴重な体験だったと思います。
- ・このサマースクールに参加できて本当に良かったです。あんなにも楽しいなんて思って

もみませんでした。外国に対する思いも変わりました。韓国だけではなく、たくさんの外国にも行ってみたいくなりました。これを機に韓国語と英語をもっと勉強しようと思いません。

- ・韓国の学生と交流を持ちたいと思って参加しましたが、参加してみると、アメリカ、台湾など6カ国・地域の36名の学生が参加しており、想像していた以上にたくさんの文化交流ができ、貴重な体験ができたと深く感じています。サマースクール中の説明は韓国語と英語で行われ、他国間の会話もほとんどが英語で行われていました。日本人以外はきちんと英語でコミュニケーションがとれていたのに、日本人だけは単語や短い文章で話していました。世界ではこんなにあたりまえに英語を用いてコミュニケーションをとるのかと驚きました。そして日本人の英語の能力の低さを痛感しました。韓国語とともに英語の学習にも力を入れようと思いました。サマースクールを通してたくさんの友達ができました。このつながりを大切にしていきたいです。連絡を頻繁にとつて、再会したいと思いますし、彼らが日本に来るときはしっかり案内できるようにしたいです。韓国での10日間を通して発見や感じたことがたくさんありました。これからこのような機会があれば、積極的に参加していきたいです。
 - ・楽しく、勉強になった反面、やはり異国の生活が辛くなることもあった。しかし、それも自分を成長させる意味で必要な経験だったと受け止めている。
 - ・最終日、帰りたくなるほど充実した楽しい生活を送ることができた。留学期間が短かったため、そこで学ぶことができた事柄には限りがあったかもしれないが、それをきっかけに今まで感じたことのないほどの学習意欲が湧いてきた。サマースクールで出会った仲間には負けずに勉学に励んでいきたいと思う。
- ## 7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。
- ・向こうの学生の中には日本語を話すことができる学生がいるかもしれないが、積極的に韓

国語や英語を話すといいと思う。失敗することを恐れないで、必死になって伝えようと思えば、相手は必ず耳を傾けてくれる。話すことで語学力の向上につながると思うし、楽しいと思う。また、3, 4か国語しゃべることのできる学生もいるので、すごくいい刺激を受けることができるのではないかと思う。楽しいことだけでなく、苦しいことも体験してほしい。

- ・できれば、自分の行く国についての知識を持って現地へ行った方が、文化についても語学についても学ぼうという意識は断然高くなり、充実した留学になると思う。
- ・とことん韓国を満喫してほしいです。大好きな国へ行けるのだから、いっぱい勉強をして美味しいものをいっぱい食べてください！サマースクールまでに少しでも多く韓国のことを勉強しておくと、より一層楽しめると思います。
- ・韓国語と共に英語も勉強していくとよい。エアコンがよくきいているので羽織るものがあるとよい。
- ・発言ははっきりとすること、積極的に行動すること、異国の文化を尊重する心を持つこと。
- ・大勢の人が世話をしてくださり、日本語が話せる人、日本に興味がある人も多数いるので日本を紹介できるものを十分に持って行くことをすすめます。

8. お礼の手紙について

出した 4人

- ・お世話になった学生ボランティア
- ・ソウル科学技術大学の担当者
- ・ソウル科学技術大学へ留学中の岐阜大学の先輩

出していない 2人

岐阜大学短期留学（サマースクール）担当者一覧

| 担 当 | 氏 名 | 部 局 ・ 役 職 等 |
|------------|----------------------------------|---------------------------|
| 総 括 | 廣田 則夫 | 国際戦略本部本部長 |
| 副総括 | 小林 浩二 | 留学生センター長 |
| 受入コーディネーター | 森田 晃一 土谷 桃子 | 留学生センター |
| 歓送会担当 | 土谷 桃子 | 留学生センター |
| 見学・旅行引率 | 1) 美濃エクスカッション（6 / 16木） 池谷 尚剛 | 国際戦略本部本部長 教育学部 |
| | 2) 土岐エクスカッション（7 / 4月） 粕谷 志郎 | 国際戦略本部本部長 地域科学部 |
| | 3) 郡上プログラム（7 / 8金及び11月） 土谷 桃子 | 留学生センター |
| | 4) 大相撲名古屋場所（7 / 14木） 江崎 孝行 | 国際戦略本部本部長 医学部 |
| | 5) 高山1泊旅行（7 / 21木～22金） 松本 忠博 | 工学部 (国際戦略本部本部長 速水 悟代理) |
| 広報担当 | 太田 孝子 吉成 祐子 | 留学生センター |
| 日本語担当 | 橋本 慎吾 | 留学生センター |
| 会計監査 | 山内 亮 | 国際戦略本部本部長 応用生物科学部 |
| 医療担当 | 山本眞由美 | 保健管理センター |
| 派遣コーディネーター | 太田 孝子 | 留学生センター |

編集後記

サマースクール（受入）報告書の編集を担当いたしました。毎年、秋も深まるころに報告書をまとめるので、スウェーデンから17名、韓国から3名の学生が集まって一夏を過ごしたサマースクールが、遠い昔のここのように思います。

日程表を振り返りながら、イベントの内容や状況、学生の顔を思い出しつつ作業を進めていくことになるのですが、なかなか作文や原稿の文面だけではピンとこないときもあります。そんな時、写真は有効です。その時の印象や気持ちも思い出することができます。また、編集者である私が参加していない授業やエクスカージョンであっても、写真に映し出される学生達の様子を見れば、彼らにとってどんなものであったか想像がつかます。どんな言葉で語るより、写真一枚がわかりやすい資料となることは多々あります。

今年、特に写真の重要さを感じるの、なかなかいい写真が見つからず、あまり報告書に載せられなかったという反省があるからです。カメラ目線での写真ではただの記念写真になりますし（もちろんそれにも意味はありますが）、さりげなく写真を撮るにはタイミングも難しいですし、素人ではぶれることもあります。今回は関係各位にお願いし、サマースクールの様子がよくわかる写真をたくさん発掘できるよう、がんばりたいと思います。

また写真といえば、今回のサマースクール生の感想文では写真が主役になっています。日本語授業の課題として、日本滞在中の「心に残る1枚」をとり、それを元に感想文を書くという試みを行いました。20名のサマースクールの目でみた1枚とともに、感想文を楽しんでいただけたらと思います。（よ）

今年のサマースクール（派遣）は、オーストラリアのグリフィス大学に16名、韓国のソウル科学技術大学に6名、合計22名が参加した。グリフィス大学は昨年の17名に続く人気であり、ソウル科学技術大学は13人の希望者を6名（割り当て枠）にまで絞った数である。

例年通り、韓国への希望者は多いのだが、もう一つの協定校木浦大学には何度連絡しても応答がなく、サマースクールが実施されたのかどうかも不明のままであり、この点は残念だった。

今年の特記事項は、JASSO（独立行政法人 日本学生支援機構）の「SV（ショートビジット）プログラム」への申請が採択され、グリフィス大学参加者には各16万円、ソウル科技大学参加者には各8万円の奨学金を授与できたことである。個人的には趣旨や期間、方法などの点で賛同しかねるプログラムであり、学生からの“感謝の言葉”もほとんどなかったのだが、未曾有の災害の中で捻出された奨学金はきっと有効に使われたことと思う。

何人かの学生は帰国直後に来室してくれ、それぞれが体験したことを熱く語ってくれたが、派遣期間の長短に関わらず、参加者各自が多くのことを学び、感じ、考えたことが強く伝わって来た。初めて、本気で自分と向き合ったという学生もいた。こういう学生の変化や気づきは何よりの喜びである。各自の文章には、そのような成長の跡が垣間見えるが、読者諸氏にもその点が伝われば幸いである。何よりも、サマースクールで得た多くの体験は、参加者各自の“課題”となって問い直されていることだろうが、各自が“今現在も”与えられた課題を忘れずに、有意義な学生生活を過ごしてほしいと願っている。

サマースクール実施の陰には、語学研修の講師を引き受けてくれた留学生たち（英語：バド君、アシュリーさん、アダム君、ゲリー君、ハングル：ナレさん、ミジさん）、留学支援室の迫千尋氏、飯沼美登里氏、生協の佐々木英之氏、留学生センターの朔川美重子氏の協力があった。感謝し、記しておきたい。（お）

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2011報告書

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
発行年月日 2011年12月
発 行 者 岐阜大学
電 話 058-293-3392
F A X 058-293-2143
印 刷 西濃印刷株式会社



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

